

「高等教育機関における人材育成」に関する実態調査

《2017 年(平成 29 年) 9 月～11 月実施》

報 告 書

平成 30 年 6 月

一般財団法人 日本生涯学習総合研究所

<https://www.shogai-soken.or.jp/>

「高等教育機関における人材育成」に関する実態調査 報告書

目次

※項目をクリックすると該当箇所へ移動

調査概要	3
回答者の属性	4
1. 調査票発送数・回答数	4
2. 所在地	5
3. 学生数・組織編成	6
4. 学問系統	7
集計結果と分析	9
1. 各能力育成のための授業の実施	9
●全体	10
●設置者別の比較	10
●大学と大学院の比較	10
●学問系統による比較	10
2. 育成重視度の順位	11
3. 実際に導入している教育施策	14
●設置者別，大学・大学院の比較	16
●設置者別の比較，および大学と大学院の比較	17
●学問系統による比較	17
4. 入学時点・卒業時点での能力到達度	18
【学部】	19
●入学時点・卒業時点での能力の到達度	26
●入学時点から卒業時点への推移	27

【修士課程】	28
●入学時点・卒業時点の能力の到達度	35
●入学時点から卒業時点へ能力の到達度の推移	36
【博士課程】	37
●入学時点・卒業時点の能力の到達度	44
●入学時点から卒業時点への能力の到達度の推移	45
【大学】と【大学院】の比較	46
●入学時点	46
●卒業時点	46
5. 能力の到達度分析と能力の伸びに効果のある教育施策分析	47
●入学時点・卒業時点での能力到達度の因子分析	47
●階層クラスタ分析の結果	52
●能力の伸びに効果のあると考えられる教育施策	53
<参考> 高等教育期に習得が求められていると考えられる能力	54

調査概要

1. 調査内容

社会の中で生き抜く対応力や物事への取り組みの姿勢、学力観の変化により重要視されるようになった「知識・技能を習得し、それらを活用して、自ら考え、判断し、表現する力や、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」に関する調査

2. 調査実施期日

2017 年（平成 29 年）9 月 27 日発送，11 月 10 日締切

3. 調査対象

全国の大学の学部長，および大学院の研究科長 ※調査票発送数は，次頁参照

4. 調査項目

質問番号		質問内容
学部・修士	博士	
質問 1	質問 5	授業実施状況について
質問 2	質問 6	育成重要度の順位について
質問 3	質問 7	教育施策の導入状況について
質問 4	質問 8	入学時点・卒業時点での能力到達度について * 卒業時の到達目標を「5」として，相対的な到達度を評価

※大学・大学院には，ともに同じ質問内容で実施

5. データ処理に関する補足

●データクリーニング

無効回答（指定数を超えて選択，選択箇所不明），記載ミスについて修正・無効扱い，学問系統の記述内容が選択肢に振り分け可能な場合について修正している場合がある。

●母数（N）

質問項目によって無効回答・無回答の扱いが異なる。そのため，母数（N=●）が異なっている場合がある。

大学院において，属性以外のすべての項目に無回答だった 7 件について，質問 1 以降を無効回答にしたため，属性の母数（N）と質問 1 以降の母数（N）は異なる。

●大学について

大学院の修士課程，博士課程との 3 者で比較をしている場合は，【学部】と表記している。

●専門職大学院について

専門職学位課程については，修士課程に含めて集計し，表記は【修士課程】としている。

回答者の属性

質 問 内 容			表番号
1. 調査票発送数・回答数			表 1
2. 所在地			表 2
3. 学生数・組織編成	【大学】	大学の全学生数	表 3-1
		回答学部 of 学生数	表 3-2
	【大学院】	回答研究科 of 学生数	表 4-1
		組織編成	表 4-2
4. 学問系統	学問系統区分表		表 5
	【大学】		表 6-1
	【大学院】	修士課程	表 6-2
		博士課程	表 6-3
		専門職学位課程	表 6-4

1. 調査票発送数・回答数

表 1 調査票発送数・回答数

	大学				大学院								
	総計	国立	公立	私立	総計		国立		公立		私立		不明
					うち、専門職 大学院		うち、専門職 大学院		うち、専門職 大学院		うち、専門職 大学院		
発送数	2273	347	176	1750	2009		510		178		1321		
回答数	502	124	40	338	454	38	145	21	33	1	275	16	1
回収率	22.1%	35.7%	22.7%	19.3%	22.6%		28.4%		18.5%		20.8%		

※但し、属性以外の全てに無回答の 7 件を除く

2. 所在地

表 2 所在地 ※大学院は、修士課程と博士課程に分けて集計

所在地	大学				大学院									
	学部				修士					博士				
	総計	国立	公立	私立	総計	国立	公立	私立	不明	総計	国立	公立	私立	不明
北海道	30	9	2	19	27	10	1	16		18	9	1	8	
青森県	8			8	4	1		3		3	1		2	
岩手県	3			3	1			1		1			1	
宮城県	10	2		8	4	2		2		3	2		1	
秋田県	2	1	1		3	1	2			2	1	1		
山形県	3	2		1	2	1		1		2	1		1	
福島県	5	1	3	1	5	3	2			2	1	1		
茨城県	7	5	1	1	5	4		1		3	2		1	
栃木県	7	1		6	3			3		3			3	
群馬県	9	4	2	3	5	4		1		5	3		2	
埼玉県	22		1	21	12	2	1	9		8	1	1	6	
千葉県	14	2	1	11	10	2		8		7			7	
東京都	68	2		66	78	3	3	72		64	2	3	59	
神奈川県	17			17	21	5	1	15		18	5	1	12	
新潟県	13	8	2	3	5	4	1			3	1	1	1	
富山県	3	2		1	1	1								
石川県	10	1	1	8	8	2	2	4		4	1	2	1	
福井県	5	2	1	2	3	2		1						
山梨県	5	2	1	2	5	4		1		2	2			
長野県	10	6		4	8	6		2		3	3			
岐阜県	11	4		7	10	3	2	5		4	3	1		
静岡県	11	6	1	4	5	2	1	2		2	1		1	
愛知県	29	2	3	24	27	1	2	24		19	1	2	16	
三重県	4	3	1		5	4	1			3	2		1	
滋賀県	3		2	1	2	1	1			2	1	1		
京都府	10	2		8	23	5	2	16		15	5	2	8	
大阪府	35	2	3	30	22	2	3	17		15	2	2	11	
兵庫県	19	5		14	19	7	2	10		14	5	1	8	
奈良県	5	2		3	1	1				1	1			
和歌山県	1	1			1	1				1	1			
鳥取県	4	2	1	1	3	3				1	1			
島根県					4	4				2	2			
岡山県	12	2	1	9	11	2		9		7	2		5	
広島県	15		5	10	9	2		7		6	2		4	
山口県	12	6	2	4	7	5	1	1		2	1	1		
徳島県	3	1		2	6	3		3		5	3		2	
香川県	4	2		2	3	3				1	1			
愛媛県	2	2			2	2								
高知県	4	3	1		1	1				1	1			
福岡県	24	2	1	21	12	3	1	8		9	3	1	5	
佐賀県	4	3		1	3	2		1		3	2		1	
長崎県	8	5		3	5	3		2		3	2		1	
熊本県	7	6		1	8	3		5		3	1		2	
大分県	4	4			5	4	1			3	2	1		
宮崎県	5	3		2	3	3				2	2			
鹿児島県	5	3		2	6	6				4	4			
沖縄県	4	3	1		2	2				2	2			
無回答	6		2	4	7	1	3	2	1	6	1	2	2	1
	502	124	40	338	422	136	33	252	1	287	89	25	172	1

3. 学生数・組織編成

【大学】

表 3-1 【大学】大学の全学生数

大学全学生数		全体 (N=502)	国立 (N=124)	公立 (N=40)	私立 (N=338)
1	5,000 人以上	43.4%	75.8%	10.0%	35.5%
2	2,500 人以上 5,000 人未満	15.5%	18.5%	17.5%	14.2%
3	1,500 人以上 2,500 人未満	12.9%	0.8%	12.5%	17.5%
4	1,000 人以上 1,500 人未満	12.9%	3.2%	32.5%	14.2%
5	500 人以上 1,000 人未満	10.6%	0.8%	20.0%	13.0%
6	500 人未満	4.4%	0.0%	7.5%	5.6%
	無回答	0.2%	0.8%	0.0%	0.0%

表 3-2 【大学】回答学部 of 学生数

学部学生数		全体 (N=502)	国立 (N=124)	公立 (N=40)	私立 (N=338)
1	2,500 人以上	7.0%	7.3%	0.0%	7.7%
2	1,000 人以上 2,500 人未満	27.5%	27.4%	20.0%	28.4%
3	500 人以上 1,000 人未満	34.9%	45.2%	42.5%	30.2%
4	250 人以上 500 人未満	21.5%	12.9%	25.0%	24.3%
5	250 人未満	9.0%	6.5%	12.5%	9.5%
	無回答	0.2%	0.8%	0.0%	0.0%

【大学院】

表 4-1 【大学院】回答研究科 of 学生数

研究科学生数		全体 (N=454)	国立 (N=145)	公立 (N=33)	私立 (N=275)	設置者 無回答 (N=1)
1	1,000 人以上	3.5%	6.9%	0.0%	2.2%	0.0%
2	500 人以上 1,000 人未満	3.7%	11.0%	0.0%	0.4%	0.0%
3	250 人以上 500 人未満	9.5%	15.9%	21.2%	4.7%	0.0%
4	100 人以上 250 人未満	18.5%	27.6%	15.2%	14.2%	0.0%
5	50 人以上 100 人未満	15.9%	15.9%	24.2%	14.9%	0.0%
6	50 人未満	48.5%	22.8%	39.4%	62.9%	100.0%
	無回答	0.4%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%

表 4-2 【大学院】組織編成 ※複数回答あり

組織編成		全体 (N=454)	国立 (N=145)	公立 (N=33)	私立 (N=275)	設置者無回答 (N=1)
1	学部 of 教育研究機関を母体とする一般研究科・専攻	84.6%	78.6%	87.9%	87.3%	100.0%
2	学部横断的な、あるいは学際的な教育研究を行う研究科（独立研究科・専攻）	7.9%	11.7%	9.1%	5.8%	0.0%
3	学部を置かない大学院 of のみの大学（独立大学院）	6.6%	7.6%	3.0%	6.5%	0.0%
4	複数の大学が連携して組織する研究科（連合大学院）	1.1%	2.8%	0.0%	0.4%	0.0%
5	学外 of 研究所等と連携する研究科（連携大学院）	0.4%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	0.9%	1.4%	0.0%	0.7%	0.0%

4. 学問系統

表5の学問区分72項目^{注1)}について、該当する項目に回答してもらった結果を、5つの系統「人文科学」、「社会科学」、「自然科学」、「総合系」、「その他」の区分で集計したものが、表6-1～表6-3である。また、専門職学位課程については、表6-4に別に集計している。

なお、「その他」については、具体的な記述内容をもとに当財団で振り分けていることがある。

注1) 「平成29年度科学研究費助成事業 系・分野・分科・細目表」、旺文社「螢雪時代4月臨時増刊 全国大学 学部・学科案内号(2018年入試対策用) 学部系統・学科分野」を参考にして、当財団で区分

表5 学問系統区分表

学問系統	学問分野
人文科学	文学系 1. 文学
	語学系 2. 語学 3. 言語学
	教育学系 4. 教育学 5. 教員養成
	人文学・教養学・人間科学系 6. 文化学 7. 教養学 8. コミュニケーション学 9. 人間科学
	10. 哲学 11. 史学,地理学 12. 心理学
社会科学	経済学・経営学・商学系 13. 経済学 14. 経営学 15. 商学 16. 会計学
	17. 経営情報学
	法学系 18. 法学 19. 政治学
	社会学系 20. 社会学 21. 福祉学 22. 観光学 23. メディア学
	24. 国際関係学 25. 国際文化学
自然科学	工学系 26. 機械工学 27. 情報工学 28. 材料工学 29. 資源工学
	30. 電気・電子工学 31. 建築学 32. 土木工学 33. 生物工学
	34. 応用化学 35. 医用・生体工学 36. その他工学系
	理学系 37. 数学,情報科学 38. 物理学 39. 化学 40. 生物学,生命科学
	41. 地学 42. 環境科学 43. 宇宙科学
	農学・獣医学畜産学・水産学系 44. 農学 45. 農芸化学 46. 獣医学 47. 畜産学
	48. 水産学 49. 森林科学 50. 生物生産学,生物資源学
	医学系 51. 医学
	歯学系 52. 歯学
	薬学系 53. 薬学
	栄養学系 54. 栄養学
	看護学系 55. 看護学 56. 医療学
総合系	総合科学系 57. 総合科学
	家政・生活科学系 58. 被服学 59. 児童学,こども学 60. 住居学 61. 食物学
	62. 家政系その他
	芸術学系 63. 美術 64. 音楽 65. 工芸 66. デザイン
	67. 芸術系その他
その他	体育・健康科学系 68. 体育学 69. 健康科学 70. 体育系その他
	その他の領域 71. メディア,コンテンツ
その他	その他 72. その他 具体的に

表6-1【大学】学問系統 ※複数回答あり

学門系統	全体 (N=502)	国立 (N=124)	公立 (N=40)	私立 (N=338)	系統別内訳	全体 (N=502)	国立 (N=124)	公立 (N=40)	私立 (N=338)
人文科学系	138 27.5%	32 25.8%	4 10.0%	102 30.2%	文学	47 9.4%	12 9.7%	1 2.5%	34 10.1%
					語学	55 11.0%	14 11.3%	3 7.5%	38 11.2%
					教育学	78 15.5%	18 14.5%	3 7.5%	57 16.9%
					人文学・教養学・人間科学	94 18.7%	20 16.1%	2 5.0%	72 21.3%
					経済学・経営学・商学	93 18.5%	30 24.2%	3 7.5%	60 17.8%
社会科学系	158 31.5%	39 31.5%	11 27.5%	108 32.0%	法学	44 8.8%	20 16.1%	3 7.5%	21 6.2%
					社会学	94 18.7%	25 20.2%	9 22.5%	60 17.8%
					工学	83 16.5%	33 26.6%	10 25.0%	40 11.8%
					理学	63 12.5%	31 25.0%	4 10.0%	28 8.3%
					農学・獣医学畜産・水産	36 7.2%	20 16.1%	4 10.0%	12 3.6%
自然科学系	275 54.8%	87 70.2%	30 75.0%	158 46.7%	医学	26 5.2%	13 10.5%	2 5.0%	11 3.3%
					歯学	11 2.2%	6 4.8%	0 0.0%	5 1.5%
					薬学	26 5.2%	3 2.4%	1 2.5%	22 6.5%
					栄養学	28 5.6%	4 3.2%	3 7.5%	21 6.2%
					看護学	77 15.3%	13 10.5%	13 32.5%	51 15.1%
					総合科学	7 1.4%	3 2.4%	1 2.5%	3 0.9%
					家政・生活科学	47 9.4%	6 4.8%	5 12.5%	36 10.7%
					芸術学	39 7.8%	8 6.5%	3 7.5%	28 8.3%
総合系	126 25.1%	19 15.3%	11 27.5%	96 28.4%	体育・健康科学	37 7.4%	4 3.2%	4 10.0%	29 8.6%
					メディア・コンテンツ	15 3.0%	2 1.6%	0 0.0%	13 3.8%
その他	21 4.2%	5 4.0%	0 0.0%	16 4.7%	その他	21 4.2%	5 4.0%	0 0.0%	16 4.7%

表 6-2 【大学院】学問系統（修士課程）※複数回答あり

学門系統	全体 (N=384)	国立 (N=115)	公立 (N=32)	私立 (N=236)	系統別内訳	全体 (N=384)	国立 (N=115)	公立 (N=32)	私立 (N=236)
人文科学系	102 26.6%	27 23.5%	3 9.4%	72 30.5%	文学	44 11.5%	13 11.3%	0 0.0%	31 13.1%
					語学	42 10.9%	13 11.3%	0 0.0%	29 12.3%
					教育学	45 11.7%	16 13.9%	0 0.0%	29 12.3%
					人文学・教養学・人間科学	73 19.0%	20 17.4%	3 9.4%	50 21.2%
社会科学系	129 33.6%	38 33.0%	6 18.8%	84 35.6%	経済学・経営学・商学	82 21.4%	30 26.1%	1 3.1%	51 21.6%
					法学	40 10.4%	18 15.7%	2 6.3%	19 8.1%
					社会学	57 14.8%	21 18.3%	5 15.6%	31 13.1%
					工学	76 19.8%	35 30.4%	10 31.3%	31 13.1%
自然科学系	203 52.9%	83 72.2%	27 84.4%	93 39.4%	理学	62 16.1%	32 27.8%	4 12.5%	26 11.0%
					農学・獣医畜産・水産	33 8.6%	22 19.1%	4 12.5%	7 3.0%
					医学	30 7.8%	21 18.3%	2 6.3%	7 3.0%
					歯学	5 1.3%	4 3.5%	0 0.0%	1 0.4%
					薬学	14 3.6%	7 6.1%	2 6.3%	5 2.1%
					栄養学	15 3.9%	1 0.9%	1 3.1%	13 5.5%
					看護学	53 13.8%	20 17.4%	10 31.3%	23 9.7%
					総合科学	10 2.6%	4 3.5%	1 3.1%	5 2.1%
					家政・生活科学	22 5.7%	5 4.3%	1 3.1%	16 6.8%
					芸術学	27 7.0%	11 9.6%	5 15.6%	11 4.7%
総合系	73 19.0%	15 13.0%	9 28.1%	49 20.8%	体育・健康科学	21 5.5%	6 5.2%	2 6.3%	13 5.5%
					メディア・コンテンツ	16 4.2%	4 3.5%	1 3.1%	11 4.7%
その他	17 4.4%	6 5.2%	0 0.0%	11 4.7%	その他	17 4.4%	6 5.2%	0 0.0%	11 4.7%

表 6-3 【大学院】学問系統（博士課程）※複数回答あり

学門系統	全体 (N=283)	国立 (N=88)	公立 (N=25)	私立 (N=169)	系統別内訳	全体 (N=283)	国立 (N=88)	公立 (N=25)	私立 (N=169)
人文科学系	51 18.0%	12 13.6%	1 4.0%	38 22.5%	文学	25 8.8%	5 5.7%	0 0.0%	20 11.8%
					語学	23 8.1%	5 5.7%	0 0.0%	18 10.7%
					教育学	24 8.5%	6 6.8%	0 0.0%	18 10.7%
					人文学・教養学・人間科学	43 15.2%	12 13.6%	1 4.0%	30 17.8%
社会科学系	78 27.6%	21 23.9%	3 12.0%	53 31.4%	経済学・経営学・商学	51 18.0%	17 19.3%	0 0.0%	34 20.1%
					法学	21 7.4%	7 8.0%	1 4.0%	12 7.1%
					社会学	29 10.2%	9 10.2%	2 8.0%	18 10.7%
					工学	63 22.3%	31 35.2%	8 32.0%	24 14.2%
自然科学系	185 65.4%	75 85.2%	22 88.0%	88 52.1%	理学	57 20.1%	29 33.0%	3 12.0%	25 14.8%
					農学・獣医畜産・水産	27 9.5%	17 19.3%	4 16.0%	6 3.6%
					医学	36 12.7%	23 26.1%	2 8.0%	11 6.5%
					歯学	13 4.6%	4 4.5%	0 0.0%	9 5.3%
					薬学	25 8.8%	8 9.1%	2 8.0%	15 8.9%
					栄養学	10 3.5%	1 1.1%	1 4.0%	8 4.7%
					看護学	35 12.4%	18 20.5%	7 28.0%	10 5.9%
					総合科学	7 2.5%	3 3.4%	1 4.0%	3 1.8%
					家政・生活科学	14 4.9%	3 3.4%	0 0.0%	11 6.5%
					芸術学	16 5.7%	6 6.8%	3 12.0%	7 4.1%
総合系	44 15.5%	10 11.4%	6 24.0%	28 16.6%	体育・健康科学	13 4.6%	5 5.7%	2 8.0%	6 3.6%
					メディア・コンテンツ	10 3.5%	4 4.5%	0 0.0%	6 3.6%
その他	13 4.6%	4 4.5%	0 0.0%	9 5.3%	その他	13 4.6%	4 4.5%	0 0.0%	9 5.3%

表 6-4 【大学院】学問系統（専門職学位課程）

学門系統	全体 (N=38)
ビジネス・MOT	12 31.6%
会計	2 5.3%
公共政策	1 2.6%
公衆衛生	0 0.0%
知的財産	0 0.0%
臨床心理	1 2.6%
法科大学院	7 18.4%
教職大学院	11 28.9%
その他	4 10.5%

集計結果と分析

1. 各能力育成のための授業の実施（複数選択） 学部・修士課程：質問 1 博士課程：質問 5

次の 15 項目の能力について、能力育成のための授業を実施しているものを回答してもらった（【学部】表 7-1, 【修士課程】表 7-2, 【博士課程】表 7-3）。

1.基礎学力（読み・書き，計算等）		2.専攻分野に関する基礎知識・技能		3.高度な専門知識・技能		
4.問題解決力	5.批判的思考力	6.協調性	7.コミュニケーション力	8.主体性		
9.自己管理能力	10.統率力	11.創造性	12.探究心	13.倫理観	14.規範意識	15.公共性

この 15 項目は、当財団でまとめた報告書「『非認知能力の概念』に関する考察」（平成 30 年 3 月公表）において、高等教育機関に関する提言（「学士力」等）に対応するとしている能力である。当該報告書の中から、高等教育機関に関わりのある内容のみを抜き出して、本報告書 P.54 以降の「高等教育期に習得が求められていると考えられる能力」にまとめているので、参考にされたい。

なお、質問 2（または質問 6）では、本質問で「実施している」とされた項目についてのみ「育成の重視度」を回答してもらうという想定にしていた。しかし、本質問で無回答（実施していない）であっても、質問 2（または質問 6）で回答しているケースがあった。その場合でも本質問との整合性をとっていない。

表 7-1【学部】能力を育成するための授業の実施

	全体 (N=502)	国立 (N=124)	公立 (N=40)	私立 (N=338)
1. 基礎学力	69.9%	52.4%	60.0%	77.3%
2. 専攻分野に関する基礎知識・技能	98.2%	99.2%	97.5%	97.9%
3. 高度な専門知識・技能	80.1%	81.5%	87.5%	78.7%
4. 問題解決力	91.2%	96.0%	97.5%	88.8%
5. 批判的思考力	63.3%	78.2%	55.0%	58.9%
6. 協調性	75.7%	78.2%	72.5%	75.1%
7. コミュニケーション力	94.4%	94.4%	90.0%	95.0%
8. 主体性	78.9%	87.1%	75.0%	76.3%
9. 自己管理能力	51.0%	53.2%	40.0%	51.5%
10. 統率力	27.5%	37.1%	20.0%	24.9%
11. 創造性	62.9%	71.0%	62.5%	60.1%
12. 探究心	71.1%	79.0%	67.5%	68.6%
13. 倫理観	70.5%	81.5%	70.0%	66.6%
14. 規範意識	44.2%	56.5%	32.5%	41.1%
15. 公共性	49.2%	51.6%	42.5%	49.1%

表 7-2【修士】能力を育成するための授業の実施

	全体 (N=422)	国立 (N=136)	公立 (N=33)	私立 (N=252)
1. 基礎学力	19.4%	16.9%	27.3%	19.8%
2. 専攻分野に関する基礎知識・技能	85.3%	84.6%	84.8%	85.7%
3. 高度な専門知識・技能	92.2%	94.9%	93.9%	90.5%
4. 問題解決力	86.5%	91.9%	93.9%	82.5%
5. 批判的思考力	69.9%	75.7%	75.8%	65.9%
6. 協調性	38.2%	53.7%	48.5%	28.6%
7. コミュニケーション力	69.9%	80.1%	69.7%	64.3%
8. 主体性	65.2%	75.0%	66.7%	59.9%
9. 自己管理能力	30.6%	36.8%	30.3%	27.4%
10. 統率力	18.0%	27.2%	18.2%	13.1%
11. 創造性	64.0%	74.3%	78.8%	56.7%
12. 探究心	65.6%	72.8%	75.8%	60.7%
13. 倫理観	58.3%	69.1%	60.6%	52.4%
14. 規範意識	27.3%	36.0%	33.3%	21.8%
15. 公共性	25.4%	30.1%	30.3%	22.2%

表 7-3【博士】能力を育成するための授業の実施

	全体 (N=287)	国立 (N=89)	公立 (N=25)	私立 (N=172)
1. 基礎学力	12.9%	14.6%	4.0%	13.4%
2. 専攻分野に関する基礎知識・技能	65.0%	68.5%	56.0%	64.0%
3. 高度な専門知識・技能	94.1%	96.6%	100.0%	91.3%
4. 問題解決力	79.4%	86.5%	68.0%	76.7%
5. 批判的思考力	70.6%	76.4%	72.0%	66.9%
6. 協調性	25.5%	40.4%	20.0%	18.6%
7. コミュニケーション力	51.0%	69.7%	40.0%	42.4%
8. 主体性	61.5%	76.4%	52.0%	55.2%
9. 自己管理能力	36.0%	40.4%	32.0%	34.3%
10. 統率力	22.0%	32.6%	28.0%	15.7%
11. 創造性	71.7%	80.9%	72.0%	66.9%
12. 探究心	71.0%	76.4%	72.0%	68.0%
13. 倫理観	58.0%	70.8%	56.0%	51.7%
14. 規範意識	29.0%	41.6%	40.0%	20.9%
15. 公共性	24.8%	33.7%	28.0%	19.8%

●学問系統による比較

「5.批判的思考力」、「10.統率力」、「11.創造性」、「13.倫理観」について、学問系統ごとと比較した結果が、表 7-4 である。この 4 項目は、当財団で作成した「『各発達段階において習得が要求される非認知能力』の要素概念図」（前出「『非認知能力の概念』に関する考察」P.3 図 2 参照）において、中等教育期の高等学校教育期後半から必要とされてくると考えた能力に該当する。

表 7-4【学問系統別】能力を育成するための授業

	学部					修士課程					博士課程				
	人文科学系 (N=138)	社会科学系 (N=158)	自然科学系 (N=275)	総合系 (N=126)	その他 (N=21)	人文科学系 (N=102)	社会科学系 (N=129)	自然科学系 (N=203)	総合系 (N=73)	その他 (N=17)	人文科学系 (N=51)	社会科学系 (N=78)	自然科学系 (N=185)	総合系 (N=44)	その他 (N=13)
5. 批判的思考力	73.9%	74.7%	58.9%	55.6%	61.9%	77.5%	76.7%	64.0%	67.1%	82.4%	84.3%	75.6%	68.6%	65.9%	69.2%
10. 統率力	26.8%	27.2%	27.6%	31.7%	23.8%	10.8%	11.6%	20.2%	15.1%	23.5%	15.7%	10.3%	30.3%	18.2%	15.4%
11. 創造性	65.9%	62.7%	63.3%	65.9%	42.9%	57.8%	62.0%	69.0%	69.9%	76.3%	78.4%	65.4%	73.0%	68.2%	100.0%
13. 倫理観	58.7%	54.4%	85.5%	61.9%	71.4%	54.9%	48.1%	73.4%	50.7%	47.1%	54.9%	41.0%	69.7%	47.7%	38.5%

●全体

「10.統率力」育成のための授業実施率は全体的に低く、「14.規範意識」、「15.公共性」の実施率も高くない。

●設置者別の比較

【学部】

「5.批判的思考力」、「10.統率力」は、国立に比べ、公立、私立の実施率が低く、両者は同程度。

「14.規範意識」は、国立>私立>公立の順に概ね 10 ポイントずつの差。

【修士課程】

「5.批判的思考力」、「14.規範意識」は、私立の実施率が 10 ポイント程度低く、「6.協調性」、「11.創造性」は、20 ポイント近く低い。

【博士課程】

「10.統率力」、「14.規範意識」の実施率は全体的に高くなく、私立が特に低い。

●大学と大学院の比較

「1.基礎学力」、「6.協調性」、「7.コミュニケーション力」、「15.公共性」について、大学と大学院の違いが 20 ポイント以上と顕著である。

「9.自己管理能力」、「14.規範意識」、「15.公共性」の実施率は、大学に比べ大学院が低く、修士・博士は同程度。

2. 育成重視度の順位

学部・修士課程 : 質問 2
博士課程 : 質問 6

前述の 15 項目のうち、高等教育機関において特に求められていると考えた次の 6 項目の能力について、能力育成の重要度が最も高い能力を「1」とし、重複なしで 1 位～6 位の順位付けをしてもらった。この結果を得点換算^{注2)}して集計した（【学部】表 8-1、図 1-1、【修士課程】表 8-2、図 1-2、【博士課程】表 8-3、図 1-3）。

①問題解決力 ②批判的思考力 ③協調性 ④コミュニケーション力 ⑤主体性 ⑥創造性

なお、質問 1（または質問 5）では、本質問で「実施している」とされた項目についてのみ「育成の重視度」を回答してもらうという想定にしていた。しかし、本質問で無回答（実施していない）であっても、質問 1（または質問 5）で回答しているケースがあった。その場合でも本質問との整合性をとっていない。

注 2) 1 位 : 6 点, 2 位 : 5 点, 3 位 : 4 点, 4 位 : 3 点, 5 位 : 2 点, 6 位 : 1 点で換算

表 8-1 【学部】能力育成の重視度

		問題解決力	批判的思考力	協調性	コミュニケーション力	主体性	創造性
総得点 (全体)		2,375	1,141	1,437	2,190	1,838	1,070
割合		23.6%	11.4%	14.3%	21.8%	18.3%	10.6%
重要度の順位	1位	230	30	13	124	75	22
	2位	96	53	60	150	101	34
	3位	68	48	112	104	104	49
	4位	63	62	116	65	110	53
	5位	23	83	97	37	61	139
	6位	8	152	69	11	15	135
	回答数	488	428	467	491	466	432
総得点 (国立)		645	342	307	463	437	282
割合		26.1%	13.8%	12.4%	18.7%	17.6%	11.4%
重要度の順位	1位	82	8	4	10	15	1
	2位	17	25	6	39	18	15
	3位	10	14	21	23	32	20
	4位	7	15	29	26	30	12
	5位	3	19	25	16	18	28
	6位	1	30	32	6	3	29
	回答数	120	111	117	120	116	105
総得点 (公立)		190	89	111	161	152	89
割合		24.0%	11.2%	14.0%	20.3%	19.2%	11.2%
重要度の順位	1位	20	3	3	4	7	2
	2位	6	2	3	17	8	3
	3位	6	4	6	5	11	6
	4位	4	6	9	8	6	4
	5位	2	8	12	4	3	6
	6位	0	11	3	0	2	14
	回答数	38	34	36	38	37	35
総得点 (私立)		1,540	710	1,019	1,566	1,249	699
割合		22.7%	10.5%	15.0%	23.1%	18.4%	10.3%
重要度の順位	1位	128	19	6	110	53	19
	2位	73	26	51	94	75	16
	3位	52	30	85	76	61	23
	4位	52	41	78	31	74	37
	5位	18	56	60	17	40	105
	6位	7	111	34	5	10	92
	回答数	330	283	314	333	313	292

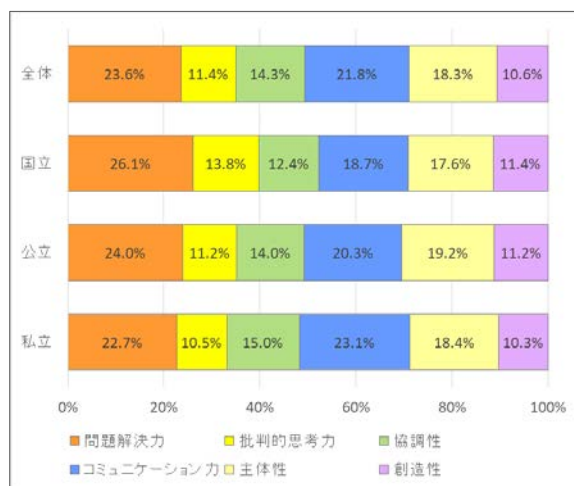


図 1-1 【学部】能力育成の重視度

表 8-2【修士】能力育成の重視度

		問題解決力	批判的思考力	協調性	コミュニケーション力	主体性	創造性
総得点 (全体)		2,080	1,471	592	1,141	1,436	1,251
割合		26.1%	18.5%	7.4%	14.3%	18.0%	15.7%
重要度の順位	1位	229	70	3	21	51	35
	2位	85	109	13	37	79	76
	3位	45	64	21	87	92	73
	4位	25	48	35	77	91	79
	5位	10	31	84	113	45	42
	6位	6	44	152	25	4	48
回答数		400	366	308	360	362	353
総得点 (国立)		685	480	208	381	462	413
割合		26.1%	18.3%	7.9%	14.5%	17.6%	15.7%
重要度の順位	1位	81	21	1	5	17	6
	2位	23	40	5	9	23	29
	3位	14	22	8	33	26	25
	4位	7	13	13	27	32	30
	5位	3	7	24	43	21	14
	6位	1	13	58	7	3	14
回答数		129	116	109	124	122	118
総得点 (公立)		144	113	48	79	117	121
割合		23.2%	18.2%	7.7%	12.7%	18.8%	19.5%
重要度の順位	1位	13	7			3	8
	2位	6	7		3	9	6
	3位	6	3	2	5	9	5
	4位	3	5	4	5	4	6
	5位	1	2	7	13	3	1
	6位	1	5	14	3		3
回答数		30	29	27	29	28	29
総得点 (私立)		1,249	872	336	680	852	714
割合		26.6%	18.5%	7.1%	14.5%	18.1%	15.2%
重要度の順位	1位	135	41	2	16	31	21
	2位	56	62	8	25	46	41
	3位	25	39	11	49	57	43
	4位	15	30	18	45	55	42
	5位	5	22	53	57	21	27
	6位	4	26	80	14	1	31
回答数		240	220	172	206	211	205

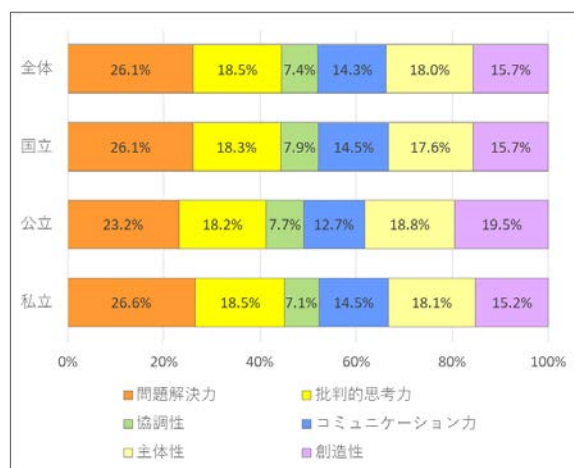


図 1-2【修士】能力育成の重視度

表 8-3【博士】能力育成の重視度

		問題解決力	批判的思考力	協調性	コミュニケーション力	主体性	創造性
総得点 (全体)		1,338	998	310	614	976	1,087
割合		25.1%	18.7%	5.8%	11.5%	18.3%	20.4%
重要度の順位	1位	131	49	1	4	32	57
	2位	57	57	6	17	57	75
	3位	39	56	7	30	60	62
	4位	31	46	8	48	71	30
	5位	9	16	47	108	21	10
	6位		25	128	25	4	12
回答数		267	249	197	232	245	246
総得点 (国立)		423	287	105	213	319	352
割合		24.9%	16.9%	6.2%	12.5%	18.8%	20.7%
重要度の順位	1位	44	9		2	11	20
	2位	14	16	2	8	19	25
	3位	14	20	3	7	21	16
	4位	9	17	2	20	19	11
	5位	3	7	17	33	7	3
	6位		8	43	7	3	4
回答数		84	77	67	77	80	79
総得点 (公立)		104	85	28	53	92	102
割合		22.4%	18.3%	6.0%	11.4%	19.8%	22.0%
重要度の順位	1位	9	5			2	7
	2位	5	3		1	7	7
	3位	2	5	1	3	7	4
	4位	5	4		5	5	2
	5位	1	2	5	10	1	1
	6位		4	14	1		1
回答数		22	23	20	20	22	22
総得点 (私立)		809	620	177	347	560	630
割合		25.7%	19.7%	5.6%	11.0%	17.8%	20.0%
重要度の順位	1位	78	34	1	2	19	30
	2位	38	38	4	8	30	43
	3位	23	31	3	20	32	42
	4位	17	25	6	23	47	16
	5位	4	7	25	65	13	6
	6位		13	71	16	1	7
回答数		160	148	110	134	142	144

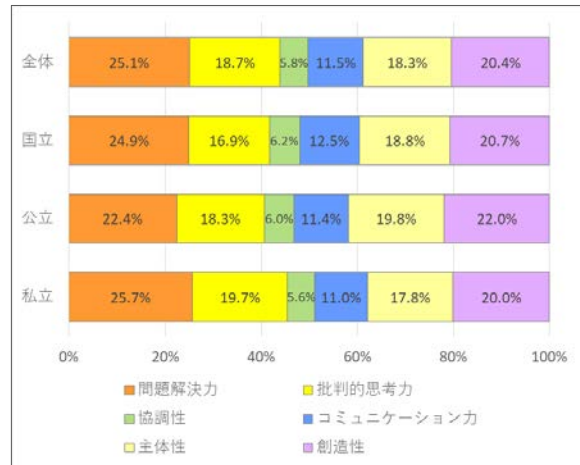


図 1-3【博士】能力育成の重視度

3. 実際に導入している教育施策

学部・修士課程 : 質問 3
博士課程 : 質問 7

「授業・演習」,「組織的な取り組み」,「組織的な支援」,「環境整備」に関する次の25項目について、教育施策として実際に導入しているものを回答してもらった（【学部】表9-1,【修士】表9-2,【博士】表9-3）。

授業・演習	1. 情報の検索方法を学ぶ授業 2. レポートの書き方を学ぶ授業 3. 自分の考えを解りやすく説明する手法を学ぶ授業 4. 現実の問題に対応できる解決手法を学ぶ授業 5. 発想方法（ブレインストーミング等）や思考法を学ぶ授業 6. 現実のデータを学生自身が分析する授業 7. プロジェクト学習（課題探究型学習）を取り入れた授業 8. 教室外学習（調査、体験学習等）を取り入れた授業 9. 学生同士の相互評価（ピア・アセスメント）を取り入れた授業 10. 各メンバーが異なる専門性を分担し、グループで問題解決する授業 11. 役割分担をせずに、グループで問題解決する授業 12. データに基づいて思考する態度を育成する授業 13. 一つの社会的現象を多様な立場から捉える授業 14. 論理的思考について学ぶ授業 15. 批判的思考について学ぶ授業 16. 創造性を育む授業
組織的な取り組み	17. 卒業研究、卒業制作、卒業論文、ゼミナール論文を卒業要件とする取り組み 18. 協調性を育成する取り組み（大学全体での取り組みを含む） 19. チャレンジ精神を育成する取り組み（大学全体での取り組みを含む） 20. 学生の起業家精神を育成する取り組み（大学全体での取り組みを含む）
組織的な支援	21. 学生の創造的な制作活動に対する支援（大学全体での取り組みを含む） 22. 学生の課外活動(留学、ボランティア活動、インターンシップ等)に対する支援（大学全体での取り組みを含む） 23. 学生の独創的な活動に対する支援（大学全体での取り組みを含む）
環境整備	24. 学生が利用できるラーニングコモンズを整備 25. 学生が e ラーニングで自発的に学習できる環境を整備

表 9-1【学部】実際に導入している教育施策

		全体 N=502	国立 N=124	公立 N=40	私立 N=338
授業・ 演習	1. 情報の検索方法を学ぶ授業	93.4%	92.7%	95.0%	93.5%
	2. レポートの書き方を学ぶ授業	93.2%	91.9%	92.5%	93.8%
	3. 自分の考えを解りやすく説明する手法を学ぶ授業	80.5%	83.9%	82.5%	79.0%
	4. 現実の問題に対応できる解決手法を学ぶ授業	71.7%	80.6%	75.0%	68.0%
	5. 発想方法（ブレインストーミング等）や思考法を学ぶ授業	50.6%	55.6%	42.5%	49.7%
	6. 現実のデータを学生自身が分析する授業	74.9%	86.3%	75.0%	70.7%
	7. プロジェクト学習（課題探究型学習）を取り入れた授業	73.8%	85.5%	77.5%	68.3%
	8. 教室外学習（調査、体験学習等）を取り入れた授業	87.8%	92.7%	92.5%	85.5%
	9. 学生同士の相互評価（ピア・アセスメント）を取り入れた授業	44.4%	43.5%	45.0%	44.7%
	10. 各メンバーが異なる専門性を分担し、グループで問題解決する授業	43.2%	48.4%	45.0%	41.1%
	11. 役割分担をせずに、グループで問題解決する授業	61.8%	71.8%	60.0%	58.3%
	12. データに基づいて思考する態度を育成する授業	70.1%	79.8%	67.5%	66.9%
	13. 一つの社会的現象を多様な立場から捉える授業	43.4%	52.4%	30.0%	41.7%
	14. 論理的思考について学ぶ授業	74.5%	81.5%	80.0%	71.3%
	15. 批判的思考について学ぶ授業	55.4%	71.8%	40.0%	51.2%
	16. 創造性を育む授業	57.2%	61.3%	60.0%	55.3%
組織的な 取り組み	17. 卒業研究、卒業制作、卒業論文、ゼミナール論文を卒業要件とする取り組み	87.6%	90.3%	90.0%	86.4%
	18. 協調性を育成する取り組み（大学全体での取り組みを含む）	65.5%	67.7%	52.5%	66.3%
	19. チャレンジ精神を育成する取り組み（大学全体での取り組みを含む）	46.0%	56.5%	32.5%	43.8%
組織的な 支援	20. 学生の起業家精神を育成する取り組み（大学全体での取り組みを含む）	20.1%	33.1%	12.5%	16.3%
	21. 学生の創造的な制作活動に対する支援（大学全体での取り組みを含む）	40.6%	46.0%	32.5%	39.6%
	22. 学生の課外活動(留学,ボランティア活動,インターンシップ等)に対する支援(大学全体での取り組みを含む)	89.4%	89.5%	92.5%	89.1%
環境 整備	23. 学生の独創的な活動に対する支援（大学全体での取り組みを含む）	39.8%	45.2%	30.0%	39.1%
	24. 学生が利用できるラーニングコモンズを整備	66.1%	71.0%	62.5%	64.8%
	25. 学生が e ラーニングで自発的に学習できる環境を整備	68.3%	77.4%	67.5%	65.1%

表 9-2【修士】実際に導入している教育施策

		全体 N=422	国立 N=136	公立 N=33	私立 N=252
授業・ 演習	1. 情報の検索方法を学ぶ授業	56.2%	55.1%	51.5%	57.5%
	2. レポートの書き方を学ぶ授業	53.3%	49.3%	39.4%	57.1%
	3. 自分の考えを解りやすく説明する手法を学ぶ授業	64.0%	67.6%	66.7%	61.5%
	4. 現実の問題に対応できる解決手法を学ぶ授業	69.4%	77.9%	66.7%	69.1%
	5. 発想方法（ブレインストーミング等）や思考法を学ぶ授業	40.0%	50.7%	39.4%	34.1%
	6. 現実のデータを学生自身が分析する授業	74.2%	77.9%	72.7%	72.2%
	7. プロジェクト学習（課題探究型学習）を取り入れた授業	52.1%	67.6%	45.5%	44.4%
	8. 教室外学習（調査、体験学習等）を取り入れた授業	62.8%	72.1%	60.6%	57.9%
	9. 学生同士の相互評価（ピア・アセスメント）を取り入れた授業	33.2%	40.4%	36.4%	29.0%
	10. 各メンバーが異なる専門性を分担し、グループで問題解決する授業	29.9%	41.9%	33.3%	23.0%
	11. 役割分担をせずに、グループで問題解決する授業	27.5%	39.0%	18.2%	22.6%
	12. データに基づいて思考する態度を育成する授業	71.8%	74.3%	63.6%	71.4%
	13. 一つの社会的現象を多様な立場から捉える授業	39.8%	42.6%	33.3%	39.3%
	14. 論理的思考について学ぶ授業	73.0%	75.0%	72.7%	71.8%
	15. 批判的思考について学ぶ授業	61.4%	66.9%	60.6%	58.3%
	16. 創造性を育む授業	55.5%	62.5%	57.6%	51.6%
組織的な 取り組み	17. 卒業研究、卒業制作、卒業論文、ゼミナール論文を卒業要件とする取り組み	79.4%	80.9%	69.7%	79.8%
	18. 協調性を育成する取り組み（大学全体での取り組みを含む）	27.5%	39.0%	15.2%	23.0%
	19. チャレンジ精神を育成する取り組み（大学全体での取り組みを含む）	29.9%	43.4%	21.2%	23.8%
組織的な 支援	20. 学生の起業家精神を育成する取り組み（大学全体での取り組みを含む）	17.8%	24.3%	12.1%	15.1%
	21. 学生の創造的な制作活動に対する支援（大学全体での取り組みを含む）	26.8%	32.4%	30.3%	23.4%
	22. 学生の課外活動(留学,ボランティア活動,インターンシップ等)に対する支援(大学全体での取り組みを含む)	47.9%	55.9%	51.5%	43.3%
環境 整備	23. 学生の独創的な活動に対する支援（大学全体での取り組みを含む）	29.6%	37.5%	39.4%	24.2%
	24. 学生が利用できるラーニングコモンズを整備	46.7%	51.5%	42.4%	44.8%
	25. 学生が e ラーニングで自発的に学習できる環境を整備	40.3%	52.2%	42.4%	33.7%

表 9-3【博士】実際に導入している教育施策

		全体 N=287	国立 N=89	公立 N=25	私立 N=172
授業・ 演習	1. 情報の検索方法を学ぶ授業	39.7%	42.7%	16.0%	41.9%
	2. レポートの書き方を学ぶ授業	36.6%	42.7%	8.0%	37.2%
	3. 自分の考えを解りやすく説明する手法を学ぶ授業	53.7%	59.6%	36.0%	52.9%
	4. 現実の問題に対応できる解決手法を学ぶ授業	57.5%	65.2%	40.0%	55.8%
	5. 発想方法（ブレインストーミング等）や思考法を学ぶ授業	39.4%	52.8%	36.0%	32.6%
	6. 現実のデータを学生自身が分析する授業	67.2%	73.0%	56.0%	65.7%
	7. プロジェクト学習（課題探究型学習）を取り入れた授業	36.9%	53.9%	12.0%	31.4%
	8. 教室外学習（調査、体験学習等）を取り入れた授業	42.2%	59.6%	40.0%	33.1%
	9. 学生同士の相互評価（ピア・アセスメント）を取り入れた授業	25.1%	34.8%	28.0%	19.8%
	10. 各メンバーが異なる専門性を分担し、グループで問題解決する授業	17.1%	27.0%	16.0%	12.2%
	11. 役割分担をせずに、グループで問題解決する授業	12.9%	21.3%	8.0%	9.3%
	12. データに基づいて思考する態度を育成する授業	67.2%	76.4%	56.0%	64.0%
	13. 一つの社会的現象を多様な立場から捉える授業	28.6%	33.7%	12.0%	28.5%
	14. 論理的思考について学ぶ授業	66.6%	75.3%	52.0%	64.0%
	15. 批判的思考について学ぶ授業	62.0%	67.4%	64.0%	58.7%
	16. 創造性を育む授業	58.9%	69.7%	52.0%	54.7%
組織的な 取り組み	17. 卒業研究、卒業制作、卒業論文、ゼミナール論文を卒業要件とする取り組み	74.6%	84.3%	72.0%	69.8%
	18. 協調性を育成する取り組み（大学全体での取り組みを含む）	21.3%	28.1%	8.0%	19.8%
	19. チャレンジ精神を育成する取り組み（大学全体での取り組みを含む）	28.9%	46.1%	28.0%	20.3%
組織的な 支援	20. 学生の起業家精神を育成する取り組み（大学全体での取り組みを含む）	14.6%	24.7%	4.0%	11.0%
	21. 学生の創造的な制作活動に対する支援（大学全体での取り組みを含む）	28.6%	34.8%	24.0%	26.2%
	22. 学生の課外活動(留学,ボランティア活動,インターンシップ等)に対する支援(大学全体での取り組みを含む)	38.0%	51.7%	28.0%	32.6%
環境 整備	23. 学生の独創的な活動に対する支援（大学全体での取り組みを含む）	30.7%	41.6%	24.0%	26.2%
	24. 学生が利用できるラーニングコモンズを整備	37.6%	43.8%	28.0%	36.0%
	25. 学生が e ラーニングで自発的に学習できる環境を整備	38.3%	50.6%	32.0%	33.1%

●設置者別、大学・大学院の比較

前頁の表9-1～表9-3において、10ポイント以上の差を基準として、設置者別に比較した特徴を整理すると、7つのカテゴリに分けることができる。これをさらに5割以上が導入しているものと5割未満になるものとに区分してまとめた（表10-1）。

表 10-1【大学・大学院比較】実際に導入している教育施策

●学部 ▲修士 ■博士（5割以上） ○学部 △修士 □博士（5割未満）
※区分が分かれる場合は3つの設置が多い方で表示
>：原則として、10ポイント以上の差

	国>公>私	国>公<私	国≒公>私	国≒公<私	国>私>公	国≒私>公	私>国>公
1. 情報の検索方法を学ぶ授業				● ▲		□※1	
2. レポートの書き方を学ぶ授業				●		□※1	△※2※3
3. 自分の考えを解りやすく説明する手法を学ぶ授業				● ▲		■※1	
4. 現実の問題に対応できる解決手法を学ぶ授業		▲※2	●※2			■※1	
5. 発想方法（ブレインストーミング等）や思考法を学ぶ授業		△※3	□※1※3			○※2※3	
6. 現実のデータを学生自身が分析する授業		●		▲		■※2	
7. プロジェクト学習（課題探究型学習）を取り入れた授業	●※2	△※1※3				□※1※3	
8. 教室外学習（調査、体験学習等）を取り入れた授業		▲※1※3		●			
9. 学生同士の相互評価（ピア・アセスメント）を取り入れた授業		□※2		△※2	○		
10. 各メンバーが異なる専門性を分担し、グループで問題解決する授業	△※2		□※4		○		
11. 役割分担をせずに、グループで問題解決する授業		●	△※1※4				
12. データに基づいて思考する態度を育成する授業		●	■※1			▲※2	
13. 一つの社会的現象を多様な立場から捉える授業				△	○※1※3	□※1※4	
14. 論理的思考について学ぶ授業			●※2	▲		■※1	
15. 批判的思考について学ぶ授業				▲ ■	●※1		
16. 創造性を育む授業			■	● ▲※5			
17. 卒業研究、卒業制作、卒業論文、ゼミナール論文を卒業要件とする取り組み			■	●		▲	
18. 協調性を育成する取り組み（大学全体での取り組みを含む）		△※1				●	□※1※4
19. チャレンジ精神を育成する取り組み（大学全体での取り組みを含む）		△※1	□※1		○※1※3		
20. 学生の起業家精神を育成する取り組み（大学全体での取り組みを含む）		○※1※4	△※2※4	□※1※4			
21. 学生の創造的な制作活動に対する支援（大学全体での取り組みを含む）			□※2	△※4		○※2	
22. 学生の課外活動(留学,ボランティア活動,インターンシップ等)に対する支援（大学全体での取り組みを含む）			□※1※3	▲※2	●		
23. 学生の独創的な活動に対する支援（大学全体での取り組みを含む）			□	△		○※2	
24. 学生が利用できるラーニングコモンズを整備				●	△※3	□※2	
25. 学生が e ラーニングで自発的に学習できる環境を整備	△※2※3	●※2	□※3				

※1) 3者間または2者間の差が20ポイント以上

※2) 最上位と最下位の差が10ポイント以上20ポイント未満、かつ2者間の差が6.5ポイント以上の場合、2者間の差がそれぞれ10ポイント未満でも「>」とした

※3) 5割未満（○△□）に区分しているが、最上位は50%以上

※4) 全体的にポイントが低く、最上位でも30%程度

※5) 例外：最上位の国立と最下位の私立の差が10.9ポイントだが、国立と公立の差が4.9ポイント、公立と私立の差が6.0ポイントであるため、「≒」として区分

●設置者別の比較、および大学と大学院の比較

次に、表 10-1 において設置者別の差が顕著な項目（※1 に該当）と、大学と大学院との差が 20 ポイント以上の項目のみをまとめた（表 10-2）。

表 10-2 【設置者、大学・大学院比較】実際に導入している教育施策についての差が顕著な項目

	設置者別の比較									大学と大学院の比較 (全体)		
	大学			修士			博士			大学	修士	博士
	国立	公立	私立	国立	公立	私立	国立	公立	私立			
1. 情報の検索方法を学ぶ授業							42.7%	16.0%	41.9%	93.4%	56.2%	39.7%
2. レポートの書き方を学ぶ授業							42.7%	8.0%	37.2%	93.2%	53.3%	36.6%
3. 自分の考えを解りやすく説明する手法を学ぶ授業							59.6%	36.0%	52.9%	80.5%	64.0%	53.7%
4. 現実の問題に対応できる解決手法を学ぶ授業							65.2%	40.0%	55.8%			
5. 発想方法（ブレインストーミング等）や思考法を学ぶ授業							52.8%	36.0%	32.6%			
6. 現実のデータも学生自身が分析する授業												
7. プロジェクト学習（課題探究型学習）を取り入れた授業				67.6%	45.5%	44.4%	53.9%	12.0%	31.4%	73.3%	52.1%	36.9%
8. 教室外学習（課外、体験学習等）を取り入れた授業							59.6%	40.0%	33.1%	87.8%	63.8%	42.2%
9. 学生同士の相互評価（ピア・アセスメント）を取り入れた授業												
10. 各メンバーが異なる専門性を分担し、グループで問題解決する授業										43.2%	29.9%	17.1%
11. 役割分担をせずに、グループで問題解決する授業				39.0%	18.2%	22.6%				61.8%	27.5%	12.9%
12. データに基づいて思考する態度を育成する授業							76.4%	56.0%	64.0%			
13. 一つの社会的現象を多様な立場から捉える授業	52.4%	30.0%	41.7%				33.7%	12.0%	28.5%			
14. 論理的思考について学ぶ授業							75.3%	52.0%	64.0%			
15. 批判的思考について学ぶ授業	71.8%	40.0%	51.2%									
16. 創造性を育む授業												
17. 卒業研究、卒業制作、卒業論文、ゼミナール論文を卒業要件とする取り組み												
18. 協調性を育成する取り組み（大学全体での取り組みを含む）				39.0%	15.2%	23.0%	28.1%	8.0%	19.8%	65.5%	27.5%	21.3%
19. チャレンジ精神を育成する取り組み（大学全体での取り組みを含む）	55.5%	32.5%	43.8%	43.4%	21.2%	23.8%	46.1%	28.0%	20.3%			
20. 学生の起業家精神を育成する取り組み（大学全体での取り組みを含む）	33.1%	12.5%	16.3%				24.7%	4.0%	11.0%			
21. 学生の創造的な制作活動に対する支援（大学全体での取り組みを含む）												
22. 学生の課外活動(留学、ボランティア活動、インターンシップ等)に対する支援（大学全体での取り組みを含む）							51.7%	28.0%	32.6%	89.4%	47.9%	38.0%
23. 学生の独創的な活動に対する支援（大学全体での取り組みを含む）												
24. 学生が利用できるラーニングコモンズを整備										66.1%	46.7%	37.6%
25. 学生が e ラーニングで自発的に学習できる環境を整備										68.3%	40.3%	38.3%

●学問系統による比較

前出の大学と大学院との比較において差が顕著だった項目のうち、大学と大学院との差が特に大きかった3項目（「11.役割分担をせずに、グループで問題解決する授業」、「18.協調性を育成する取り組み」、「22.学生の課外活動に対する支援」）について、学問系統別に比較すると次のようになる（表10-3）。

表 10-3 【学問系統別】実際に導入している教育施策

	学部					修士課程					博士課程				
	人文科学系 (N=138)	社会科学系 (N=158)	自然科学系 (N=275)	総合系 (N=126)	その他 (N=21)	人文科学系 (N=102)	社会科学系 (N=129)	自然科学系 (N=203)	総合系 (N=73)	その他 (N=17)	人文科学系 (N=51)	社会科学系 (N=78)	自然科学系 (N=185)	総合系 (N=44)	その他 (N=13)
11. 役割分担をせずに、グループで問題解決する授業	60.1%	60.8%	58.9%	55.6%	61.9%	30.4%	27.1%	24.1%	26.0%	29.4%	13.7%	9.0%	14.1%	6.8%	15.4%
18. 協調性を育成する取り組み	62.3%	62.0%	27.6%	31.7%	23.8%	27.5%	17.1%	28.6%	17.8%	35.3%	23.5%	10.3%	25.9%	11.4%	23.1%
22. 学生の課外活動に対する支援	94.2%	91.1%	63.3%	65.9%	42.9%	55.9%	46.5%	52.7%	53.4%	35.3%	51.0%	25.6%	44.3%	40.9%	46.2%

4. 入学時点・卒業時点での能力到達度

学部・修士課程：質問 4

博士課程：質問 8

次の26項目について、卒業時点の到達目標を「5」として、「入学時点」、「卒業時点」の相対的な到達度を評価してもらった（【学部】図2-1-①～図2-1-②⑥，【修士】図2-2-①～図2-2-②⑥，【博士】図2-3-①～図2-3-②⑥）。

1. 自分の意見や疑問を相手に解りやすく説明できる。
2. 自分も相手も尊重した言動をとることができる。
3. 自分のものと違う意見であっても受容できる。
4. グループの中での自分の役割を果たせる。
5. 異なる立場の相手とも協力できる。
6. いろいろなことに興味を持てる。
7. 他人に言われてするよりも何事も自分で進んでやる。
8. 人と違うことでも恥ずかしがらずにできる。
9. 自分の考えで行動できる。
10. 何事にも積極的に取り組める。
11. 興味を持ったことに対して深く追究できる。
12. 何事も人から言われたことをすぐには信じ込まず慎重に考えることができる。
13. 人と違うことを考えることが好きである。
14. 既存例から独自性を見出そうとする。
15. 独創的なアイデアを生み出そうとする。
16. 主観的な事柄と客観的な事柄とを区別できる。
17. 根拠に基づいた判断ができる。
18. 物事を筋道立てて考えることができる。
19. 問題の本質を的確に把握できる。
20. 多くの情報の中から問題解決に必要な情報を判別できる。
21. 問題解決のための情報を的確な方法で分析できる。
22. 自分の知識を問題解決に使える。
23. 問題解決の方法を自ら考えることができる。
24. 自分の先入観にとらわれずに物事を考えることができる。
25. 既成の枠組みにとらわれず新しい視点から物事を見ることができる。
26. 俯瞰的な視点で物事を考えることができる。

【学部】

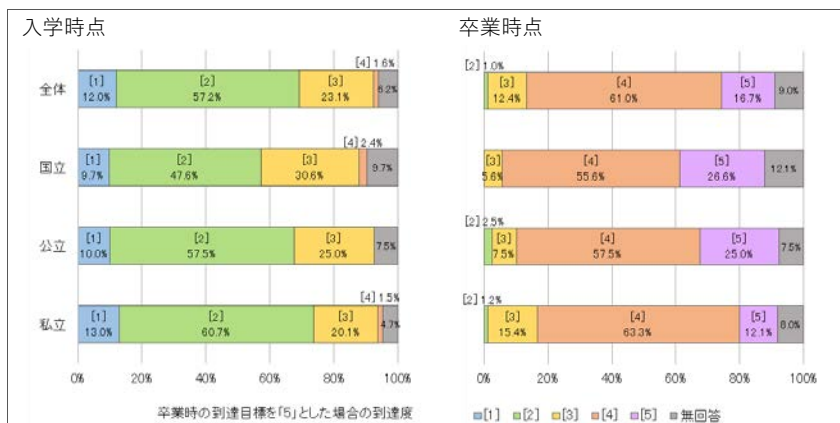


図 2-1-①【学部】 自分の意見や疑問を相手に解りやすく説明できる。

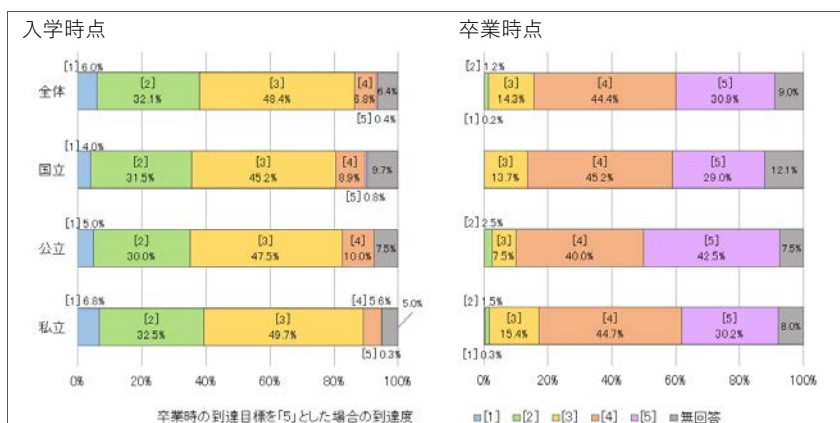


図 2-1-②【学部】 自分も相手も尊重した言動をとることができる。

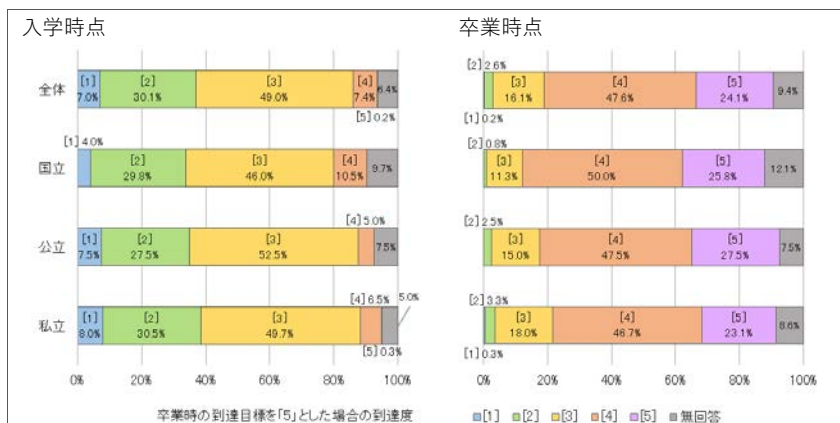


図 2-1-③【学部】 自分のものと違う意見であっても受容できる。

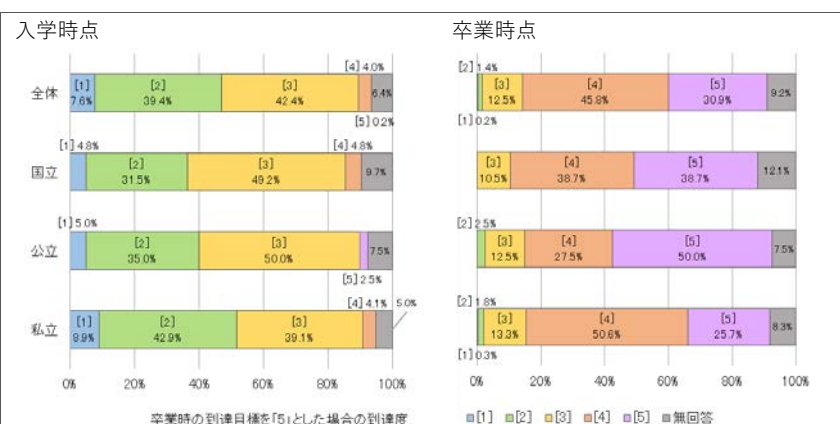
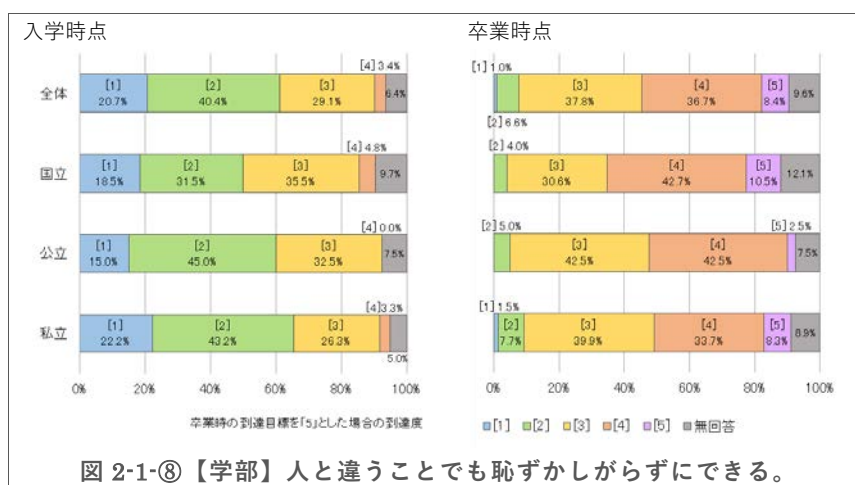
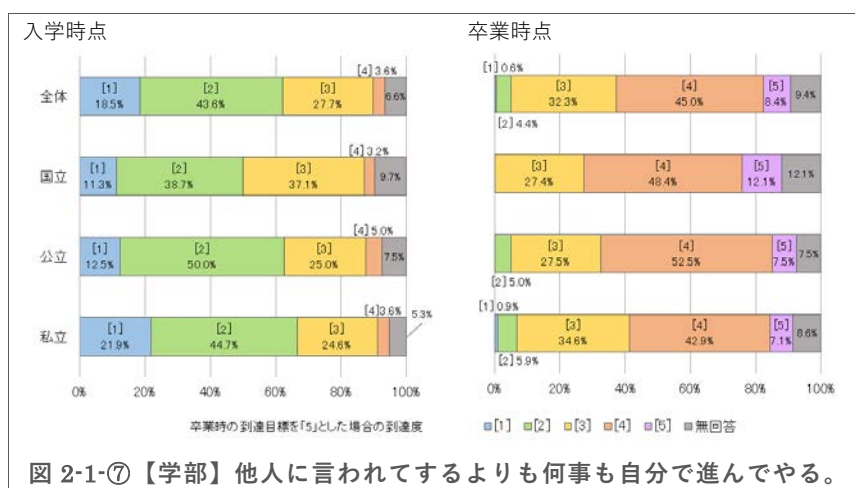
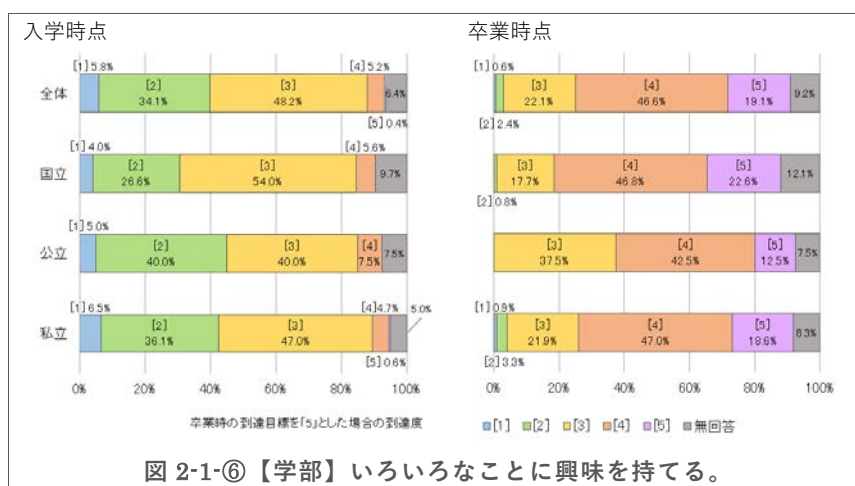
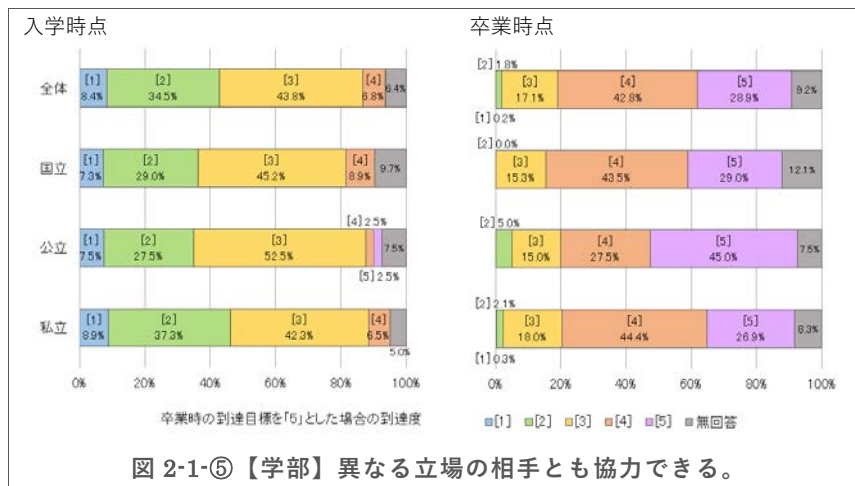
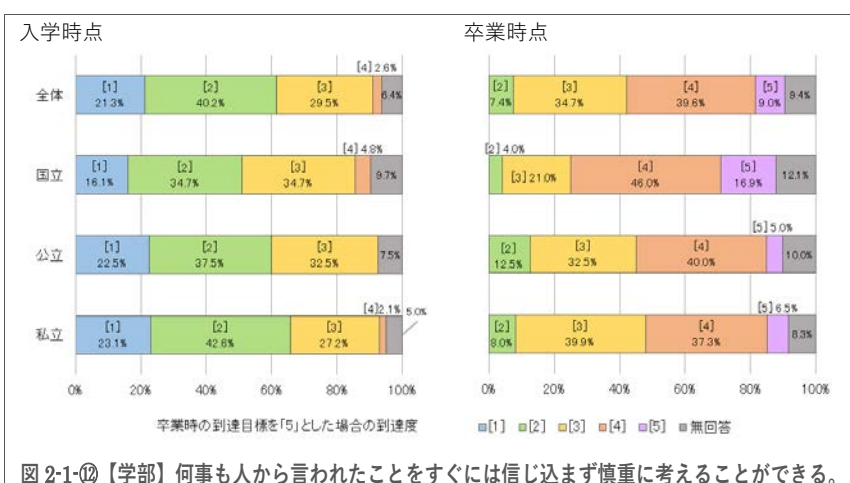
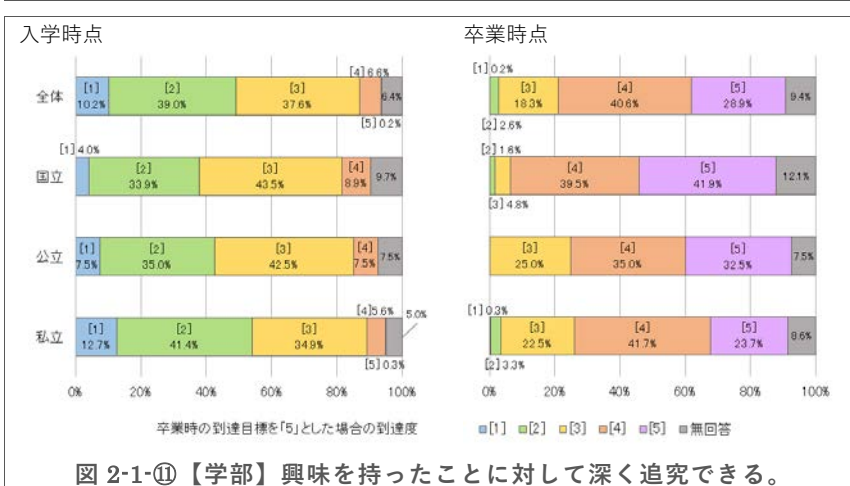
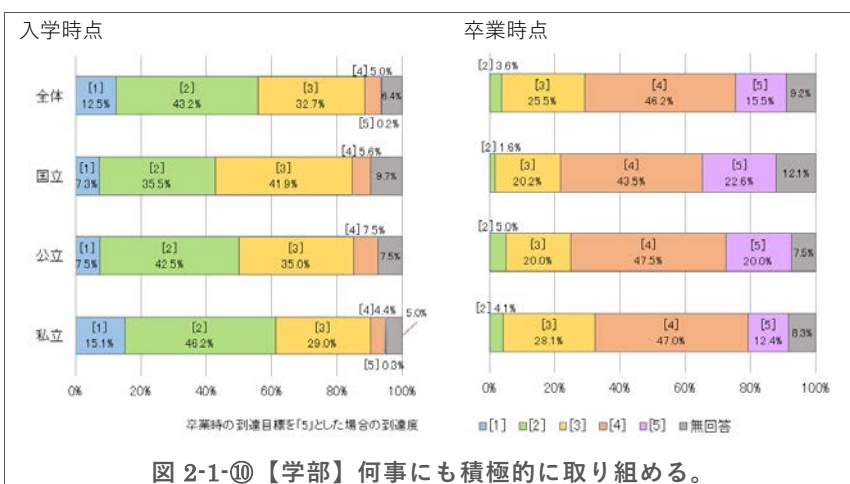
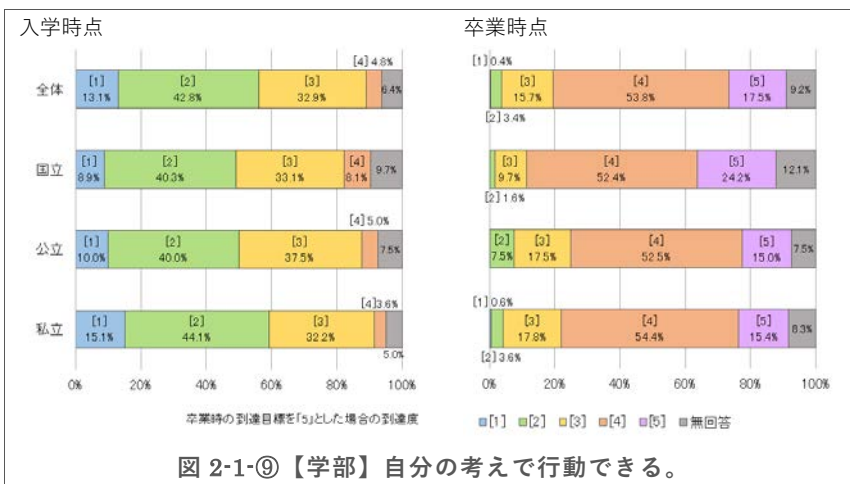
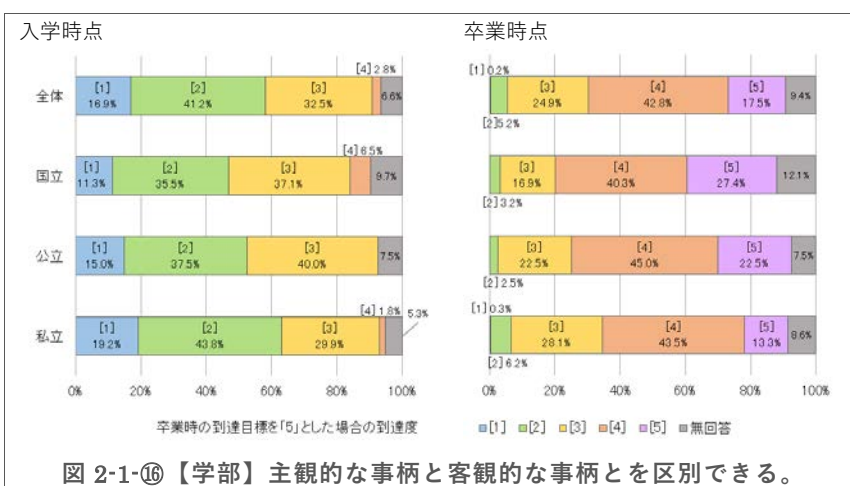
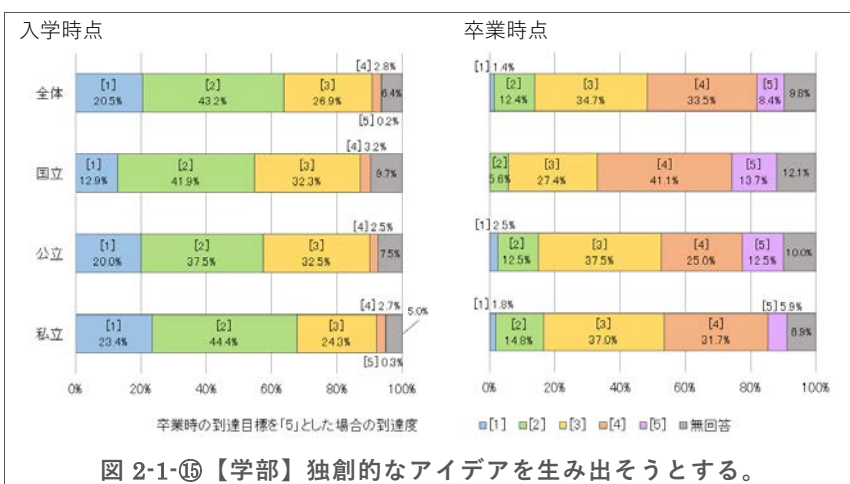
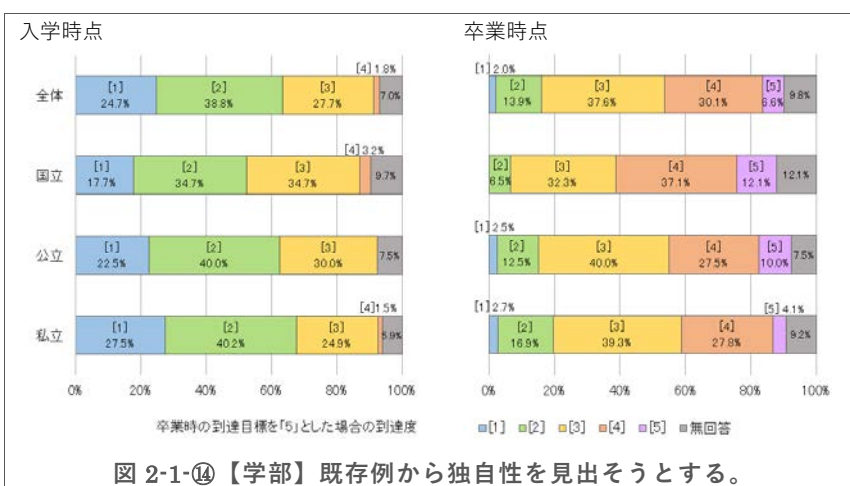
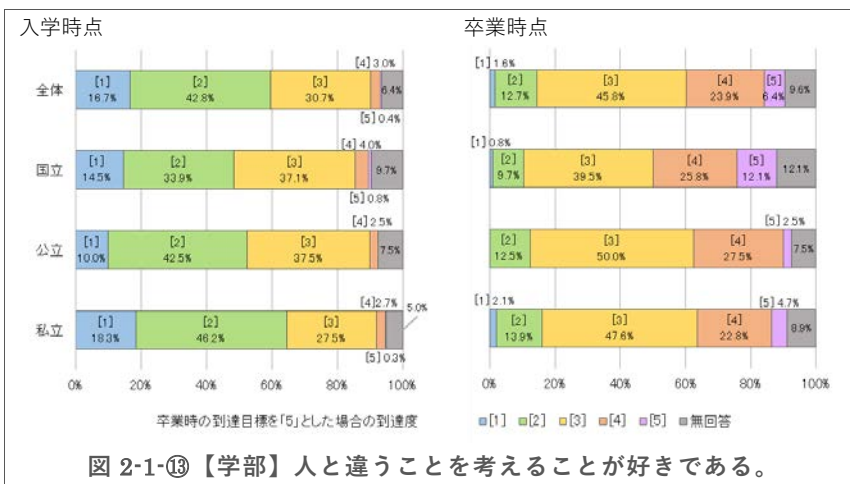


図 2-1-④【学部】 グループの中での自分の役割を果たせる。







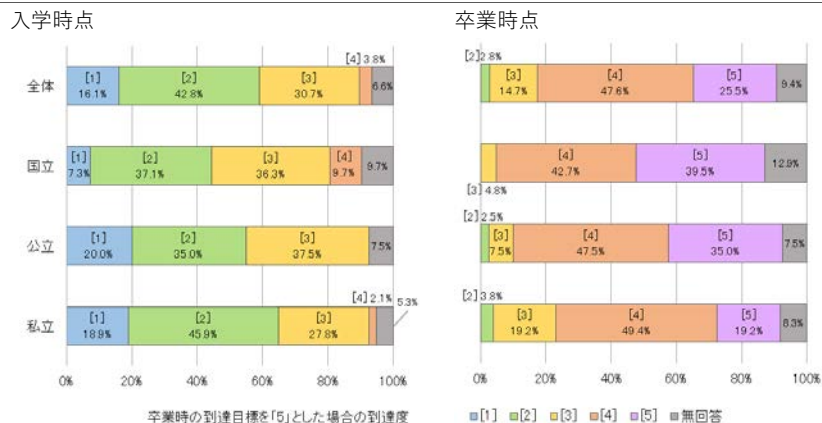


図 2-1-⑰【学部】 根拠に基づいた判断ができる。

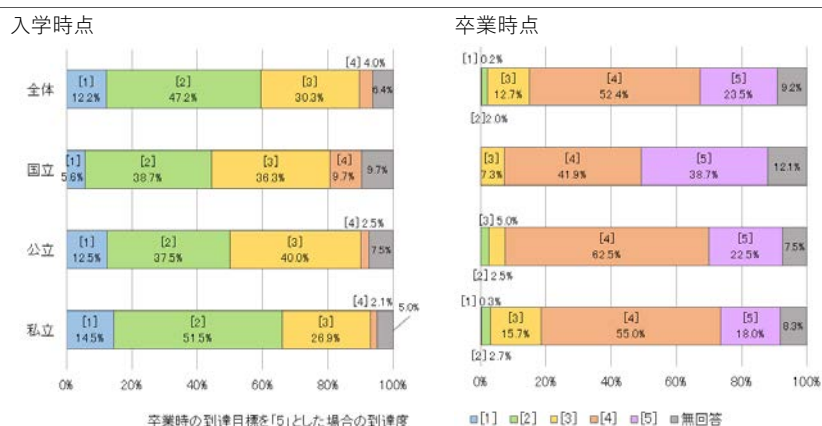


図 2-1-⑱【学部】 物事を筋道立てて考えることができる。

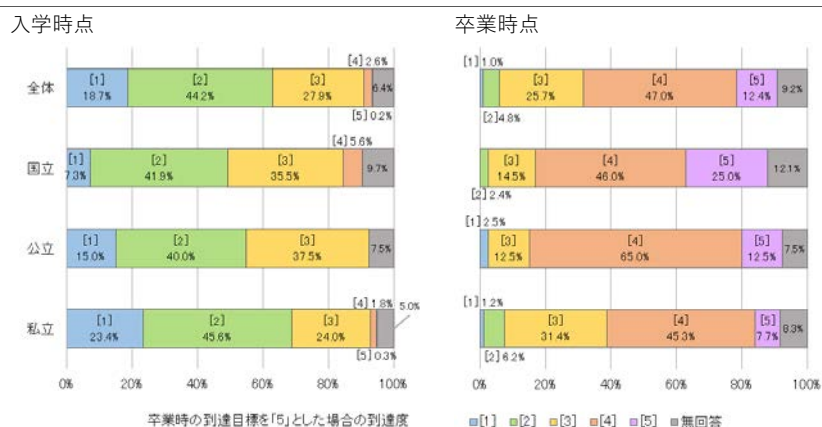


図 2-1-⑲【学部】 問題の本質を的確に把握できる。

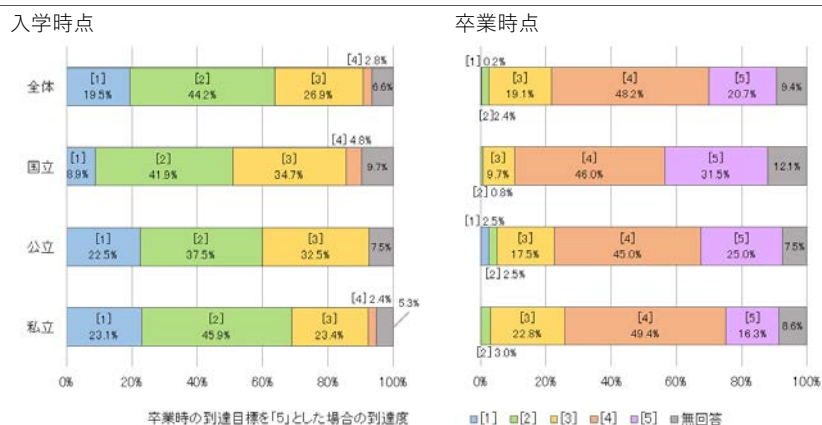


図 2-1-⑳【学部】 多くの情報の中から問題解決に必要な情報を判別できる。

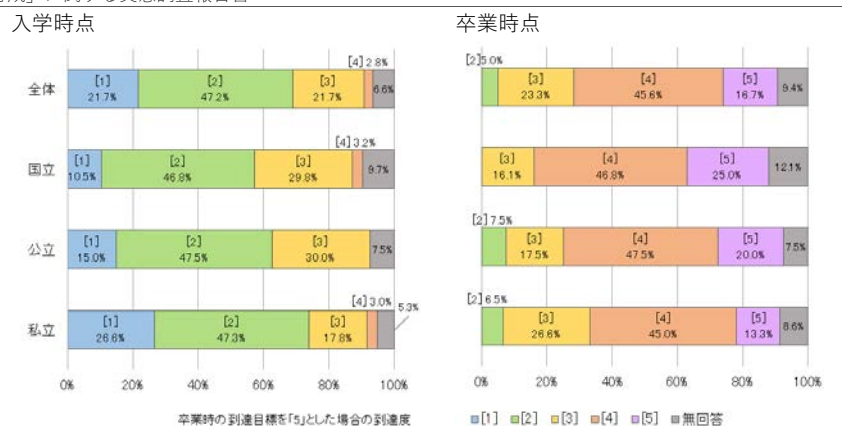


図 2-1-21 【学部】 問題解決のための情報を的確な方法で分析できる。

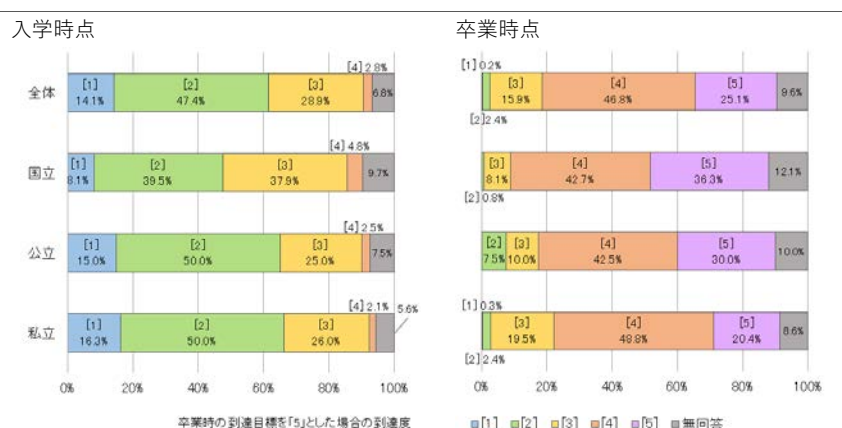


図 2-1-22 【学部】 自分の知識を問題解決に使える。

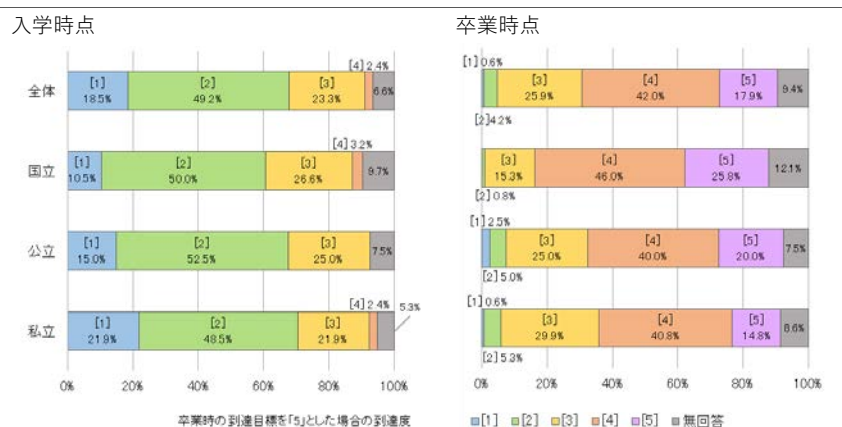


図 2-1-23 【学部】 問題解決の方法を自ら考えることができる。

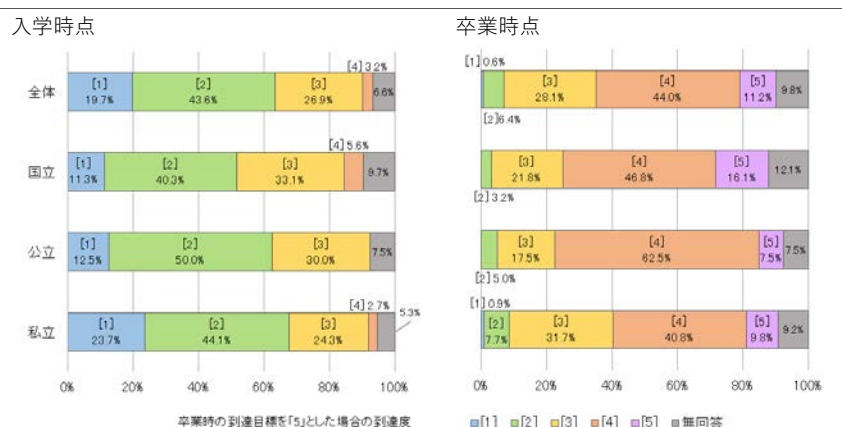


図 2-1-24 【学部】 自分の先入観にとらわれずに物事を考えることができる。

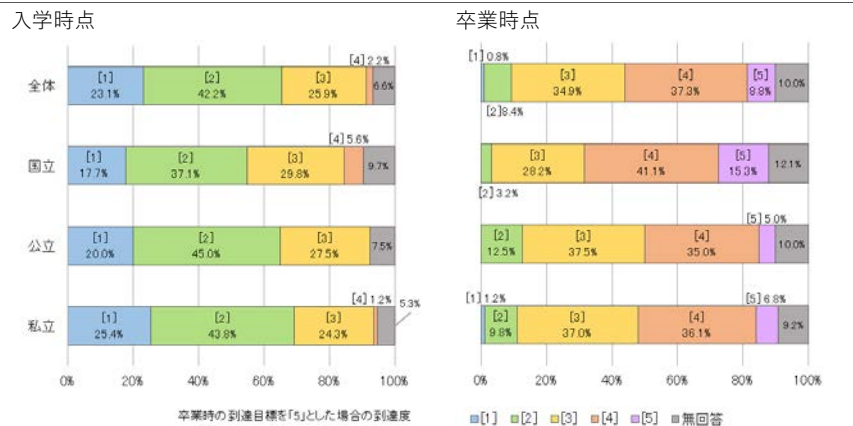


図 2-1-25 【学部】 既成の枠組みにとらわれず新しい視点から物事を見ることができる。

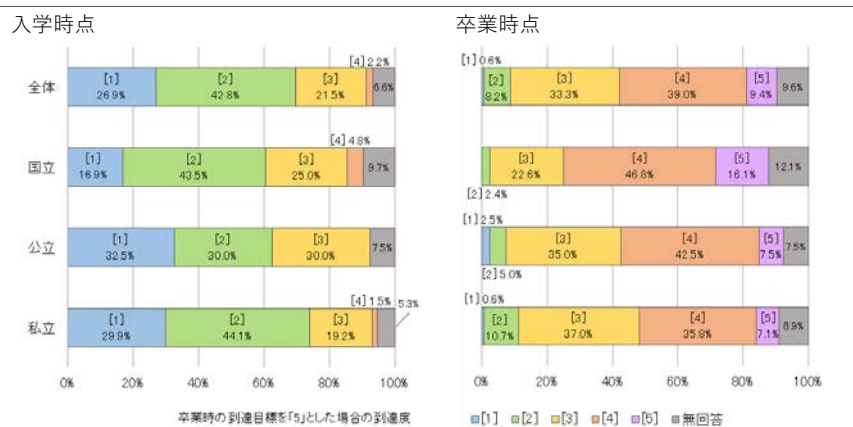


図 2-1-26 【学部】 俯瞰的な視点で物事を考えることができる。

●入学時点・卒業時点での能力の到達度

次の表 11-1-①は、図 2-1-①～図 2-1-②⑥を概観できるようにまとめたものである。

表 11-1-①【学部】入学時点・卒業時点での能力の到達度

※到達度を[1]～[5]で表記
※入学時点・卒業時点ともに[3]55%以上の項目なし
※参考には全体■を記載していない

	入学時点								卒業時点											
	[1]+[2]				[1] 20% 以上	参考 [3]		[5] 回答 あり	[4]+[5]				[1]の 回答 あり	[1][2]の 回答 なし	参考 [3]		[5] 10% 未満			
	65% 以上	55%～ 64%	45%～ 54%	45% 未満		35%～ 44%	45%～ 54%		45% 未満	45%～ 54%	55%～ 64%	65%～ 74%			75% 以上	35%～ 44%		45%～ 54%		
	高 ← 低								低 ← 高											
■全体 ●国立 ●公立 ●私立																				
1. 自分の意見や疑問を相手に解りやすく説明できる	■	●																		
2. 自分も相手も尊重した言動をとることができる																				
3. 自分のものと違う意見であっても受容できる																				
4. グループの中で自分の役割を果たせる																				
5. 異なる立場の相手とも協力できる																				
6. いろいろなことに興味を持てる																				
7. 他人に言われてするよりも何事も自分で進んでやる																				
8. 人と違うことでも恥ずかしがらずにできる																				
9. 自分の考えで行動できる																				
10. 何事にも積極的に取り組める																				
11. 興味を持ったことに対して深く追究できる																				
12. 何事も人から言われたことをすぐには信じ込まず慎重に考えることができる																				
13. 人と違うことを考えることが好きである																				
14. 既存例から独自性を見出そうとする																				
15. 独創的なアイデアを生み出そうとする																				
16. 主観的な事柄と客観的な事柄とを区別できる																				
17. 根拠に基づいた判断ができる																				
18. 物事を筋道立てて考えることができる																				
19. 問題の本質を的確に把握できる																				
20. 多くの情報の中から問題解決に必要な情報を判別できる																				
21. 問題解決のための情報を的確な方法で分析できる																				
22. 自分の知識を問題解決に使える																				
23. 問題解決の方法を自ら考えることができる																				
24. 自分の先入観にとらわれずに物事を考えることができる																				
25. 既成の枠組みにとらわれず新しい視点から物事を見ることができる																				
26. 俯瞰的な視点で物事を考えることができる																				

●入学時点から卒業時点への推移

さらに、入学時点が[1]または[2]の場合の卒業時点の到達度の推移をみると、次のようになる(表 11-1-②)。

表 11-1-②【学部】入学時点から卒業時点への能力到達度の推移

※卒業時点の到達目標を[5]として、「入学時点」、「卒業時点」の相対的な到達度を[1]～[5]で表記

〈入学時点の評価〉 〈卒業時点の評価〉	[1]			[2]	
	[2]	[3]	[4]or[5]	[3]	[4]or[5]
1. 自分の意見や疑問を相手に解りやすく説明できる。	0.4%	4.6%	6.8%	7.8%	47.8%
2. 自分も相手も尊重した言動をとることができる。	0.6%	2.8%	2.6%	6.4%	23.9%
3. 自分のものと違う意見であっても受容できる。	1.2%	3.2%	2.2%	6.6%	21.5%
4. グループの中での自分の役割を果たせる。	0.4%	3.0%	4.2%	6.6%	30.9%
5. 異なる立場の相手とも協力できる。	0.8%	4.4%	3.2%	9.0%	23.3%
6. いろいろなことに興味を持てる。	1.4%	3.4%	1.0%	11.6%	20.5%
7. 他人に言われてするよりも何事も自分で進んでやる。	2.8%	9.4%	6.0%	17.1%	23.3%
8. 人と違うことでも恥ずかしがらずにできる。	4.0%	10.2%	5.2%	18.5%	17.5%
9. 自分の考えで行動できる。	2.4%	3.6%	6.8%	10.2%	30.5%
10. 何事にも積極的に取り組める。	1.6%	6.6%	4.2%	14.5%	25.3%
11. 興味を持ったことに対して深く追究できる。	1.6%	4.0%	4.0%	11.8%	25.7%
12. 何事も人から言われたことをすぐには信じ込まず慎重に考えることができる。	4.0%	10.4%	6.2%	16.1%	18.9%
13. 人と違うことを考えることが好きである。	4.8%	8.8%	1.4%	21.9%	11.0%
14. 既存例から独自性を見出そうとする。	7.8%	10.0%	4.8%	18.3%	12.4%
15. 独創的なアイデアを生み出そうとする。	8.6%	7.4%	2.8%	21.1%	16.5%
16. 主観的な事柄と客観的な事柄とを区別できる。	3.8%	7.6%	5.2%	11.8%	26.1%
17. 根拠に基づいた判断ができる。	2.0%	6.8%	6.6%	7.0%	34.3%
18. 物事を筋道立てて考えることができる。	1.6%	4.0%	6.2%	8.0%	37.5%
19. 問題の本質を的確に把握できる。	3.2%	7.8%	6.4%	15.9%	25.7%
20. 多くの情報の中から問題解決に必要な情報を判別できる。	1.8%	7.4%	9.4%	11.0%	31.9%
21. 問題解決のための情報を的確な方法で分析できる。	4.2%	8.6%	7.8%	12.7%	32.9%
22. 自分の知識を問題解決に使える。	2.0%	5.6%	5.8%	9.2%	36.7%
23. 問題解決の方法を自ら考えることができる。	3.6%	7.2%	7.0%	16.9%	29.9%
24. 自分の先入観にとらわれずに物事を考えることができる。	4.2%	8.8%	5.6%	15.1%	25.1%
25. 既成の枠組みにとらわれず新しい視点から物事を見ることができる。	5.0%	12.9%	4.0%	16.9%	20.5%
26. 俯瞰的な視点で物事を考えることができる。	5.2%	13.5%	7.0%	16.9%	21.7%

← 50% →

【修士課程】

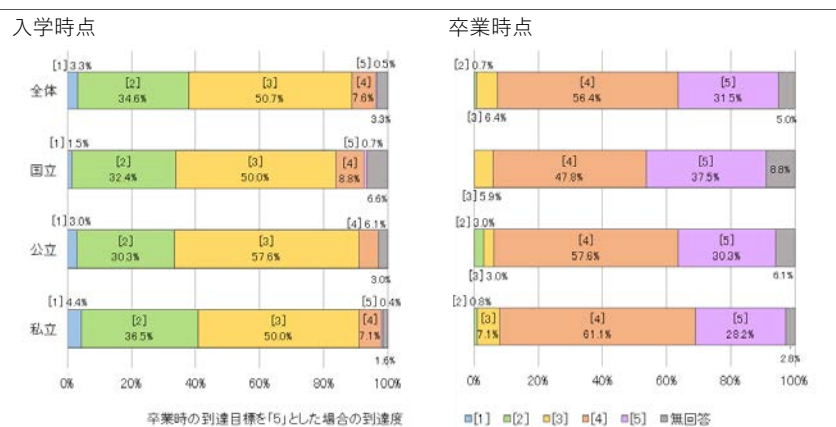


図 2-2-①【修士】自分の意見や疑問を相手に解りやすく説明できる。

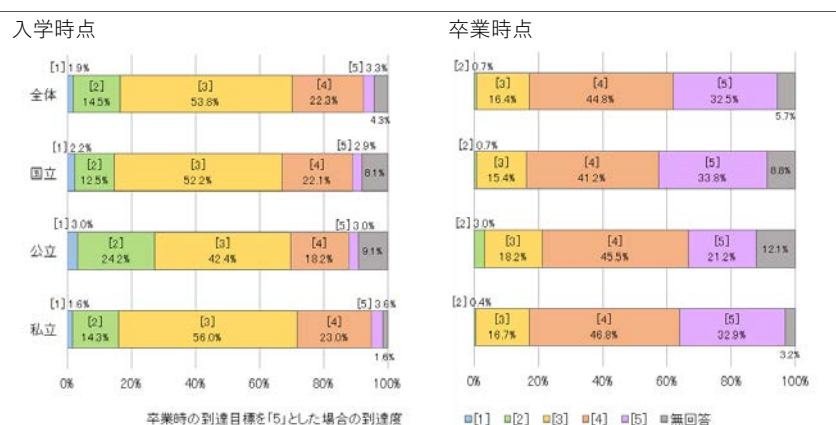


図 2-2-②【修士】自分も相手も尊重した言動をとることができる。

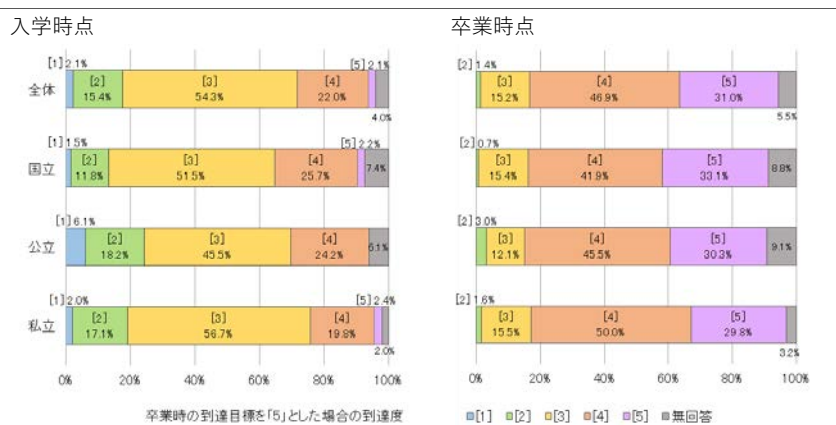


図 2-2-③【修士】自分のものと違う意見であっても受容できる。

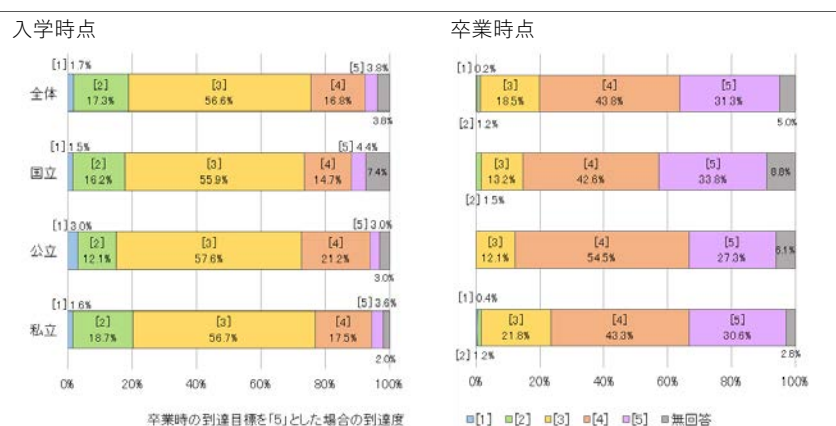
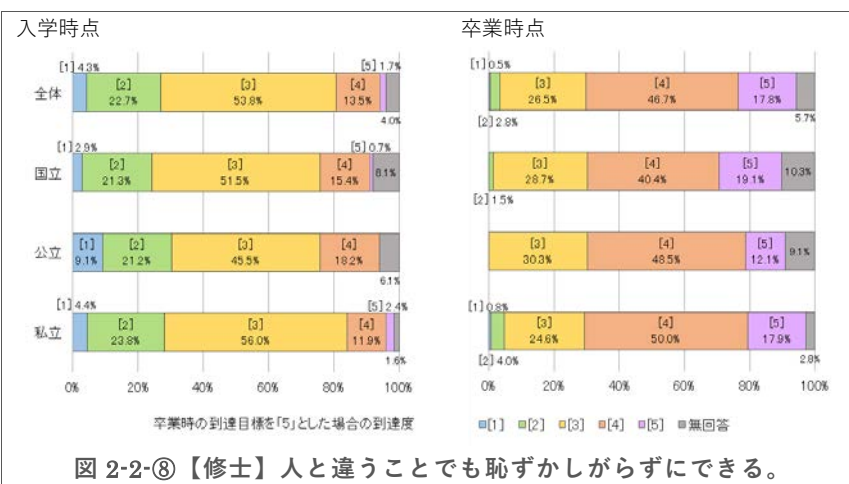
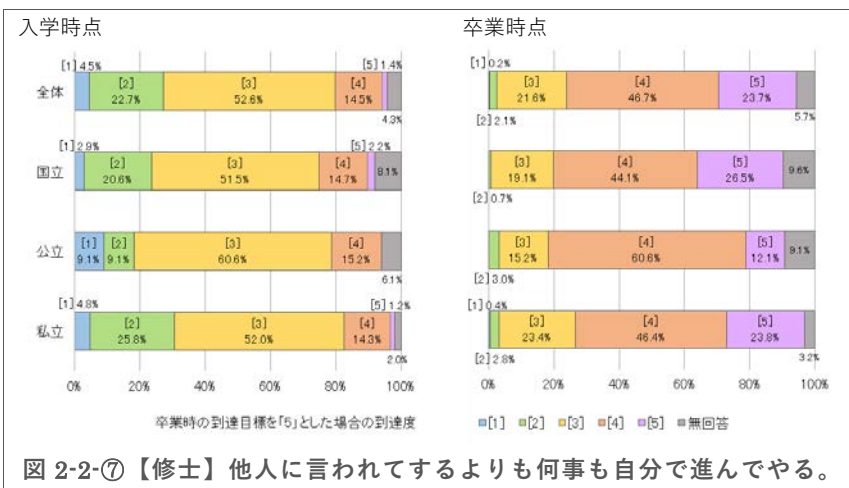
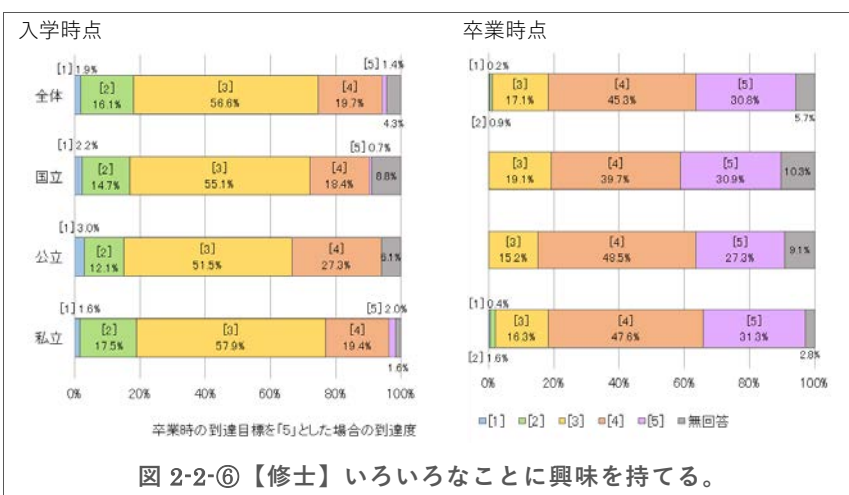
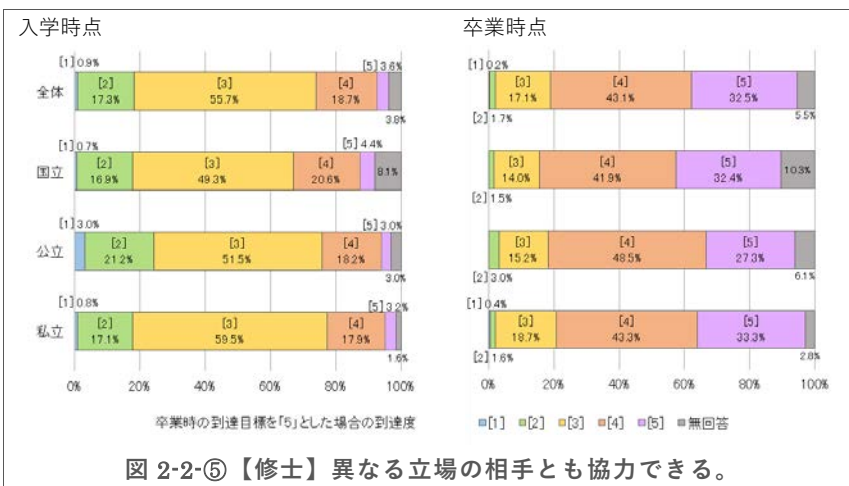
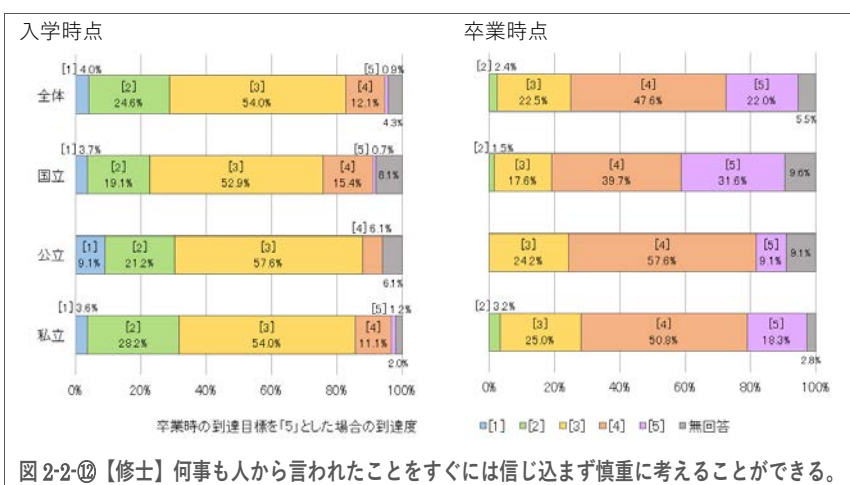
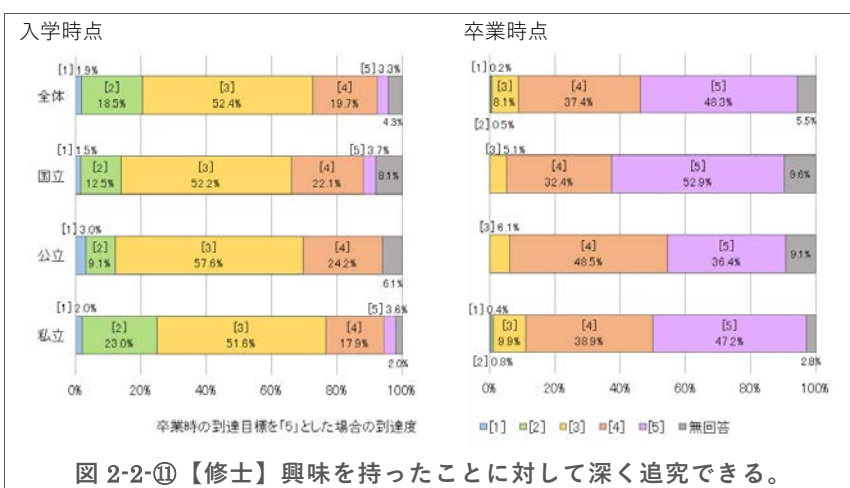
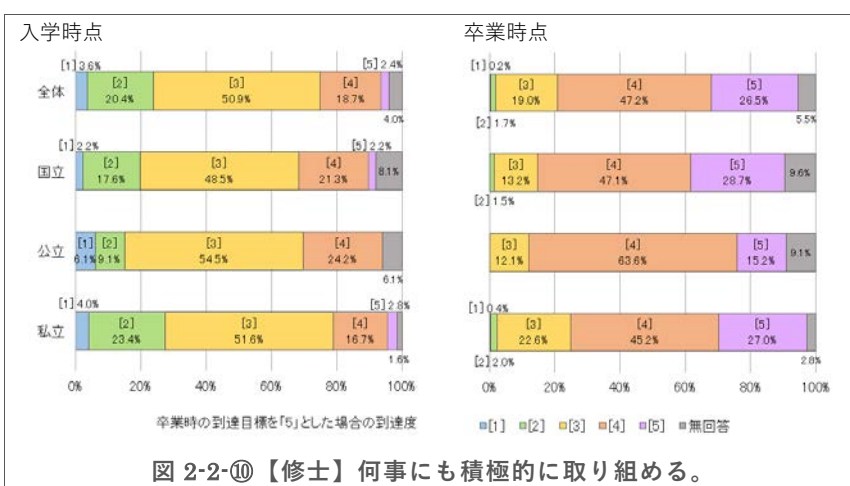
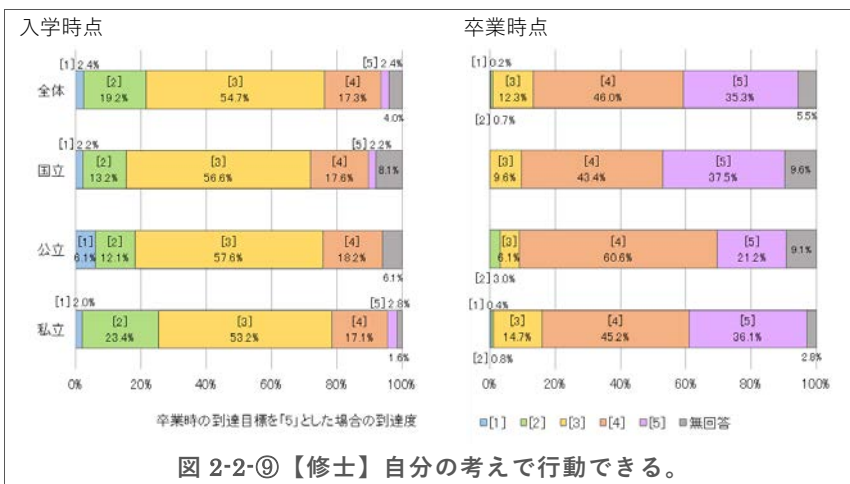
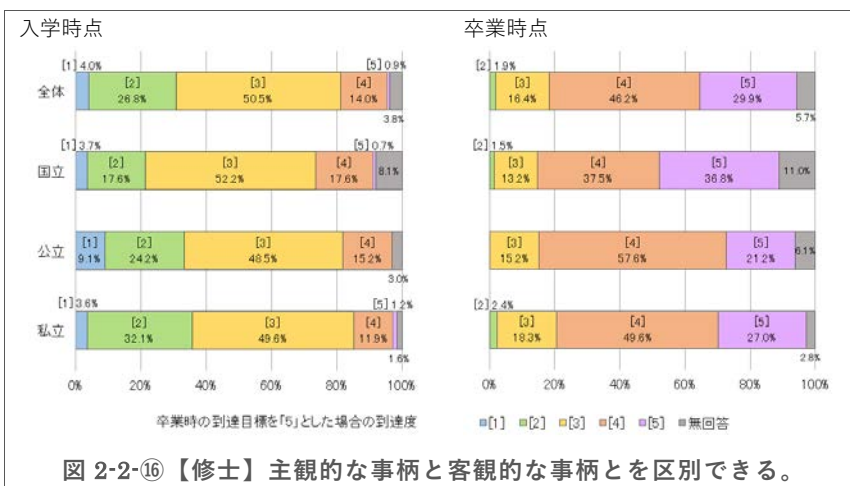
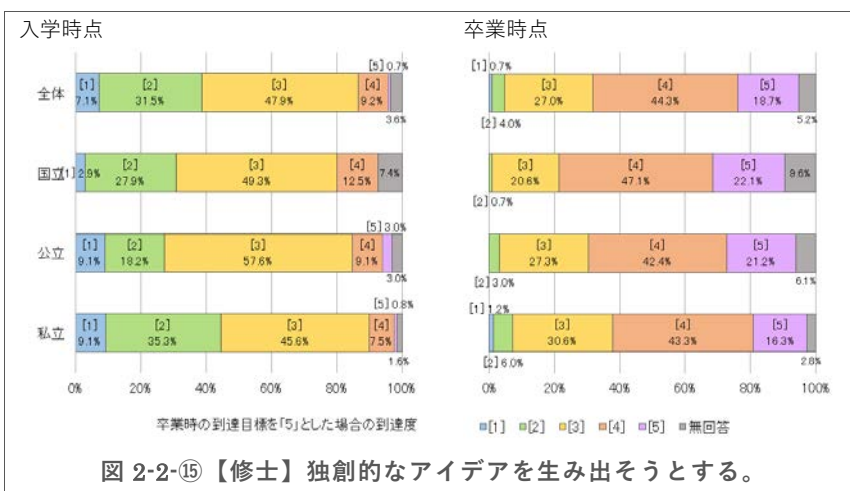
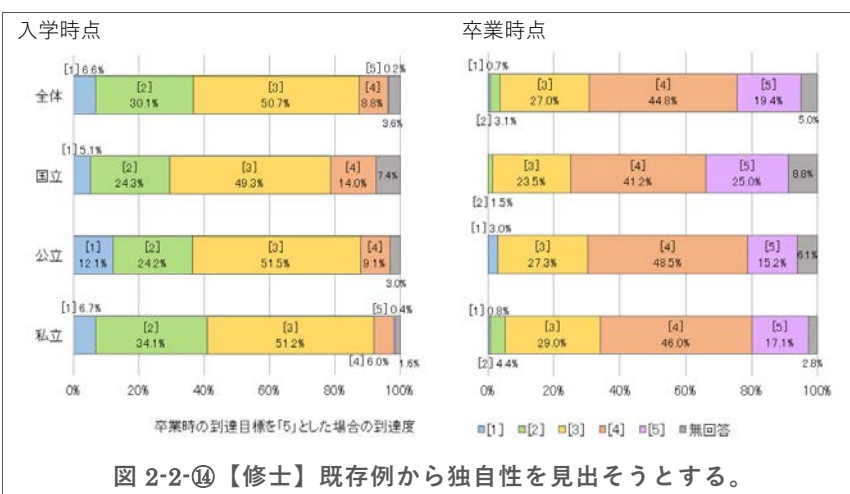
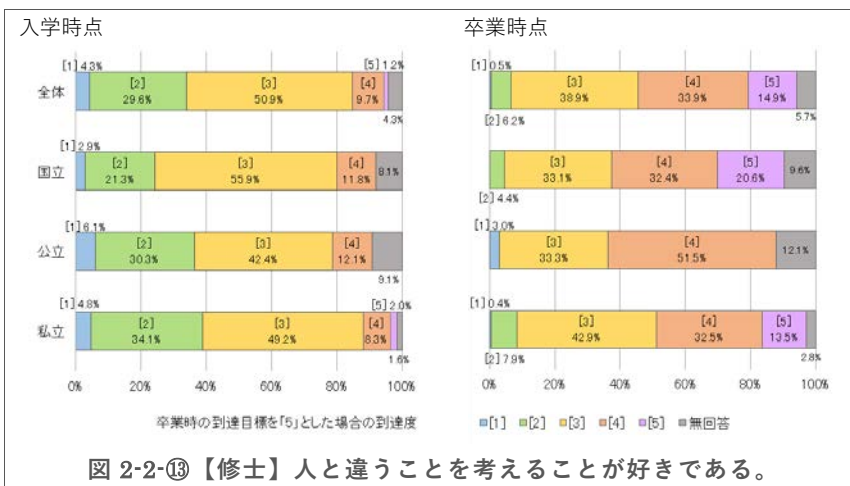
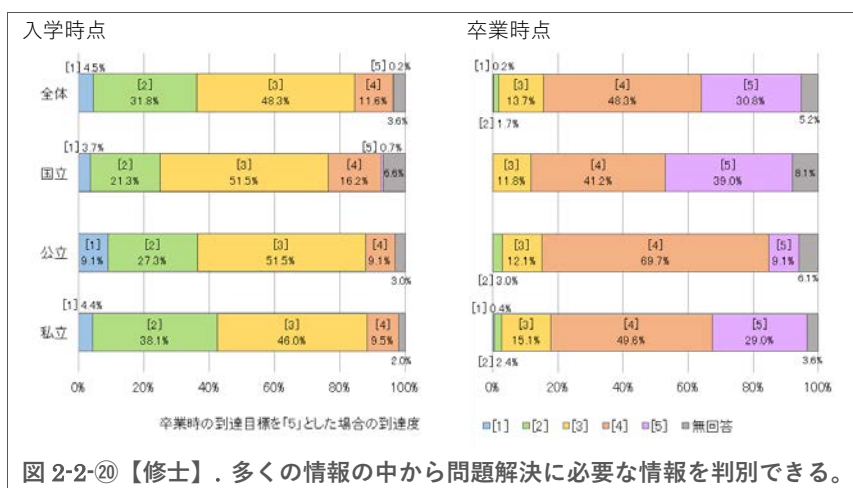
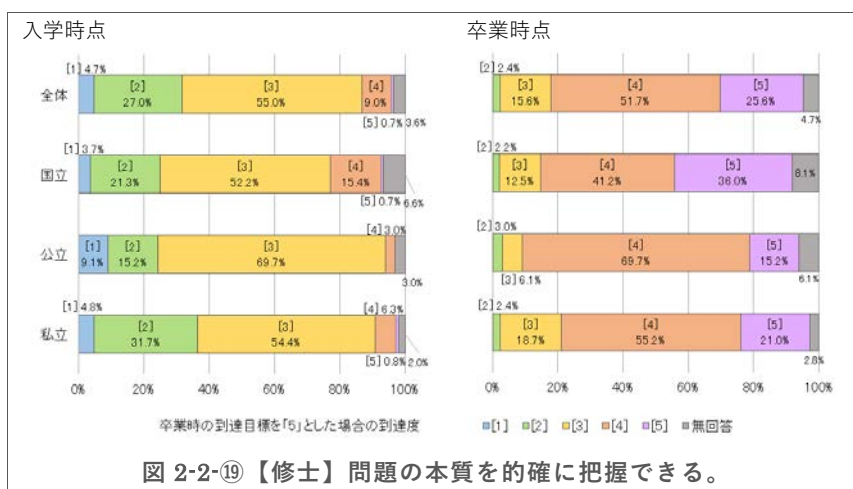
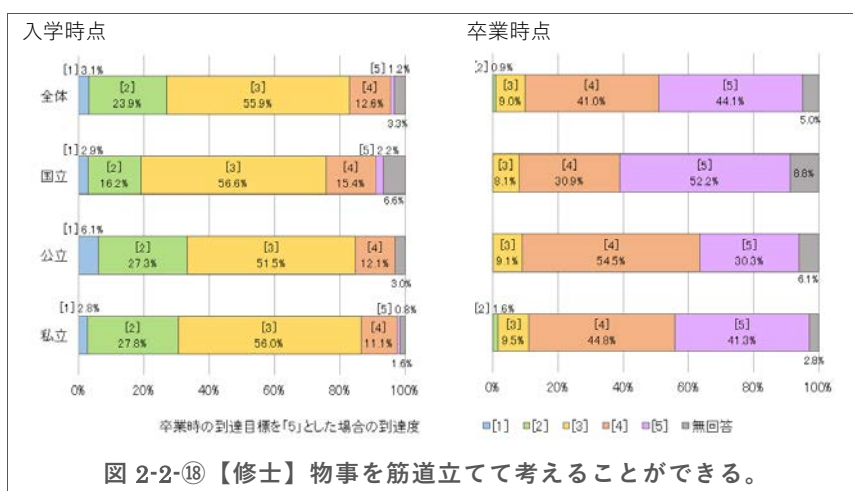
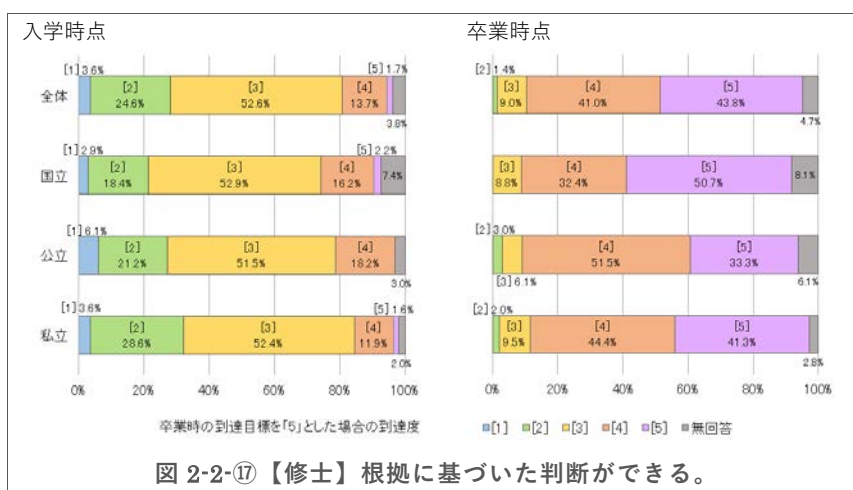


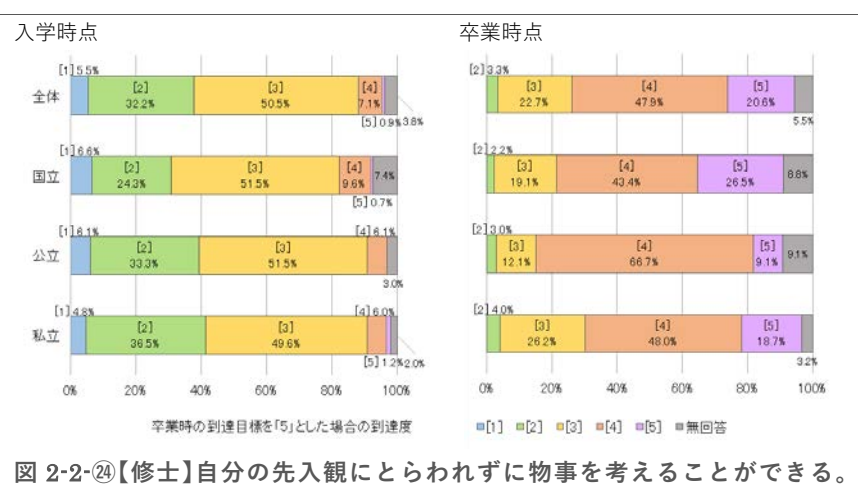
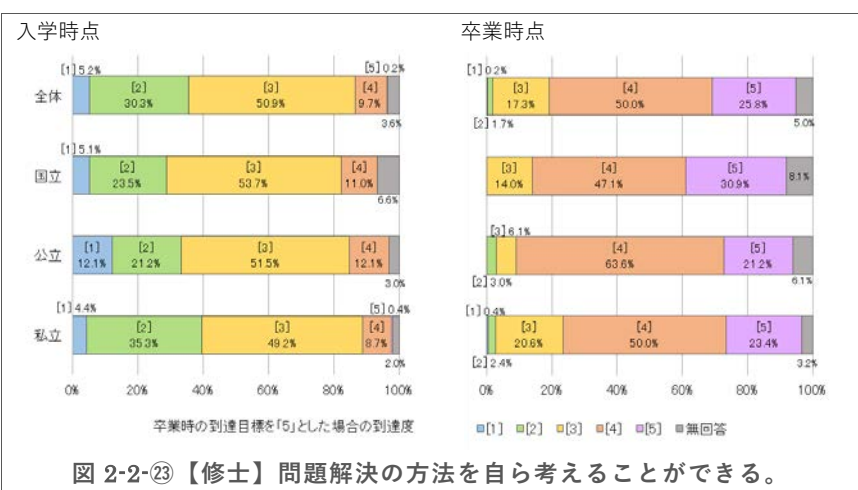
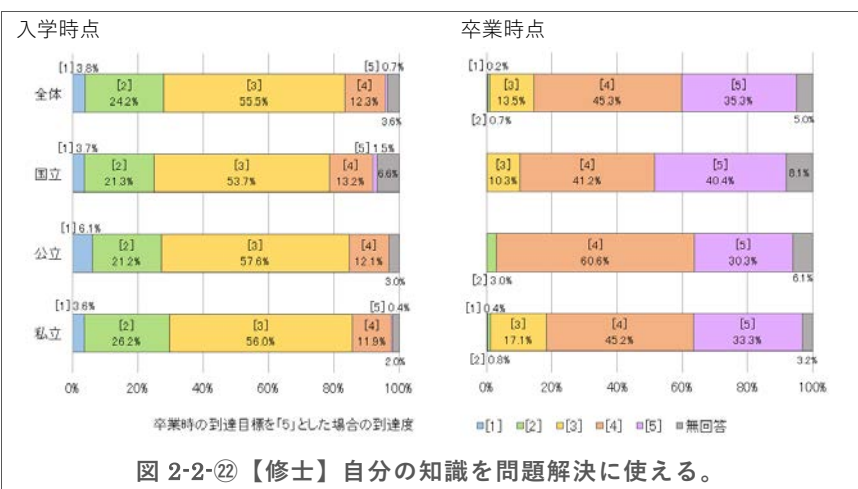
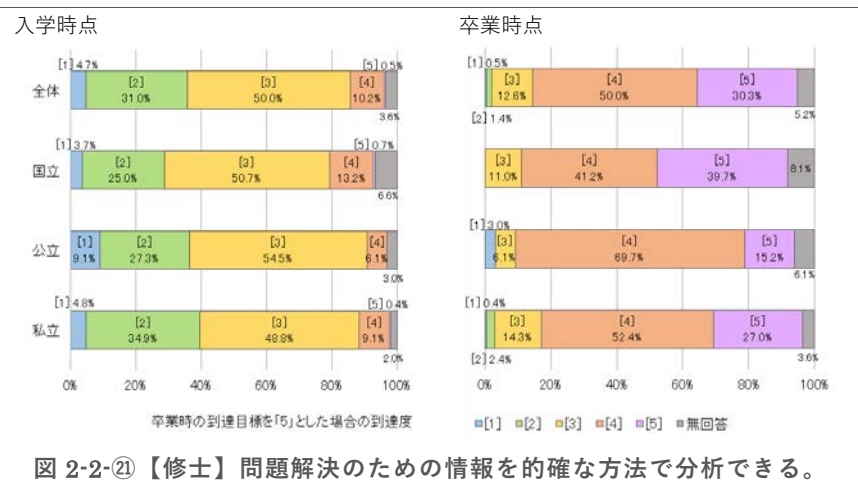
図 2-2-④【修士】グループの中での自分の役割を果たせる。











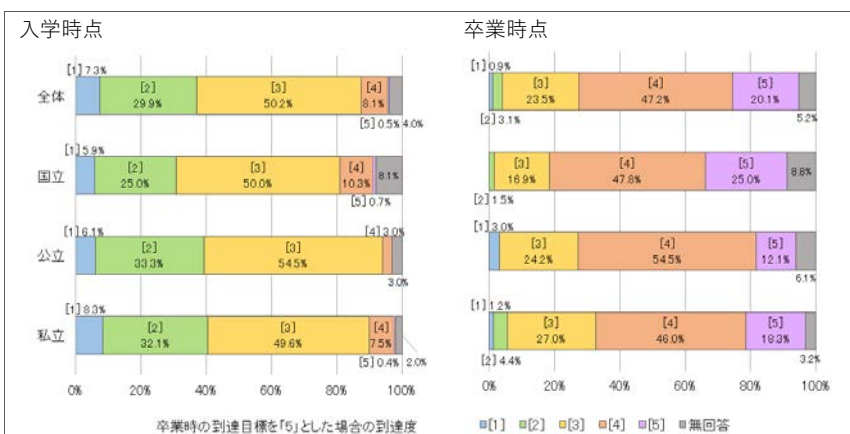


図 2-2-25 【修士】 既成の枠組みにとらわれず新しい視点から物事を見ることができる。

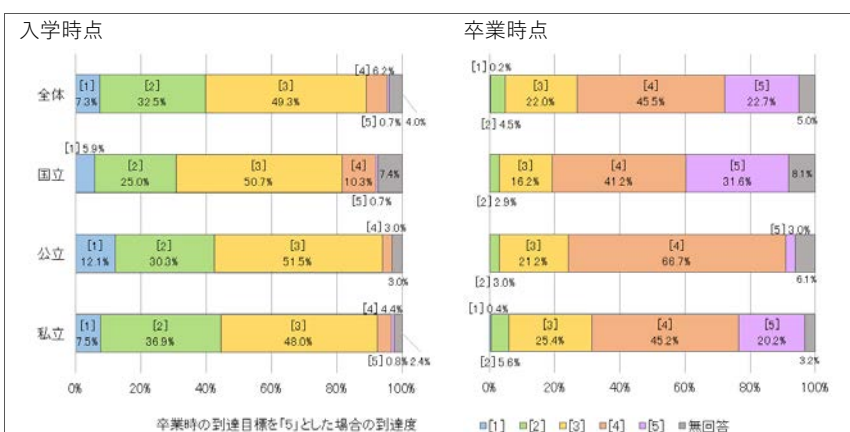


図 2-2-26 【修士】 俯瞰的な視点で物事を考えることができる。

●入学時点・卒業時点の能力の到達度

次の表 11-2-①は、図 2-2-①～図 2-2-②⑥を概観できるようにまとめたものである。

表 11-2-①【修士】入学時点・卒業時点での能力到達度

※到達度を[1]～[5]で表記
※参考には＜全体■＞を記載していない
※表 11-1-①【学部】にない区分を■で色分け

	入学時点												卒業時点											
	[1]・[2]				[3]				参考				[4]・[5]				参考				[5]			
	35%以上	25%～34%	15%～24%	15%未満	45%未満	45%～54%	55%～64%	65%以上	[1]10%以上	[2]30%以上	[5]の回答あり		45%～54%	55%～64%	65%～74%	75%～84%	85%以上	[1]の回答あり	[1][2]の回答なし		20%未満	50%以上		
	高 ← 低				低 ← 高								低 ← 高											
1. 自分の意見や疑問を相手に解りやすく説明できる	■	●	●			●	■				●						■		●					
2. 自分も相手も尊重した言動をとることができる		●		■	●	■					●				●	■								
3. 自分のものと違う意見であっても受容できる			■	●		■					●				●	■								
4. グループの中で自分の役割を果たせる			■	●		■					●				●	■								
5. 異なる立場の相手とも協力できる			■	●		■					●				●	■								
6. いろいろなことに興味を持てる			■	●		■					●				●	■								
7. 他人に言われてするよりも何事も自分で進んでやる	■	●	●			■					●				●	■								
8. 人と違うことでも恥ずかしがらずにできる	■	●	●			■					●				●	■								
9. 自分の考えで行動できる		●	■			■					●				●	■								
10. 何事にも積極的に取り組める		●	■			■					●				●	■								
11. 興味を持ったことに対して深く追究できる		●	■			■					●				●	■								
12. 何事も人から言われたことをすぐには信じ込まず慎重に考えることができる	■	●	●			■					●				●	■								
13. 人と違うことを考えることが好きである	■	●	●			■					●				●	■								
14. 既存例から独自性を見出そうとする	■	●	●			■					●				●	■								
15. 独創的なアイデアを生み出そうとする	■	●	●			■					●				●	■								
16. 主観的な事柄と客観的な事柄とを区別できる	■	●	●			■					●				●	■								
17. 根拠に基づいた判断ができる	■	●	●			■					●				●	■								
18. 物事を筋立てて考えることができる	■	●	●			■					●				●	■								
19. 問題の本質を的確に把握できる	■	●	●			■					●				●	■								
20. 多くの情報の中から問題解決に必要な情報を判別できる	■	●	●			■					●				●	■								
21. 問題解決のための情報を的確な方法で分析できる	■	●	●			■					●				●	■								
22. 自分の知識を問題解決に使える	■	●	●			■					●				●	■								
23. 問題解決の方法を自ら考えることができる	■	●	●			■					●				●	■								
24. 自分の先入観にとらわれずに物事を考えることができる	■	●	●			■					●				●	■								
25. 既存の枠組みにとらわれず新しい視点から物事を見ることができる	■	●	●			■					●				●	■								
26. 俯瞰的な視点で物事を考えることができる	■	●	●			■					●				●	■								

●入学時点から卒業時点へ能力の到達度の推移

さらに、入学時点が[1]または[2]、[3]の場合の卒業時点の到達度が[4]または[5]への推移、及び入学時点が[4]の場合の[5]への推移をみると、次のようになる（表 11-2-②）。

表 11-2-②【修士】入学時点から卒業時点へ能力の到達度の推移

※卒業時点の到達目標を[5]として、「入学時点」、「卒業時点」の相対的な到達度を[1]～[5]で表記

能力項目	〈入学時点の評価〉		〈卒業時点の評価〉	
	[1]or[2]	[3]	[4]	[5]
1. 自分の意見や疑問を相手に解りやすく説明できる。	34.9%	51.8%	7.4%	
2. 自分も相手も尊重した言動をとることができる。	11.3%	44.9%	13.8%	
3. 自分のものと違う意見であっても受容できる。	12.3%	46.4%	15.1%	
4. グループの中での自分の役割を果たせる。	12.6%	46.4%	11.3%	
5. 異なる立場の相手とも協力できる。	12.3%	45.6%	11.8%	
6. いろいろなことに興味を持てる。	10.5%	49.7%	13.1%	
7. 他人に言われてするよりも何事も自分で進んでやる。	15.4%	43.8%	10.3%	
8. 人と違うことでも恥ずかしがらずにできる。	12.3%	41.0%	8.5%	
9. 自分の考えで行動できる。	15.1%	51.8%	12.8%	
10. 何事にも積極的に取り組める。	12.6%	45.1%	12.6%	
11. 興味を持ったことに対して深く追究できる。	15.9%	52.6%	18.2%	
12. 何事も人から言われたことをすぐに信じ込まず慎重に考えることができる。	15.6%	45.4%	8.7%	
13. 人と違うことを考えることが好きである。	11.3%	30.0%	6.9%	
14. 既存例から独自性を見出そうとする。	16.9%	43.1%	7.4%	
15. 独創的なアイデアを生み出そうとする。	15.9%	41.8%	7.4%	
16. 主観的な事柄と客観的な事柄とを区別できる。	19.5%	46.9%	10.8%	
17. 根拠に基づいた判断ができる。	22.1%	52.6%	12.1%	
18. 物事を筋道立てて考えることができる。	21.3%	56.2%	11.8%	
19. 問題の本質を的確に把握できる。	20.0%	52.8%	7.9%	
20. 多くの情報の中から問題解決に必要な情報を判別できる。	25.4%	47.4%	11.3%	
21. 問題解決のための情報を的確な方法で分析できる。	25.9%	49.7%	9.7%	
22. 自分の知識を問題解決に使える。	18.7%	54.6%	11.8%	
23. 問題解決の方法を自ら考えることができる。	23.3%	48.2%	7.7%	
24. 自分の先入観にとらわれずに物事を考えることができる。	19.0%	46.7%	5.9%	
25. 既成の枠組みにとらわれず新しい視点から物事を見ることができる。	17.7%	45.6%	6.2%	
26. 俯瞰的な視点で物事を考えることができる。	20.8%	45.1%	5.4%	

←100%→

【博士課程】

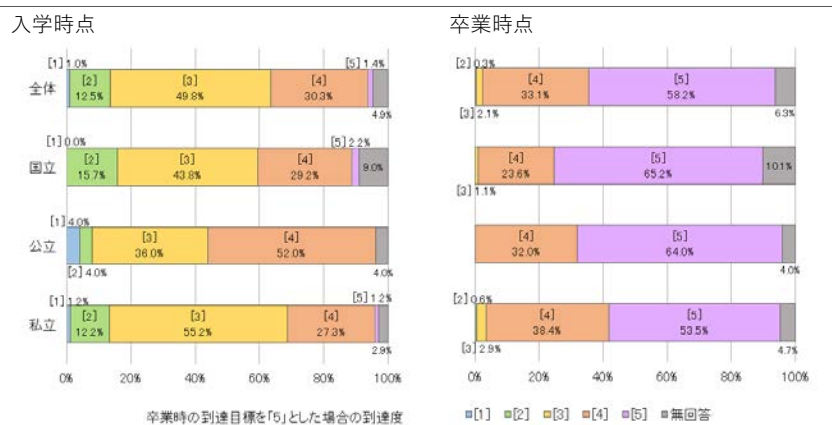


図 2-3-①【博士】自分の意見や疑問を相手に解りやすく説明できる。

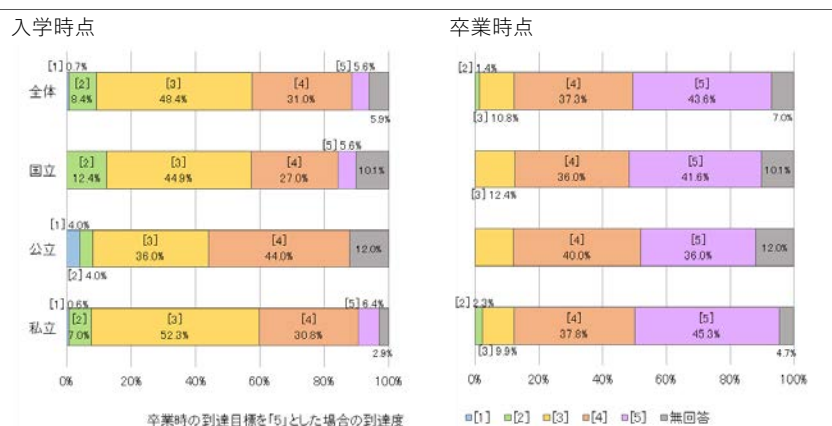


図 2-3-②【博士】自分も相手も尊重した言動をとることができる。

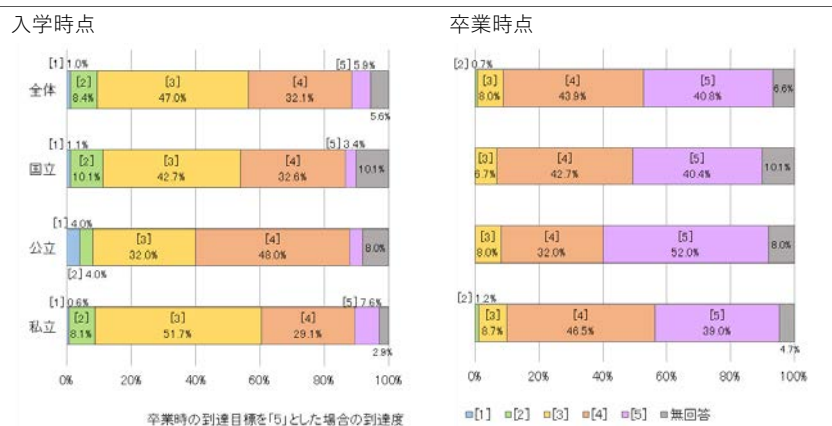


図 2-3-③【博士】自分のものと違う意見であっても受容できる。

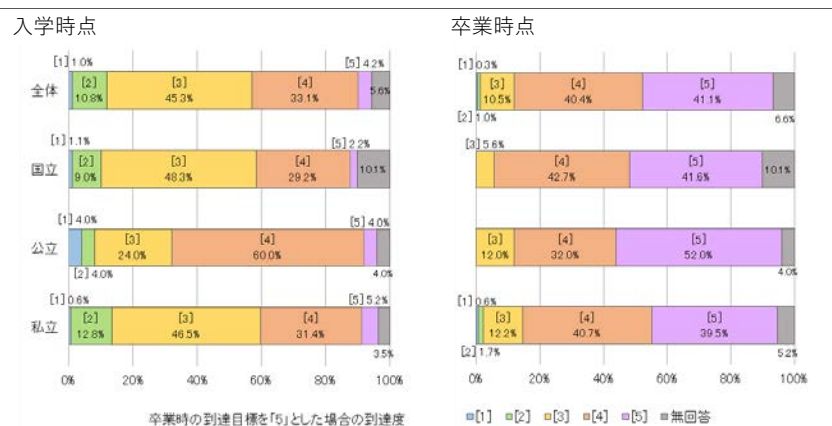
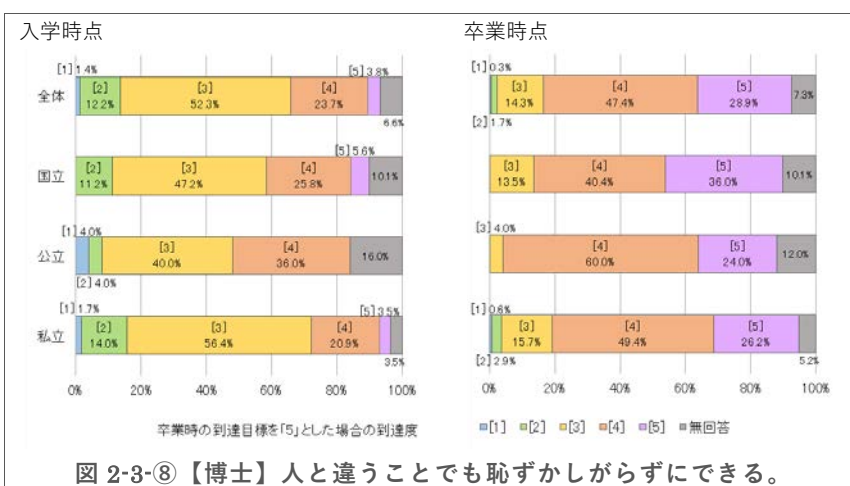
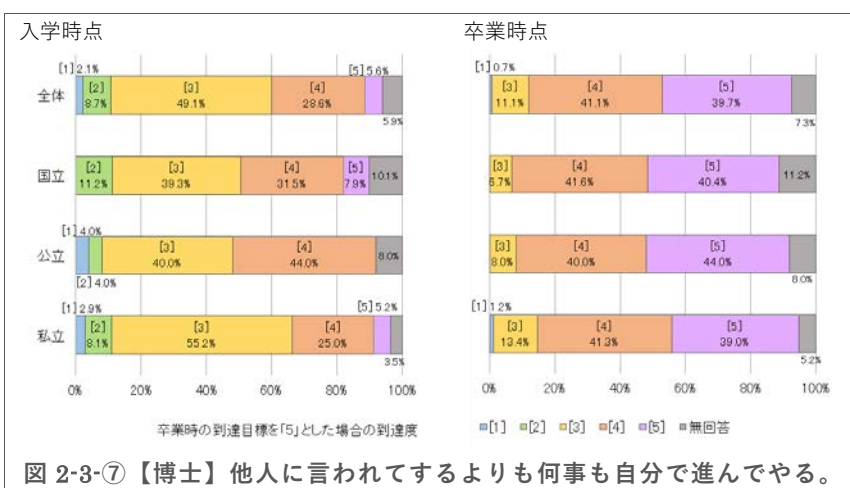
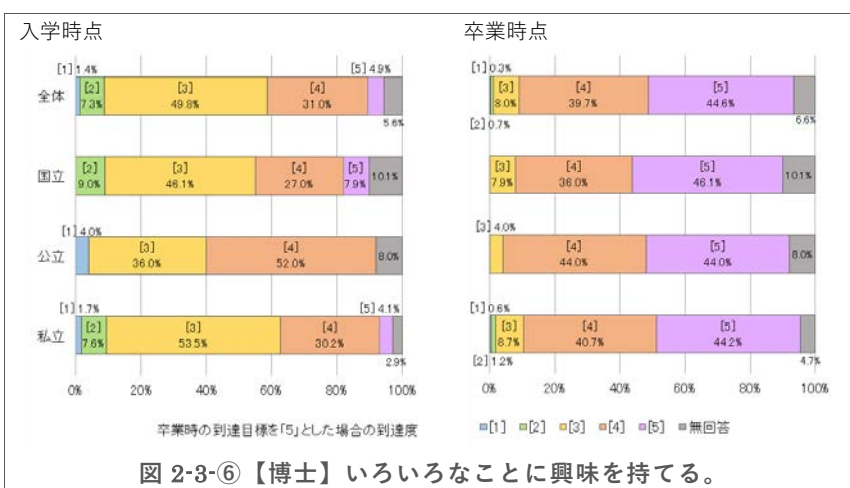
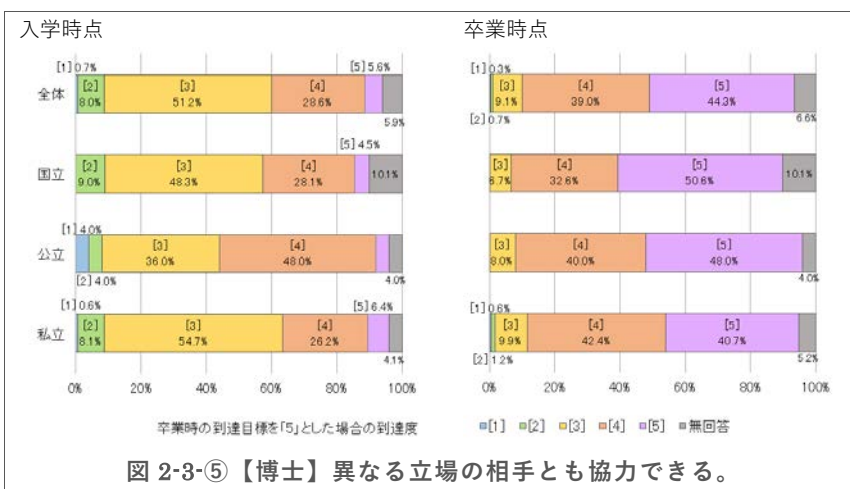
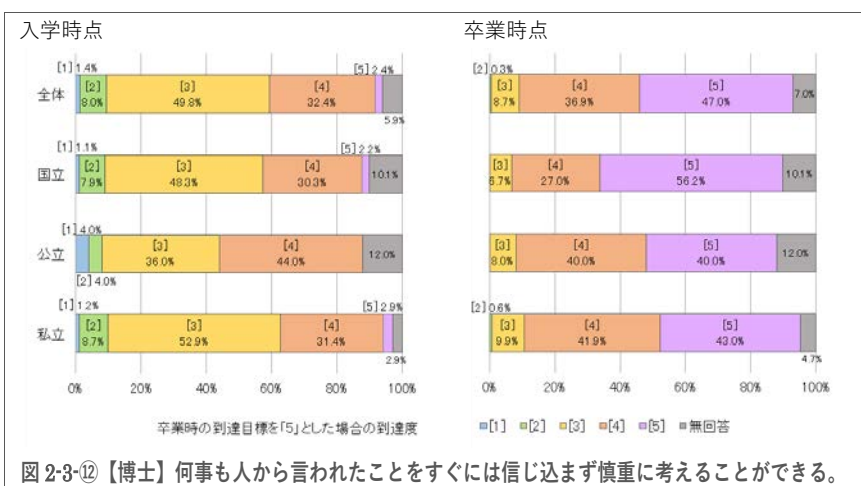
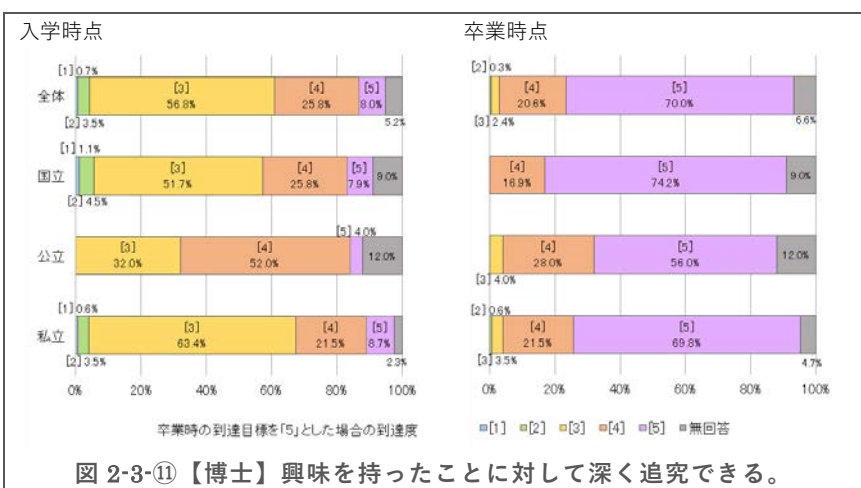
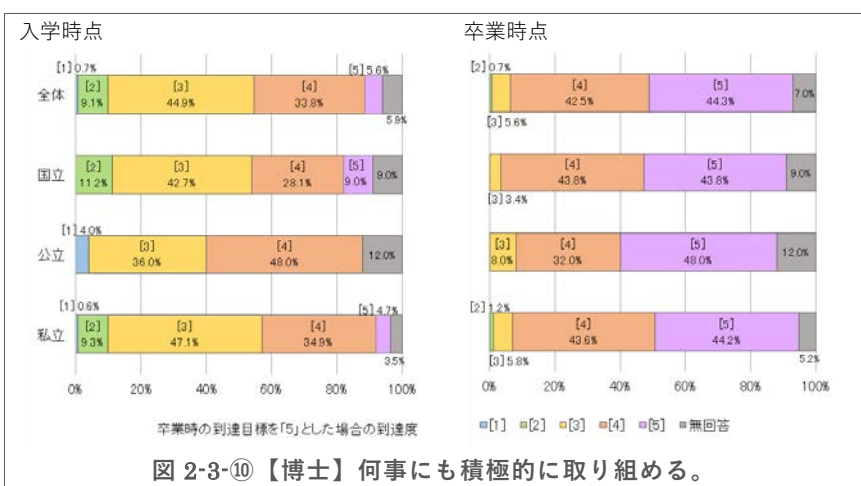
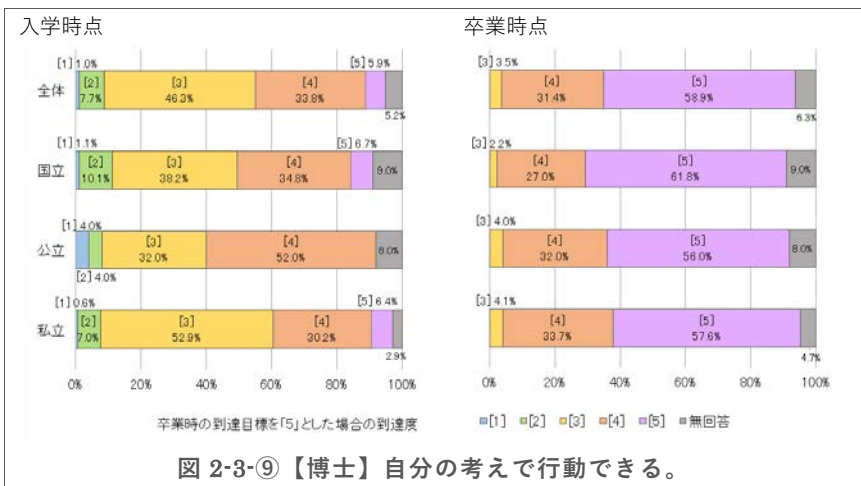
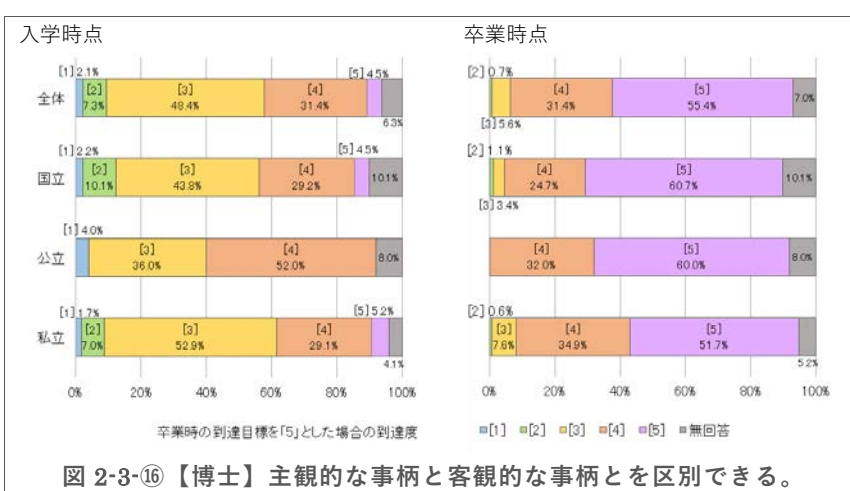
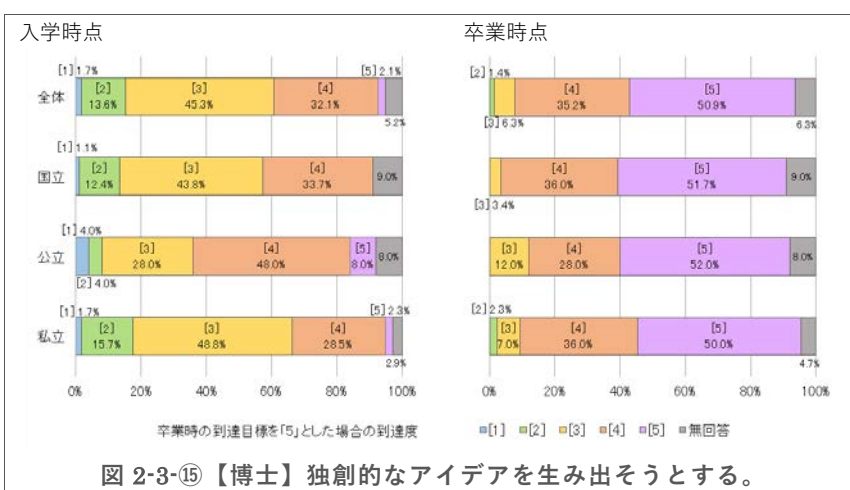
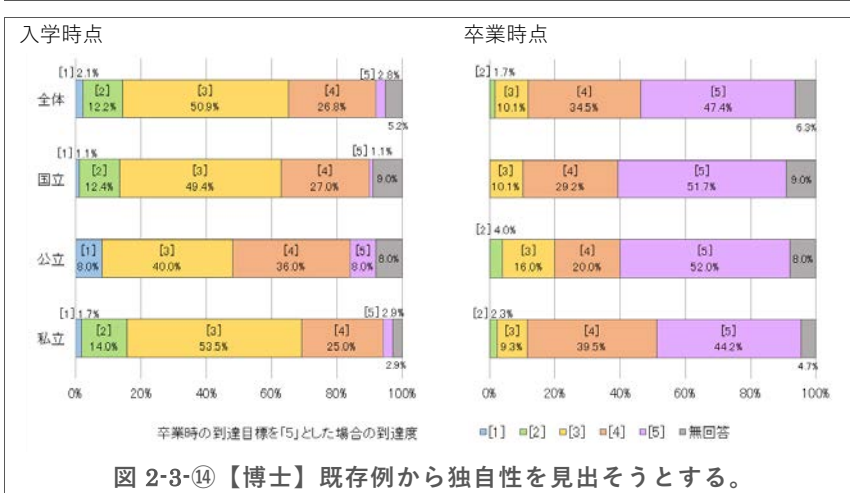
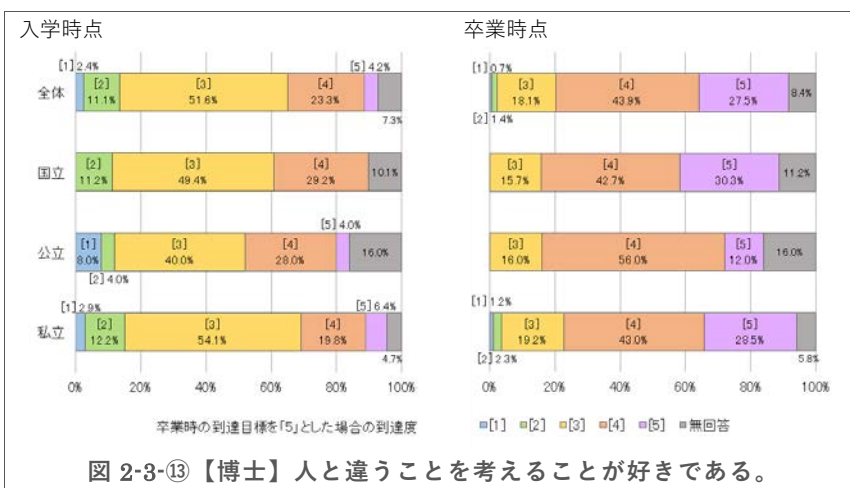
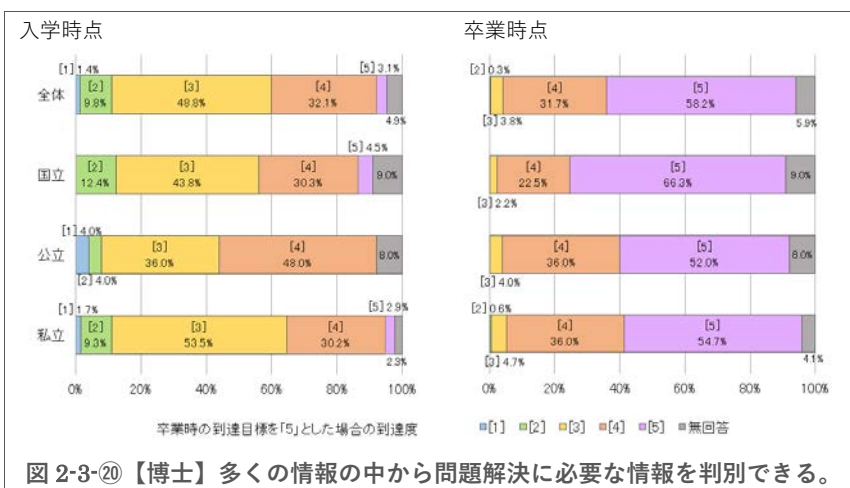
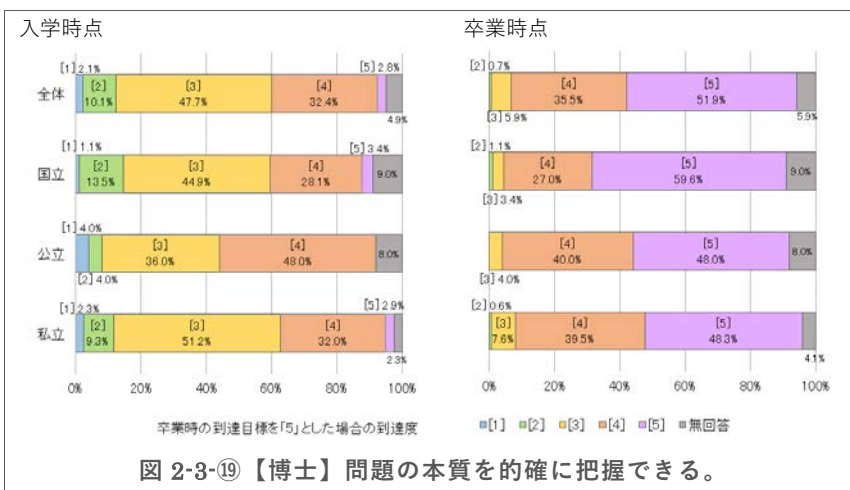
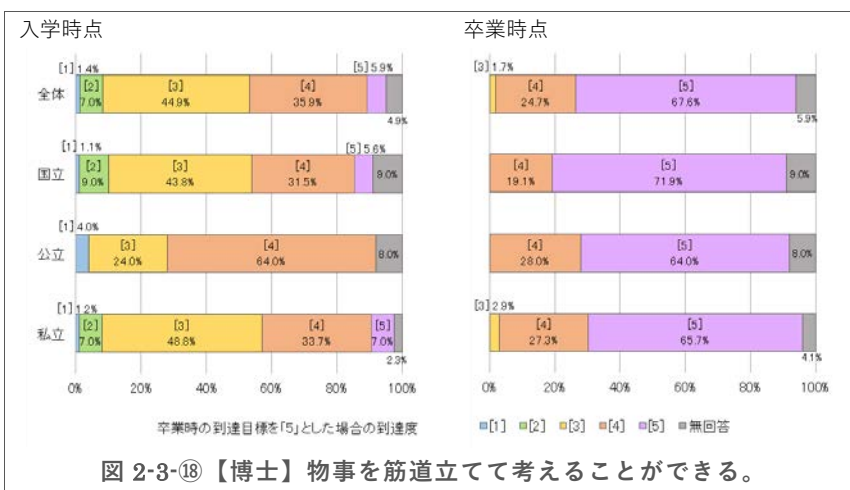
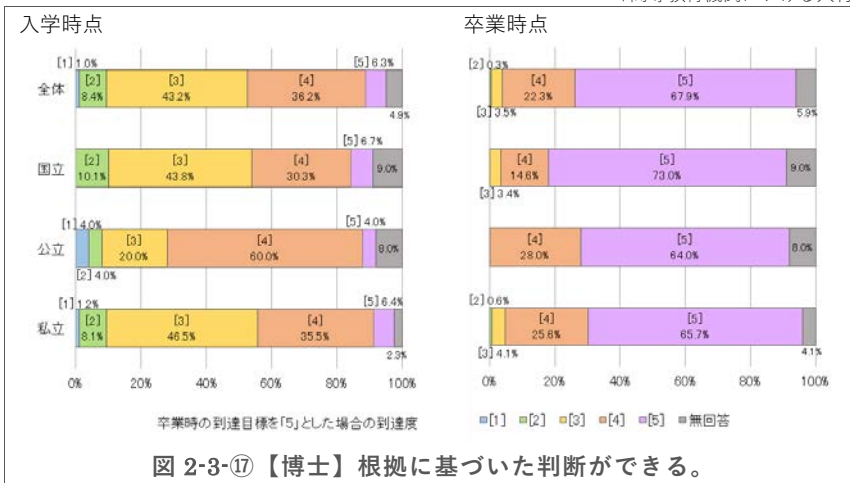


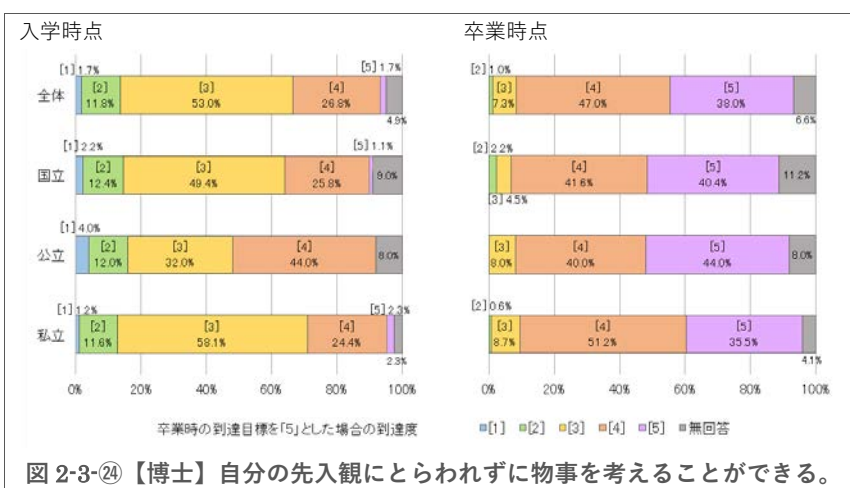
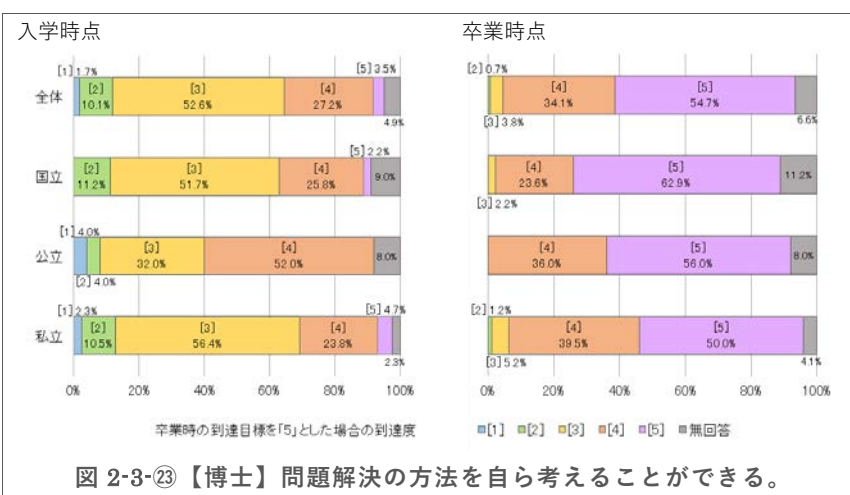
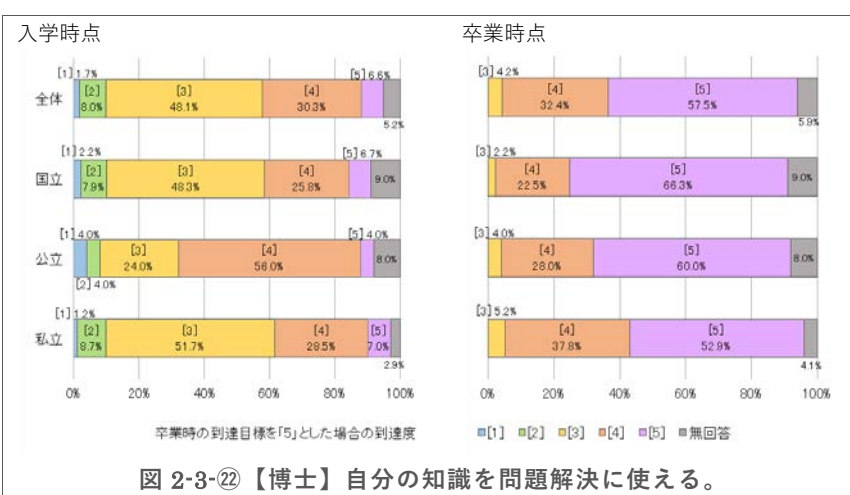
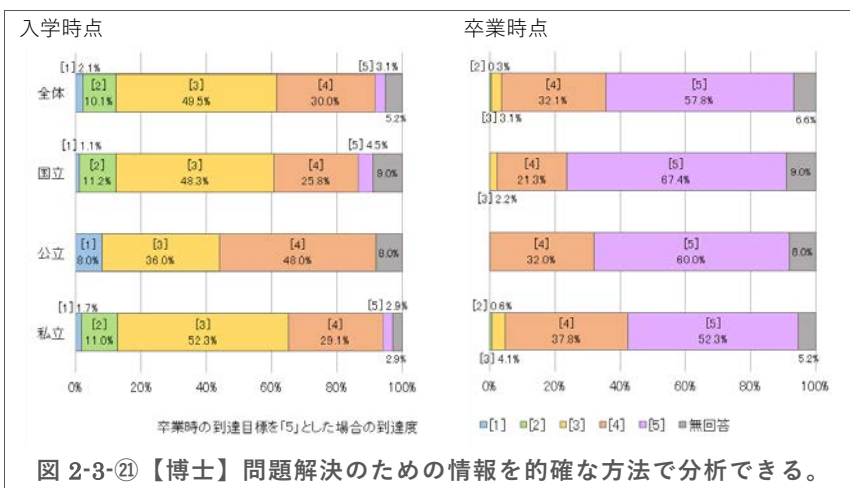
図 2-3-④【博士】グループの中での自分の役割を果たせる。











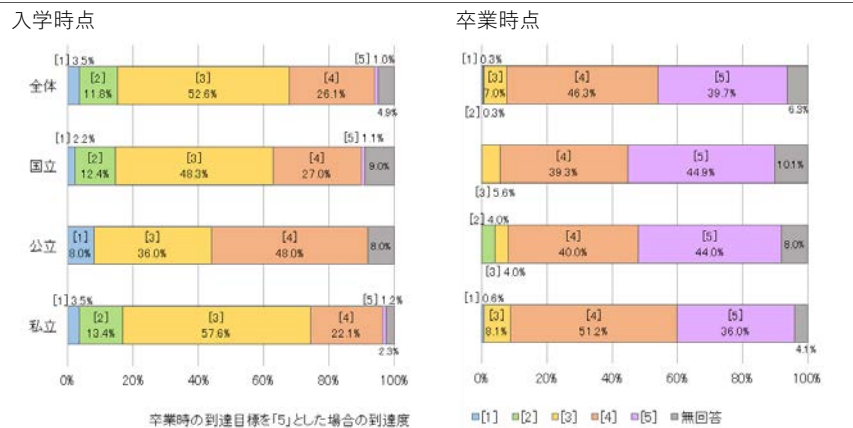


図 2-3-25 【博士】 既成の枠組みにとらわれず新しい視点から物事を見ることができる。

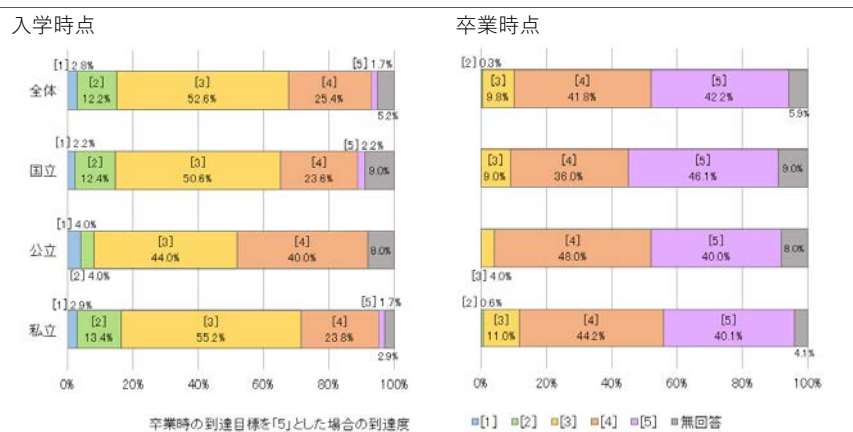


図 2-3-26 【博士】 俯瞰的な視点で物事を考えることができる。

●入学時点・卒業時点の能力の到達度

次の表11-3-①は、図2-3-①～図2-3-②⑥を概観できるようにまとめたものである。

表 11-3-①【博士】入学時点・卒業時点での能力の到達度

※到達度を[1]～[5]で表記
※参考には＜全体＞を記載していない
※表 11-1-①【学部】にない区分を■で色分け
※[4][5]で異なる区分を■で色分け

	入学時点													卒業時点																	
	[3]					[4]					参考			[4]+[5]			[4]				[5]					参考					
	25%未満	25%～34%	35%～44%	45%～54%	55%以上	25%未満	25%～34%	35%～44%	45%～54%	55%以上	[1]の回答あり	[1]+[2]15%以上	[5]の回答あり	75%未満	75%～84%	85%以上	25%未満	25%～34%	35%～44%	45%～54%	55%以上	35%未満	35%～44%	45%～54%	55%～64%	65%～74%	[1][2]の回答あり	[3]以下回答なし			
	低 ← → 高					低 ← → 高								低 ← → 高			低 ← → 高				低 ← → 高										
1. 自分の意見や疑問を相手に詳しく説明できる			●	■	●			■			●		●			■	●	■		●					■	●			●	●	
2. 自分も相手も尊重した言動をとることができる		●	■	■			■	■			●		●		■				■	●				■	■			●			
3. 自分のものと違う意見であっても受容できる		●	●	■	●			■			●		●		■				●	■		●			■	●			●		
4. グループの中での自分の役割を果たせる	●			■	■		■	■		●	●		●		■				■	●				■	●				●		
5. 異なる立場の相手とも協力できる			●	■	■		■	■		●			●		■	●				■				■	■	●			●		
6. いろいろなことに興味を持てる			●	■				■			●		●		■					■	●				■	■			●		
7. 他人に言われてですよりも何事も自分で進んでやる			●	■				■			●		●		■					■				■	■				●		
8. 人と違うことでも恥ずかしがらずにできる			●	■	●					■	●		●		■					■				■	■				●		
9. 自分の考えで行動できる		●	●	■	●			■		●	●				■	■		■	■							■	■				
10. 何事にも積極的に取り組める			■	■	●			■			●		●		■	■			■	■				■	■	●			●		
11. 興味を持ったことに対して深く探究できる		●		●	■	●		■		●	●		●		■	■	■			■						■	■	●	●		
12. 何事も人から言われたことをすぐには信じ込まず慎重に考えることができる			●	■	■		■	■	●	●					■			■	■						■	■	●		●		
13. 人と違うことを考えることが好きである			●	■	■		■			■	●		●		■				■	■				■	■				●		
14. 既存例から独自性を見出そうとする			●	■	■		■	■		●	●		●		■			■	■					■	■				●		
15. 独創的なアイデアを生み出そうとする		●	●	■	●			■		●	●		●		■	■			■	■				■	■				●		
16. 主観的な事柄と客観的な事柄とを区別できる			■	■				■			●		●		■	■	■		■	■						■	■	●	●		
17. 根拠に基づいた判断ができる	●		■				■		■	■	●		●		■	■	■		■	■						■	■	●	●		
18. 物事を筋立てて考えることができる	●		■	■						■	●		●		■	■	■		■	■						■	■	●	●		
19. 問題の本質を的確に把握できる		■		■				■			●		●		■	■	■	■		■	■					■	■		●		
20. 多くの情報の中から問題解決に必要な情報を判別できる		■		■				■			●		●		■	■	■		■	■						■	■	●	●		
21. 問題解決のための情報を的確な方法で分析できる			■	■				■			●		●		■	■	■		■	■						■	■		●		
22. 自分の知識を問題解決に使える	●			■	■			■		■	●				■	■	■		■	■						■	■	●			
23. 問題解決の方法を自ら考えることができる		●		■	■	●		■		●	●		●		■	■	■		■	■					■	■	●		●		
24. 自分の先入観にとらわれずに物事を考えることができる		●			■	●				■	●		●		■	■	■		■	■				■	■		●	●			
25. 既成の枠組みにとらわれず新しい視点から物事を見ることが出来る			●	■	■	●			■		●		●		■	■	■		■	■				■	■			●	●		
26. 俯瞰的な視点で物事を考えることができる			●	■		●	●		■		●		●		■	■	■		■	■				■	■				●		

●入学時点から卒業時点への能力の到達度の推移

さらに、入学時点が[3]または[4]の場合の卒業時点の到達度の推移をみると、次のようになる(表 11-3-②)。

表 11-3-② 【博士】入学時点から卒業時点への能力の到達度の推移

※卒業時点の到達目標を[5]として、「入学時点」、「卒業時点」の相対的な到達度を到[1]～[5]で表記

	〈入学時点の評価〉		〈卒業時点の評価〉	
	[3]		[4]	
	[4]	[5]	[4]	[5]
1. 自分の意見や疑問を相手に解りやすく説明できる。	21.3%	26.5%	26.8%	
2. 自分も相手も尊重した言動をとることができる。	24.7%	13.9%	22.0%	
3. 自分のものと違う意見であっても受容できる。	27.2%	13.6%	21.3%	
4. グループの中での自分の役割を果たせる。	21.3%	16.4%	19.9%	
5. 異なる立場の相手とも協力できる。	23.7%	20.2%	18.1%	
6. いろいろなことに興味を持てる。	23.7%	18.5%	19.9%	
7. 他人に言われてするよりも何事も自分で進んでやる。	24.4%	15.7%	18.5%	
8. 人と違うことでも恥ずかしがらずにできる。	28.2%	10.5%	13.6%	
9. 自分の考えで行動できる。	18.8%	24.0%	27.9%	
10. 何事にも積極的に取り組める。	23.0%	16.4%	21.6%	
11. 興味を持ったことに対して深く追究できる。	12.9%	25.8%	32.1%	
12. 何事も人から言われたことをすぐには信じ込まず慎重に考えることができる。	23.0%	20.6%	23.0%	
13. 人と違うことを考えることが好きである。	27.9%	10.8%	11.8%	
14. 既存例から独自性を見出そうとする。	23.7%	19.9%	22.3%	
15. 独創的なアイデアを生み出そうとする。	22.6%	18.8%	27.2%	
16. 主観的な事柄と客観的な事柄とを区別できる。	23.0%	20.9%	26.5%	
17. 根拠に基づいた判断ができる。	15.0%	24.4%	33.4%	
18. 物事を筋道立てて考えることができる。	17.8%	24.7%	33.8%	
19. 問題の本質を的確に把握できる。	23.0%	21.3%	26.5%	
20. 多くの情報の中から問題解決に必要な情報を判別できる。	22.0%	24.0%	28.6%	
21. 問題解決のための情報を的確な方法で分析できる。	23.0%	23.7%	26.5%	
22. 自分の知識を問題解決に使える。	20.2%	23.7%	24.7%	
23. 問題解決の方法を自ら考えることができる。	25.8%	23.3%	24.4%	
24. 自分の先入観にとらわれずに物事を考えることができる。	29.6%	16.7%	19.2%	
25. 既存の枠組みにとらわれず新しい視点から物事を見ることができる。	30.7%	17.8%	19.9%	
26. 俯瞰的な視点で物事を考えることができる。	29.3%	17.8%	20.2%	

50%

【大学】と【大学院】の比較

P.26 表 11-1-①, P.35 表 11-2-①, P.44 表 11-3-①をもとに, 【大学】と【大学院】を比較した場合に特徴のある内容をまとめると, 次のようになる。

●入学時点

表 12-1 【大学・大学院比較】入学時点の能力の到達度

※到達度を[1]～[5]で表記

	全体の傾向	設置者別の比較				
		[1]+[2]の比率		[1]のみの比率	[2]のみの比率	[5]の回答ありの 項目番号
		35%未満の 項目番号	15%未満の 項目番号	20%以上の 項目番号	30%以上の 項目番号	
【学部】	[1]+[2]の比率 高い	国：3,6 公：該当なし 私：該当なし	該当なし	国：該当なし 公：12,14,15,17, 20,25,26 私：7,8,12,14,15, 19,20,21,23-26	国：3,5,6 以外 公：3,5 以外 私：全項目	国：2,13 公：4,5 私：2,3,6,10,11, 13,15,19
【修士】	【学部】に比べて [3]の比率高い	国：全項目 公：1-12, 15-19, 22,23 私：2-12, 17,18,22	国：2,3,11 公：11 私：該当なし	該当なし	国：1 公：1,13,24-26 私：1,13-16,19-21, 23-26	国：13-15,23 以外 公：2,4,5,15 私：20 以外
【博士】	【学部】【修士】 に比べて [4]の比率高い	全項目	国：1 以外 公：24 以外 私：1-7, 9-12, 16-24	該当なし	該当なし	国：13,15 以外 公：3-5,11, 13-15, 17,22 私：全項目

●卒業時点

表 12-2 【大学・大学院比較】卒業時点の能力の到達度

※到達度を[1]～[5]で表記

	全体の傾向	設置者別の比較					
		[4]+[5]の比率		[5]のみの比率			[1]の回答あり の項目番号
		55%未満の 項目番号	85%以上の 項目番号	10%未満の 項目番号	20%未満の 項目番号	50%以上の 項目番号	
【学部】	【学部】【修士】【博士】の順に[4]または[5]に到達している比率が高くなる 【学部】 65%以上(12 項目) ：1-6, 9,11,17,18, 20,22	国：8, 13-15 公：8, 12-15, 25,26 私：7,8, 12-15, 19,24-26	国：該当なし 公：18 私：該当なし	国：該当なし 公：7,8,12, 13, 24-26 私：7,8, 12-15, 19, 24-26	国：7,8, 12-15, 24-26 公：6-9, 12-15, 19, 24-26 私：1, 6-10, 12-21,23-26	国：該当なし 公：4 私：該当なし	国：13 公：14,15, 19,20,23,26 私：2-9, 11, 13-16, 18,19, 22-26
【修士】	75%以上(4 項目) ：1,2,4,18 85%以上:該当なし 【修士】 65%以上(22 項目) ：8,13-15 以外 75%以上(16 項目) ：1-6,9,11,16-23 85%以上(3 項目) ：1,11,18 【博士】 75%以上(25 項目) ：13 以外 85%以上(15 項目) ：1,9-11,15-25 <参考> [3]以下の回答なし 【学部】 該当なし 【修士】 該当なし 【博士】 国：11,18 公：1,16-18,21,23 私：該当なし	国：13 公：13 私：13 <参考> 最も比率が低い 項目：13 国 53% 公 51.5% 私 46%	国：1,11 公：1,22 私：1,11,17,18 <参考> 95%以上の項目 なし	国：該当なし 公：12,13,20, 24,26 私：該当なし <参考> [4]より[5]の回答が上回る項目： 国：11,17,18,公：該当なし,私：11	国：8 公：7,8,10, 12-14,19-21, 24-26 私：8,12-15, 24,25	国：11,17,18 公：該当なし 私：該当なし	国：該当なし 公：13,14,21, 25 私：4-11, 13-15, 20-23,25,26
【博士】		該当なし <参考> 最も比率が低い 項目：13 国 73.0% 公 68.0% 私 71.5%	国：1,9-11,15-23 公：1,5,6,9, 16-23,26 私：1,3,9-11, 15-25 <参考> 95%以上の 項目：公：1 [4]+[5]96.0% <参考> [5]の比率が高い 項目 国 11[4]16.9% [5]74.2% 国 17[4]14.6% [5]73.0% 国 18[4]19.1% [5]71.9%	該当なし <参考> [5]の回答が[4]を下回る項目： 国：3,4,7,8,13,24 公：2,8,13,26 私：3-5,7,8,13,24-26	国：該当なし 公：13 私：該当なし <参考> 最も比率が 低い項目：13 国 30.3% 公 12.0% 私 28.5%	国：1,5,9,11, 12, 14-23 公：1,3,4,9, 11, 14-18, 20-23 私：1,9,11, 15-18, 20-23 <参考> 55%以上 国：1,9,11,12, 16-23 公：1,9,11, 16-18,21-23 私：9,11,17, 18	国：該当なし 公：該当なし 私：4-8,13,25

5. 能力の到達度分析と能力の伸びに効果のある教育施策分析

●入学時点・卒業時点での能力到達度の因子分析

この調査には、502 学部、461 研究科からご協力をいただき（P.4「回答者の属性」参照），そのうち、407 学部、347 研究科（修士・専門学位課程 323 研究科，博士課程 228 研究科）の合計 958 学部・研究科からフィードバック・レポートのご希望をいただいた。その回答結果の中から、前出（P.18 以降）の 4. 入学時点・卒業時点での能力到達度（質問 4・質問 8）について因子分析したところ、3 つの因子構造であることがわかった。そして、得られた 3 つの因子を「論理的思考性」、「協調性」、「独創性」の能力であると解釈した。

一方、本調査実施時には、P.11 2. 育成重視度の順位（質問 2・質問 6）に示した「問題解決力」、「批判的思考力」、「協調性」、「コミュニケーション力」、「主体性」、「創造性」の 6 つの能力のうち、「協調性」と「コミュニケーション力」とをまとめて、「協調性・コミュニケーション力」とし、「問題解決力」、「批判的思考力」、「協調性・コミュニケーション力」、「主体性」、「創造性」の 5 つの能力を想定した 26 項目の質問を設定していた。

質問項目とその対応関係をまとめたものが、表 13 である。なお、「11.興味を持ったことに対して深く追究できる」は、調査実施時に「主体性」と想定していたが、得られた 3 つの因子とは関わりのない項目と判断し、除外項目とした。

表 13 質問 4・質問 8 における因子分析の結果

項 目 * 数字は、調査票の質問番号	能力の要素	
	因子分析結果	調査実施時の想定
1. 自分の意見や疑問を相手に解りやすく説明できる	論理的思考性	協調性・コミュニケーション力
12. 何事も人から言われたことをすぐには信じ込まず慎重に考えることができる		批判的思考力
16. 主観的な事柄と客観的な事柄とを区別できる		批判的思考力
17. 根拠に基づいた判断ができる		批判的思考力
18. 物事を筋道立てて考えることができる		批判的思考力
19. 問題の本質を的確に把握できる		問題解決力
20. 多くの情報の中から問題解決に必要な情報を判別できる		問題解決力
21. 問題解決のための情報を的確な方法で分析できる		問題解決力
22. 自分の知識を問題解決に使える		問題解決力
23. 問題解決の方法を自ら考えることができる		問題解決力
24. 自分の先入観にとらわれずに物事を考えることができる		批判的思考力
26. 俯瞰的な視点で物事を考えることができる		批判的思考力
2. 自分も相手も尊重した言動をとることができる	協調性	協調性・コミュニケーション力
3. 自分のものと違う意見であっても受容できる		協調性・コミュニケーション力
4. グループの中での自分の役割を果たせる		協調性・コミュニケーション力
5. 異なる立場の相手とも協力できる		協調性・コミュニケーション力
6. いろいろなことに興味を持てる		主体性
7. 他人に言われてするよりも何事も自分で進んでやる		主体性
8. 人と違うことでも恥ずかしがらずにできる		創造性
9. 自分の考えで行動できる		主体性
10. 何事にも積極的に取り組める		主体性
13. 人と違うことを考えることが好きである	独創性	創造性
14. 既存例から独自性を見出そうとする		創造性
15. 独創的なアイデアを生み出そうとする		創造性
25. 既成の枠組みにとらわれず新しい視点から物事を見ることができる		創造性
11. 興味を持ったことに対して深く追究できる	除外項目	主体性

P 26 表 11-1-①, P 35 表 11-2-①, P 44 表 11-3-①について,因子分析によって得られた 3 つの能力の因子(「論理的思考性」,「協調性」,「独創性」)ごとにまとめたものが,表 14-1-①～表 14-3-③である。

論理的思考性 (12 項目が該当)

表 14-1-①【学部】 論理的思考性の入学時点・卒業時点での能力の到達度

※到達度を[1]～[5]で表記

※入学時点・卒業時点ともに[3]55%以上の項目なし

※参考には全体 ■ を記載していない

	入学時点								卒業時点											
	[1]+[2]				参考				[4]+[5]					参考					[1]の 回答 あり	[1][2]の 回答 なし
	65% 以上	55%～ 64%	45%～ 54%	45% 未満	[1] 20% 以上	[3] 35%～ 44%	45%～ 54%	[5]の 回答 あり	45% 未満	45%～ 54%	55%～ 64%	65%～ 74%	75% 以上	[1]の 回答 あり	[1][2]の 回答 なし	[3] 35%～ 44%	45%～ 54%	[5] 10% 未満		
	高	←	→	低	高	←	→	低	低	←	→	高	高	高	→	←	高	低		
1. 自分の意見や疑問を相手に解りやすく説明できる	■	●											■		●					
12. 何事も人から言われたことをすぐには信じ込まず慎重に考えることができる	●	■			●				●	■								●		●
16. 主観的な事柄と客観的な事柄とを区別できる		■				●					■	●			●					
17. 根拠に基づいた判断ができる		■	●		●	●						■	●		●					
18. 物事を筋道立てて考えることができる	●	■			●	●						■	●		●					
19. 問題の本質を的確に把握できる	●	■			●	●		●		●		■	●		●					●
20. 多くの情報の中から問題解決に必要な情報を判別できる	●	■			●						■	●			●					
21. 問題解決のための情報を的確な方法で分析できる	■	●			●						■	●			●					
22. 自分の知識を問題解決に使える	●	■				●					■	●			●					
23. 問題解決の方法を自ら考えることができる	■	●			●						■	●			●					
24. 自分の先入観にとらわれずに物事を考えることができる	●	■			●						■	●			●					●
26. 俯瞰的な視点で物事を考えることができる	■	●			●				●	■					●				●	●

表 14-1-②【修士】 論理的思考性の入学時点・卒業時点での能力の到達度

※到達度を[1]～[5]で表記

※参考には<全体 ■>を記載していない

※表 11-1-①【学部】にない区分を ■ で色分け

	入学時点								卒業時点											
	[1]+[2]				参考				[4]+[5]					参考					[1]の 回答 あり	[1][2]の 回答 なし
	35% 以上	25%～ 34%	15%～ 24%	15% 未満	45% 未満	45%～ 54%	55%～ 64%	65% 以上	[1] 10% 以上	[2] 30% 以上	[5]の 回答 あり	45%～ 54%	55%～ 64%	65%～ 74%	75%～ 84%	85% 以上	[1]の 回答 あり	[1][2]の 回答 なし	[5] 20% 未満	[5] 50% 以上
	高	←	→	低	低	←	→	高	高	→	←	低	←	→	高	高	高	→	←	高
1. 自分の意見や疑問を相手に解りやすく説明できる	■	●				■	●			●	●					■		●		
12. 何事も人から言われたことをすぐには信じ込まず慎重に考えることができる		■			●	■	●			●			■	●				●		●
16. 主観的な事柄と客観的な事柄とを区別できる	●	■			●	■	●			●			■	●				●		●
17. 根拠に基づいた判断ができる		■			●	■	●			●			■	●				●		●
18. 物事を筋道立てて考えることができる		■			●	■	●			●			■	●				●		●
19. 問題の本質を的確に把握できる	●	■			●	■	●			●			■	●				●		●
20. 多くの情報の中から問題解決に必要な情報を判別できる	■	●			●	■	●			●			■	●				●		●
21. 問題解決のための情報を的確な方法で分析できる	■	●			●	■	●			●			■	●				●		●
22. 自分の知識を問題解決に使える		■			●	■	●			●			■	●				●		●
23. 問題解決の方法を自ら考えることができる	■	●			●	■	●			●			■	●				●		●
24. 自分の先入観にとらわれずに物事を考えることができる	■	●			●	■	●			●			■	●				●		●
26. 俯瞰的な視点で物事を考えることができる	■	●			●	■	●			●			■	●				●		●

表 14-1-③【博士】論理的思考性の入学時点・卒業時点での能力の到達度

※到達度を[1]～[5]で表記
※参考には＜全体■＞を記載していない
※表 11-1-①【学部】 がない区分を■で色分け
※[4][5]で異なる区分を■で色分け

	入学時点															卒業時点																					
	[3]					[4]					参考			[4]+[5]			[4]					[5]					参考										
	25%未満	25%～34%	35%～44%	45%～54%	55%以上	25%未満	25%～34%	35%～44%	45%～54%	55%以上	[1]の回答あり	[1]+[2]15%以上	[5]の回答あり	75%未満	75%～84%	85%以上	25%未満	25%～34%	35%～44%	45%～54%	55%以上	35%未満	35%～44%	45%～54%	55%～64%	65%～74%	[1][2]の回答あり	[3]以下回答なし									
	低 ← → 高					低 ← → 高								低 ← → 高			低 ← → 高					低 ← → 高															
■ = 全体 ● = 国立 ● = 公立 ● = 私立																																					
1. 自分の意見や疑問を相手に解りやすく説明できる			●	●	■			■	●	●		●	●				■	●	●	■	●					■	●										
12. 何事でも人から言われたことをすぐには信じ込まず慎重に考えることができる			●		■		■	●	●			●	●		●	●		■	●					●		■	●		●								
16. 主観的な事柄と客観的な事柄とを区別できる			●	●	■		■	●		●		●	●			●	■	●	■	●				●	■	●		●	●								
17. 根拠に基づいた判断ができる	●		●				●		■	●		●			●	●		■	●						●	■	●		●								
18. 物事を筋立てて考えることができる	●		●		■		●		■	●		●	●			●	■	■							●	■	●		●								
19. 問題の本質を的確に把握できる			●	●	■		■		●			●	●			●		■	●					■	●		●	●									
20. 多くの情報の中から問題解決に必要な情報を判別できる			●	●	■		■		●			●	●			●		■			●			■	●		●	●									
21. 問題解決のための情報を的確な方法で分析できる			●		■		■		●			●	●			●	■	■			●			●	■	●		●	●								
22. 自分の知識を問題解決に使える	●				■		■		●		●	●	●			●	■	■			●			●	■	●		●									
23. 問題解決の方法を自ら考えることができる		●			■		■		●			●	●			●	■	■			●			■	●	■	●		●								
24. 自分の先入観にとらわれずに物事を考えることができる		●			■		■		●			●	●		●	■	■				●			■	●	■	●		●								
26. 俯瞰的な視点で物事を考えることができる			●		■		■		●			●	●		●	■	■				●			■	●	■	●		●								

協調性（9項目が該当）

表 14-2-①【学部】協調性の入学時点・卒業時点での能力の到達度

※到達度を[1]～[5]で表記 ※参考には全体■を記載していない
※入学時点・卒業時点ともに[3]55%以上の項目なし

	入学時点										卒業時点									
	[1]+[2]					参考					[4]+[5]					参考				
	65%以上	55%～64%	45%～54%	45%未満	[1]	35%～44%	20%以上	55%～64%	45%以上	[5]の回答あり	45%未満	45%～54%	55%～64%	65%～74%	75%以上	[1]の回答あり	[1][2]の回答なし	35%～44%	45%～54%	[5]10%未満
	高 ← → 低					低 ← → 高					低 ← → 高					あり なし				
2. 自分も相手も尊重した言動をとることができる				■				●	●	●				●	●	■	●			
3. 自分のものと違う意見であっても受容できる				■				●	●	●				●	●	■	●			
4. グループの中での自分の役割を果たせる			■					●	●	●				●	●	■	●			
5. 異なる立場の相手とも協力できる			■					●	●	●				●	●	■	●			
6. いろいろなことに興味を持てる			■					●	●	●				●	●	■	●			
7. 他人に言われてするよりも何事も自分で進んでやる	●	■						●	●	●				●	●	■	●			●
8. 人と違うことでも恥ずかしがらずにできる	●	■						●	●	●				●	●	■	●			●
9. 自分の考えで行動できる		■						●	●	●				●	●	■	●			
10. 何事にも積極的に取り組める		■						●	●	●				●	●	■	●			

表 14-2-②【修士】協調性の入学時点・卒業時点での能力の到達度

※到達度を[1]～[5]で表記
※参考には＜全体■＞を記載していない
※表 11-1-①【学部】にない区分を■で色分け

	入学時点										卒業時点									
	[1]+[2]					参考					[4]+[5]					参考				
	35%以上	25%～34%	15%～24%	15%未満	45%未満	45%～54%	55%～64%	65%以上	[1]	[2]	[5]の回答あり	45%～54%	55%～64%	65%～74%	75%～84%	85%以上	[1]の回答あり	[1][2]の回答なし	20%未満	50%以上
	高 ← → 低					低 ← → 高					低 ← → 高					あり なし				
2. 自分も相手も尊重した言動をとることができる		●		■		●		■			●			●	■					
3. 自分のものと違う意見であっても受容できる			■			●		■			●			●	■					
4. グループの中での自分の役割を果たせる			■			●		■			●			●	■					
5. 異なる立場の相手とも協力できる			■			●		■			●			●	■					
6. いろいろなことに興味を持てる			■			●		■			●			●	■					
7. 他人に言われてするよりも何事も自分で進んでやる	■					●		■			●			●	■					●
8. 人と違うことでも恥ずかしがらずにできる	■					●		■			●			●	■					●
9. 自分の考えで行動できる			■			●		■			●			●	■					
10. 何事にも積極的に取り組める			■			●		■			●			●	■					

表 14-2-③【博士】協調性の入学時点・卒業時点での能力の到達度

※到達度を[1]～[5]で表記 ※参考には＜全体■＞を記載していない
※表 11-1-①【学部】にない区分を■で色分け ※[4][5]で異なる区分を■で色分け

	入学時点										卒業時点									
	[3]					参考					[4]+[5]					参考				
	25%未満	25%～34%	35%～44%	45%～54%	55%以上	25%未満	25%～34%	35%～44%	45%～54%	55%以上	[1]の回答あり	[1][2]の回答なし	15%未満	15%～24%	25%～34%	35%～44%	45%～54%	55%～64%	65%～74%	[1][2]の回答あり
	低 ← → 高					低 ← → 高					低 ← → 高					低 ← → 高				
2. 自分も相手も尊重した言動をとることができる		●		■		●		■			●			●	■					●
3. 自分のものと違う意見であっても受容できる		●		■		●		■			●			●	■					●
4. グループの中での自分の役割を果たせる	●		■			●		■			●			●	■					●
5. 異なる立場の相手とも協力できる			■			●		■			●			●	■					●
6. いろいろなことに興味を持てる			■			●		■			●			●	■					●
7. 他人に言われてするよりも何事も自分で進んでやる	●		■			●		■			●			●	■					●
8. 人と違うことでも恥ずかしがらずにできる			■			●		■			●			●	■					●
9. 自分の考えで行動できる			■			●		■			●			●	■					●
10. 何事にも積極的に取り組める			■			●		■			●			●	■					●

独創性（4項目が該当）

表 14-3-①【学部】独創性の入学時点・卒業時点での能力の到達度

※到達度を[1]～[5]で表記
※入学時点・卒業時点ともに[3]55%以上の項目なし
※参考には全体■を記載していない

	入学時点										卒業時点									
	[1]+[2]				参考			[4]+[5]					参考							
	65% 以上	55%～ 64%	45%～ 54%	45% 未満	[1] 20% 以上	[3] 35%～ 44%	[5] 45%～ 54%	[5]の 回答 あり	45% 未満	45%～ 54%	55%～ 64%	65%～ 74%	75% 以上	[1]の 回答 あり	[1][2]の 回答 なし	[3] 35%～ 44%	45%～ 54%	[5] 10% 未満		
	高 ← 低								低 ← 高											
13. 人と違うことを考えることが好きである																				
14. 既存例から独自性を見出そうとする																				
15. 独創的なアイデアを生み出そうとする																				
25. 既成の枠組みにとらわれず新しい視点から物事を見ることが出来る																				

表 14-3-②【修士】独創性の入学時点・卒業時点での能力の到達度

※到達度を[1]～[5]で表記
※参考には＜全体■＞を記載していない
※表 11-1-①【学部】にない区分を■で色分け

	入学時点										卒業時点										
	[1]+[2]				[3]				参考		[4]+[5]					参考					
	35% 以上	25%～ 34%	15%～ 24%	15% 未満	45% 未満	45%～ 54%	55%～ 64%	65% 以上	[1] 10% 以上	[2] 30% 以上	[5]の 回答 あり	45%～ 54%	55%～ 64%	65%～ 74%	75%～ 84%	85% 以上	[1]の 回答 あり	[1][2]の 回答 なし	[5]		
	高 ⇄ 低				低 ⇄ 高							低 ⇄ 高							20% 未満	50% 以上	
13. 人と違うことを考えることが好きである	●	●	■			●	■				●	●	●	●				●	●		●
14. 既存例から独自性を見出そうとする	●	●	●			●	●	■		●			●	●	●			●	●		●
15. 独創的なアイデアを生み出そうとする	■		●			●	■				●		■	●		●		●			●
25. 既成の枠組みにとらわれず新しい視点から物事 を見ることができる	■	●	●			●	■				●		●	●		■		●	●		●

表 14-3-③【博士】独創性の入学時点・卒業時点での能力の到達度

※到達度を[1]～[5]で表記
※参考には＜全体■＞を記載していない
※表 11-1-①【学部】にない区分を■で色分け
※[4][5]で異なる区分を■で色分け

	入学時点										卒業時点																							
	[3]					[4]					参考					[4]+[5]					[5]					参考								
	25% 未満	25%～ 34%	35%～ 44%	45%～ 54%	55% 以上	25% 未満	25%～ 34%	35%～ 44%	45%～ 54%	55% 以上	[1]の 回答 あり	[1]・[2] 15% 以上	[5]の 回答 あり	75% 未満	75%～ 84%	85% 以上	25% 未満	25%～ 34%	35%～ 44%	45%～ 54%	55% 以上	35% 未満	35%～ 44%	45%～ 54%	55%～ 64%	65%～ 74%	[1][2]の 回答 あり	[3]以下 回答 なし						
	低 ← 高					低 ← 高										低 ← 高					低 ← 高													
13. 人と違うことを考えることが好きである																																		
14. 既存例から独自性を見出そうとする																																		
15. 独創的なアイデアを生み出そうとする																																		
25. 既成の枠組みにとらわれず新しい視点から物事 を見ることができる																																		

●階層クラスタ分析の結果

さらに、前出の3つの能力の因子（「論理的思考性」、「協調性」、「独創性」）を軸とする階層クラスタ分析（回答結果が類似している組み合わせのものをまとまりにする）によって、5つのクラスタに分類した。各クラスタの特徴は、次のように解釈できる（表15）。

表15 入学時点・卒業時点での能力の到達度における各クラスタの特徴

クラスタ名	特 徴
クラスタ1	全体の回答傾向と比較した場合に、①論理的思考性の伸びに課題があると考えられる学部／研究科の多いグループ
クラスタ2	全体の回答傾向と比較した場合に、①論理的思考性が伸びていると評価できる学部／研究科の多いグループ
クラスタ3	全体の回答傾向と比較した場合に、①論理的思考性、②協調性が伸びていると評価できる学部／研究科の多いグループ
クラスタ4	全体の回答傾向と比較した場合に、③独創性が伸びていると評価できる学部／研究科の多いグループ
クラスタ5	全体の回答傾向と比較した場合に、①論理的思考性、②協調性、③独創性がいずれも伸びていると評価できる学部／研究科の多いグループ

また、クラスタ別に該当する学部・研究科数の内訳は、次の通りである（表16-1）。

表16-1 入学時点・卒業時点での能力の到達度におけるクラスタ別の内訳

	クラスタ1	クラスタ2	クラスタ3	クラスタ4	クラスタ5	対象外※	合計
大学（学部）	47	39	140	13	95	26	360
大学院	修士課程	32	74	33	42	10	271
	博士課程	10	40	6	69	9	190
合計	89	153	179	124	231	45	821

※対象外：無回答項目が多いため、グループ分けしていない

これを学問系統別に集計すると、次のようになる（表16-2）。

表16-2 【学問系統別】入学時点・卒業時点での能力の到達度におけるクラスタ別の内訳

※学問系統は複数回答あり

		学問系統	クラス 1	クラス 2	クラス 3	クラス 4	クラス 5
大学（学部）		人文科学系	11	9	40	4	30
		社会科学系	24	11	39	4	27
		自然科学系	19	22	73	11	53
		総合系	13	8	45	4	19
		その他	0	1	5	0	5
大学院	修士課程	人文科学系	8	17	7	12	24
		社会科学系	11	24	6	18	28
		自然科学系	12	34	21	15	38
		総合系	5	9	6	9	16
		その他	0	4	2	3	1
		無回答	1	0	0	0	0
	博士課程	人文科学系	3	6	1	14	11
		社会科学系	4	11	1	24	15
		自然科学系	2	25	5	44	37
		総合系	2	2	2	13	8
		その他	0	4	0	4	0
		無回答	0	0	0	1	0

●能力の伸びに効果のあると考えられる教育施策

次に、P.14 3. 実際に導入している教育施策（質問3・質問7）の結果と、各タイプにおいて能力が伸びている、または伸びていないと評価されている能力との寄与度（能力の伸びに対して、各教育施策がどれだけ影響しているか）について、上位5つまでのものを「能力の伸びに効果があると考えられる施策」としてまとめると、次のようになる。

「論理的思考性」の伸びに有効と考えられる教育施策 ※数字は、項目番号

- 5. 発想法（ブレインストーミング等）や思考法を学ぶ授業
- 9. 学生同士の相互評価（ピア・アセスメント）を取り入れた授業
- 10. 各メンバーが異なる専門性を分担し、グループで問題解決する授業
- 11. 役割分担をせずに、グループで問題解決する授業
- 12. データに基づいて思考する態度を育成する授業

「協調性」の伸びに有効と考えられる教育施策 ※数字は、項目番号

- 9. 学生同士の相互評価（ピア・アセスメント）を取り入れた授業
- 10. 各メンバーが異なる専門性を分担し、グループで問題解決する授業
- 11. 役割分担をせずに、グループで問題解決する授業
- 18. 協調性を育成する取り組み（大学全体での取り組みを含む）
- 24. 学生が利用できるラーニングコモンズを整備

「独創性」の伸びに有効と考えられる教育施策 ※数字は、項目番号

- 16. 創造性を育む授業
- 19. チャレンジ精神を育成する取り組み（大学全体での取り組みを含む）
- 20. 学生の起業家精神を育成する取り組み（大学全体での取り組みを含む）
- 21. 学生の創造的な制作活動に対する支援（大学全体での取り組みを含む）
- 23. 学生の独創的な活動に対する支援（大学全体での取り組みを含む）

さらに、クラスタ別の特徴と寄与度との関連でまとめると、表17のようになる。

表17 各クラスタの能力の伸びに効果があると考えられる教育施策

●論理的思考性 ▲協調性 ■独創性

項 目	クラス1	クラス2	クラス3	クラス4	クラス5
授業・演習	1. 情報の検索方法を学ぶ授業				
	2. レポートの書き方を学ぶ授業				
	3. 自分の考えを解りやすく説明する手法を学ぶ授業				
	4. 現実の問題に対応できる解決手法を学ぶ授業				■
	5. 発想法（ブレインストーミング等）や思考法を学ぶ授業			▲	●
	6. 現実のデータを学生自身が分析する授業				■
	7. プロジェクト学習（課題探究型学習）を取り入れた授業				
	8. 教室外学習（調査、体験学習等）を取り入れた授業	■	▲	▲	
	9. 学生同士の相互評価（ピア・アセスメント）を取り入れた授業	●▲		▲	●
	10. 各メンバーが異なる専門性を分担し、グループで問題解決する授業	▲	▲	▲	●▲
	11. 役割分担をせずに、グループで問題解決する授業		▲		●▲
	12. データに基づいて思考する態度を育成する授業	●▲		●	■▲■
	13. 一つの社会的現象を多様な立場から捉える授業			●	
	14. 論理的思考について学ぶ授業		●		
	15. 批判的思考について学ぶ授業	●▲■		●	
	16. 創造性を育む授業		■	●▲■	
組織的な取り組み	17. 卒業研究、卒業制作、卒業論文、ゼミナール論文を卒業要件とする取り組み		●		■
	18. 協調性を育成する取り組み（大学全体での取り組みを含む）	▲	▲	▲	●
	19. チャレンジ精神を育成する取り組み（大学全体での取り組みを含む）	●		■	▲■
	20. 学生の起業家精神を育成する取り組み（大学全体での取り組みを含む）				■
組織的な支援	21. 学生の創造的な制作活動に対する支援（大学全体での取り組みを含む）		■	■	
	22. 学生の課外活動（留学、ボランティア活動、インターンシップ等）に対する支援（大学全体での取り組みを含む）		▲		
	23. 学生の独創的な活動に対する支援（大学全体での取り組みを含む）				
環境整備	24. 学生が利用できるラーニングコモンズを整備	●		▲	▲
	25. 学生がeラーニングで自発的に学習できる環境を整備			▲	

<参考> 高等教育期に習得が求められていると考えられる能力

1 高等教育期に習得が求められていると考えられる能力の要素

日本生涯学習総合研究所では、各機関が提唱するいわゆる「21世紀型能力」として定義づけることができると考えられる提言について調査し、各発達段階（幼児期から高等教育期まで）においてどのような能力の習得が要求されているのかについての考察をおこなった（日本生涯学習総合研究所 平成30年3月公開「『非認知能力』の概念に関する考察」参照）。

その結果、共通する19の能力の要素を抽出し、高等教育期には、そのうちの16の能力の要素が該当すると判断した。

●各機関が提唱する「21世紀型能力」

「21世紀型能力」として各機関が提唱する10の提言（表Ⅰ）から抽出した19の能力の要素について、さらに、従来型の学力である「認知能力」と、これまで測定対象とならず認知されてこなかった「非認知能力」に区分すると、「認知能力」のカテゴリには3つの要素が対応し、「非認知能力」のカテゴリには16の要素が対応することがわかった（表Ⅱ）。

表Ⅰ 各機関が提唱する「21世紀型能力」

	提言の名称	発表機関	発表年
1	幼児教育において育みたい資質・能力の三つの柱	文部科学省	2016年(平成28年)
2	生きる力	文部科学省	1996年(平成8年)
3	人間力	内閣府	2003年(平成15年)
4	社会人基礎力	経済産業省	2006年(平成18年)
5	キャリア教育	文部科学省	2006年(平成18年)
6	学士力	文部科学省	2008年(平成20年)
7	課題探求能力	文部科学省	1998年(平成10年)
8	大学院に求められる人材養成機能	文部科学省	2005年(平成17年)
9	就職基礎能力	厚生労働省	2004年(平成16年)
10	キー・コンピテンシー	OECD-DeSeCo	2003年(平成15年)

表Ⅱ 能力の要素

認知能力	①基礎学力	②基礎的な知識・技能	③専門性・専門知識
非認知能力	④問題解決力	⑤批判的思考力 ※1	
	⑥協調性	⑦コミュニケーション力	⑧主体性 ⑨自己管理能力
	⑩自己肯定感	⑪実行力	⑫統率力 ⑬創造性 ⑭探究心
	⑮共感性	⑯道徳心	⑰倫理観 ⑱規範意識 ⑲公共性

※1：④⑤は、認知能力に区分される場合もある

これらの能力の要素を抽出する際に使用したそれぞれの能力の定義は、表Ⅲの通りである。

表Ⅲ 能力の要素の定義

	能力の要素	定義
認知能力	①基礎学力	・すべての学習を成立させるうえで必須の基礎的な知識や技能（例：読み書き、計算等、教科等の独自の基礎的な知識・技能）
	②基礎的な知識・技能	・社会の変化や科学技術の進展等に対応するために必要とされる知識や技能
	③専門性・専門知識	・「基礎学力」、「基礎的な知識・技能」をベースとした、個々の特性に応じた特定の領域に関する高度な知識と経験
非認知能力	④問題解決力 * 認知能力に区分される場合もある	・論理的思考力の要素である「物事の意味を正しく捉え、自分の理解度や対応できる範囲を把握したうえで、問題解決に当たることができる力」をベースとし、自分で考え、本質的な問題を発見し、解決策を立案し、さらに、それを臨機応変かつ適切に対応しながら遂行（実行し成果を出す）することができる力

⑤批判的思考力 * 認知能力に区分される場合もある	・ 論理的思考力の要素である「主観的な事柄と客観的な事柄とを区別したうえで、根拠に基づいて判断し、さらに、筋道立てて考えることができる力」をベースとし、他者および自分の考えに対して熟考し、先入観にとらわれずに、俯瞰的な視点から考えることができる力
⑥協調性	・ 異なった環境や立場にある複数の他者と、助け合ったり、譲り合ったりして、お互いを尊重し合いながら、同じ目標や目的に向かって物事を達成しようとする姿勢
⑦コミュニケーション力	・ お互いの気持ちや感情を理解・尊重し合いながら、適切なタイミングや表現方法で自分の感情や意思を伝えたり、受け止めたりして、信頼関係を築くことができる力
⑧主体性	・ 自分の意志や判断によって責任をもって行動する姿勢、および遂行しようとする意欲
⑨自己管理能力	・ 自分の目標や目的を達成するため、または集団のルールの中で自分の役割を果たすために、自分を律し、管理し、自己を分析することができる力
⑩自己肯定感	・ 自分のあり方を積極的に評価できる感覚、および自分の価値や存在意義を肯定できる感覚
⑪実行力	・ 「目的のために行動する力」をベースとし、自分または集団の目標や目的の方向性を適切に見極めたうえで、計画を立案し、遂行することができる力
⑫統率力	・ 他者の行動を統制してチームを1つにまとめ、そのチームを率いてチーム全体の目標や目的の達成のために行動することができる資質や力
⑬創造性	・ 突然出現するものではなく、長い年月を要する基礎的な努力に加え、熱中して物事に取り組むことや様々な経験を積み重ねた結果として築かれるもので、新奇で独創かつ生産的な発想を考え出すこと、またはその姿勢
⑭探究心	・ 物事の本質を捉えようとする姿勢、および本質や意義について、より掘り下げて見極めようとする意欲、および好奇心
⑮共感性	・ 他者と喜怒哀楽の感情を共有すること、またはそれらを感じ取ることができる感性 ・ 自然、生き物に対する愛情や畏敬の念
⑯道徳心	・ 道徳を守る心 ・ 善悪を判断し、善を行おうとする心
⑰倫理観	・ 人として守り行ふべき道、倫理（善悪・正邪の判断において普遍的な規準となるもの）についての考え方や捉え方
⑱規範意識	・ 道徳、倫理、および法律等の社会のルールを守ろうとする意識
⑲公共性	・ 価値観が違ふと思われる組織、集団、社会での自分の役割を理解し、その責務を果たそうとする姿勢

ここまでの内容を整理し、各機関が提唱する能力の要素まとめたものが、次頁表IVである。

表Ⅳ 各機関が提唱する「21世紀型能力」の要素のまとめ

		要素	1 幼児期において育みたい資質・能力の三つの柱	2 生きる力	3 人間力	4 社会人基礎力	5 キャリア教育	6 学士力	7 課題探求能力	8 大学院に求められる人材養成機能	9 就職基礎能力	10 キー・コンピテンシー
			文部科学省(2016)	文部科学省(1996)	内閣府(2003)	経済産業省(2006)	文部科学省(2006)	文部科学省(2008)	文部科学省(1998)	文部科学省(2005)	厚生労働省(2004)	OECD(2003)
認知能力		①基礎学力			●						●	
		②基礎的な知識・技能	●	●	●		●	●		●※1	●	●
		③専門性・専門知識			●		●	●		●		
非認知能力	認知能力に区分される場合もある	④問題解決力	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		⑤批判的思考力	●※2		●			●	●	●		●
		⑥協調性	●	●	●	●	●	●			●	●
		⑦コミュニケーション力	●	<●>	●	●	●	●		●	●	●
		⑧主体性	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		⑨自己管理能力	●	●	●	●	●	●		●	●	●
		⑩自己肯定感	●	<●>	●		●					
		⑪実行力				●	●	※3	※3	※3		●
		⑫統率力			●		●	●				
		⑬創造性		<●>	●	●	●	●	●	●		
		⑭探究心	●	●				●	●	●	●	
		⑮共感性	●	●								
		⑯道徳心	●	<●>								
		⑰倫理観	●※4				●	●		●	●	
		⑱規範意識	●	<●>	●			●			●	
		⑲公共性	●	<●>	●		●	●		●	●	●

<●>の要素については、提言には記載がみられないが参考にする。

※1 大学院では「知識・技能」

※2 幼児の段階では「思考力」

※3 高等教育期の提言には記載がみられないが、他の発達段階との関連から考察した結果、当然のこととして捉えられ記載されていないと解釈した。

※4 幼児の段階では「共感性」

2 本調査で対象とする能力の要素

表Ⅰに示した10の提言のうち、高等教育機関に関連する文部科学省による提言(1)学士力(2008年)、(2)課題探求能力(1998年)、(3)大学院に求められる人材養成機能(2005年)、および参考として(4)新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて(2012年)から、高等教育期において習得が要求される能力は、14の能力の要素(前頁の表参照)であることがわかった。

また、厚生労働省による提言(5)就職基礎能力(2004年)においては11の能力が対応しており、このうち「基礎学力」が上記の14の能力以外の能力である。

以上から、本調査においては、①基礎学力、②基礎的な知識・技能、③専門性・専門知識、④問題解決力、⑤批判的思考力、⑥協調性、⑦コミュニケーション力、⑧主体性、⑨自己管理能力、⑫統率力、⑬創造性、⑭探究心、⑰倫理観、⑱規範意識、⑲公共性の15の能力の要素を対象とした。

これらをまとめたものが、次頁表Ⅴである。

なお、提言に明記されていない⑪実行力については、当然のこととして捉えられているため記載されていないと解釈している。したがって、本調査においては、提言に明記されている15の能力を調査対象とした。

表Ⅴ 高等教育期に該当する能力の要素

	能力の要素	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
認知能力	①基礎学力					●
	②基礎的な知識・技能 ※1)	●	○	●	●	●
	③専門性・専門知識	●	○	●	●	
非認知能力	④問題解決力	●	●	●	●	●
	⑤批判的思考力	●	●	●	●	
	⑥協調性	●	○		●	●
	⑦コミュニケーション力	●	○	●	●	●
	⑧主体性	●	●	●	●	●
	⑨自己管理能力	●	○	●	●	●
	⑩自己肯定感					
	⑪実行力 ※2)	※	※	※	※	
	⑫統率力	●	○		●	
	⑬創造性	●	●	●	●	
	⑭探究心	●	●	●	●	●
	⑮共感性 ※3)					
	⑯道徳心 ※4)					
	⑰倫理観	●	○	●	●	●
	⑱規範意識	●	○		●	●
	⑲公共性	●	○	●	●	●

(1)学士力(2008)

学士課程教育の構築に向けて 中央教育審議会(答申)

(2)課題探求能力(1998)

21世紀の大学像と今後の改革方策 についてー競争的環境の中で個性が輝く大学ー 大学審議会(答申)

(3)大学院に求められる人材養成機能(2005)

新時代の大学院教育ー国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けてー

(4)新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて(2012年)

新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けてー生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へー 中央教育審議会(答申)

(5)就職基礎能力(2004)

若年者就職基礎能力獲得のための目安策定委員会報告書

●：同答申の能力の要素として明記されている項目

○：同答申の能力の要素に関する記載から読み取ることができる項目

※1) ②基礎的な知識・技能は、大学院では、「知識・技能」とする。

※2) ⑪実行力は、高等教育機関に関する提言には見られない。当然のこととして捉えられているため記載されていないと解釈している(上記の表に※で記載)。

※3) ⑮共感性は、高等教育期では、⑥協調性、⑦コミュニケーション力、⑰倫理観に統合されると判断した。

※4) ⑯道徳心は、学習指導要領に基づくもの。高等教育期では、⑰倫理観、⑱規範意識に統合されると判断した。

<補 足>

⑩自己肯定感は、上記の提言等には該当項目はなく、初等中等教育期までに確立され、それ以降、様々な能力を発揮する際の基盤として必要な要素であると判断した(高等教育機関や就業先で教育する内容とは捉えていないということであって、大学生や社会人に自己肯定感が必要ないということではない)。

「高等教育機関における人材育成」に関する実態調査

《2017 年（平成 29 年）9 月～11 月実施》

報 告 書

2018 年 6 月 15 日発行

一般財団法人 日本生涯学習総合研究所

〒105-0003 東京都港区西新橋 1-20-10

TEL. 03-3539-3785